HONDA

ZR-V e:HEV

OWNER'S GUIDE

オーナーズガイド

デジタルオーナーズマニュアルのご紹介

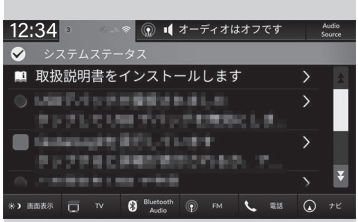
Honda CONNECT ディスプレイ装備車ではディスプレイ上で取扱説明書の内容を閲覧することができます。

■ 取扱説明書をインストールする

はじめてデジタルオーナーズマニュアルを利用するときは、車両をWi-Fiスポット※に接続して、取扱説明書をインストールする必要があります。



1. **HOME** ボタン → **本体設定** → **接続** → **Wi-Fi** から Wi-Fi スポットを選択する。



2. 画面上部をタップする。
   ▶ 通知の一覧が表示されます。
3. **取扱説明書をインストールします**のメッセージを選択する。
   ▶ バージョン画面が表示されます。



4. **更新**を選択する。
   ▶ インストールが開始されます。
5. インストール完了後、**OK** を選択する。
   ▶ バージョン画面が再度表示されます。

※: 取扱説明書のインストールに車内 Wi - Fi は使用できません。

■ 取扱説明書を閲覧する



アプリ一覧 → **取扱説明書**
から閲覧することができます。

はじめに
ビジュアル目次
目次
安全なドライブ 1
計器の見かた 2
各部の操作 3
オーディオ 4
運転 5
メンテナンス 6
万一の場合には 7
こんなときは 8
資料 9
索引

はじめに

このオーナーズガイドは基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要となる情報が掲載された簡易取扱説明書です。詳しい取扱情報は詳細取扱説明書に掲載されていますので、車両にお乗りになる際には、詳細取扱説明書もお読みください。

■詳細取扱説明書のご案内

Honda ホームページにて、詳細取扱説明書を電子データ形式（HTML 版/PDF 版）で、ご提供しています。
取扱説明書の提供ページで、モデル名と年式を選択し、閲覧をしてください。

取扱説明書の提供ページ
https://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/

なお、Honda ホームページからは、検索ボックスに『取説』と入力することで、この提供ページを検索できます。

QR コード読み取り機能付のスマートフォンやタブレット PC をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちのスマートフォンやタブレット PC 取扱説明書をご確認ください。

また、紙書籍版の詳細取扱説明書は、Honda 販売店にて、ご購入いただけます。
ご購入を希望される方は、Honda販売店にご相談ください。

検索のしかた

本書に記載の内容を探すにあたって、下記の検索方法を設けています。

1　ビジュアル目次
車両のイメージイラストに装備名称とその装備の説明ページ番号を記載しています。名称が分からない装備を調べるときや、装備の取付位置から内容を調べたいときにご利用ください。

2　目次
本書の各章と記載内容をページ番号順に記載しています。
本書の記載内容から調べたいときにご利用ください。

3　索引
装備名称や本書の記載内容を数字・アルファベット・五十音順に記載しています。
装備名称や記載内容から調べたいときにご利用ください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

車両データの記録

■車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します（車内の映像や音声は記録しません。）。

- 車両の状態（車速など）
- 運転状態（アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況）
- SRS エアバッグシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

■データの取り扱いについて

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。

Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車、レンタカーの場合は借主の同意）がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

ワイヤレスによるシステムアップデートについて*

この車のアプリケーションは、お客様のオーディオ装置及び接続されたデバイス固有のHonda ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容を定期的に Honda のサーバーに送信します。

車両および接続されたデバイス情報、車台番号、モデルタイプ識別番号、ハードウェアおよびソフトウェアの部品番号、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、設定言語、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ（アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス等）

お客様の個人情報

Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。

Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト

（https://www.honda.co.jp/privacy/hm/）を参照してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

取扱説明書表示機能について*

この車のオーディオ装置には取扱説明書を表示するアプリケーションが搭載されており、ソフトウェアの更新を自動的に Honda のサーバーへ問い合わせます。アプリケーションは、次の内容を Honda の定める任意のタイミングで Honda のサーバーに送信します。

車台番号、オーディオ装置のシリアル番号、設定言語、取扱説明書バージョン、インターネットプロトコルアドレス、データ処理のログ（アラートまたは更新の表示、更新のダウンロードとインストール、ソフトウェアステータス、表示ページおよび検索キーワード等）

お客様の個人情報

Honda に送信された前述の情報がお客様の個人情報となる場合、当該情報は、個人情報保護法に従って扱われます。

Honda は、送信された情報をソフトウェアのアップデートに利用するほか、Honda のプライバシーポリシーに従って取扱います。詳細については、Honda Web サイト

（https://www.honda.co.jp/privacy/hm/）を参照してください。

Honda Total Care プレミアム

Honda CONNECT を搭載したクルマと緊急サポートセンターやスマートフォンがつながることで、お客様のカーライフがさらに安心・ストレスフリーになるコネクテッドサービスを受けることができます。ご利用になるにはお申込み・ご契約が必要です。Honda Total Care プレミアムの詳しいサービスの内容、およびご契約については Honda Total Care プレミアムのホームページをご覧ください。

https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

また、本書では、Honda Total Care プレミアムのサービスをご利用されるうえで、車両側の特有部分について説明があります。サービスをご利用になる際は、ホームページの詳細説明とともに本書の内容もご参照ください。

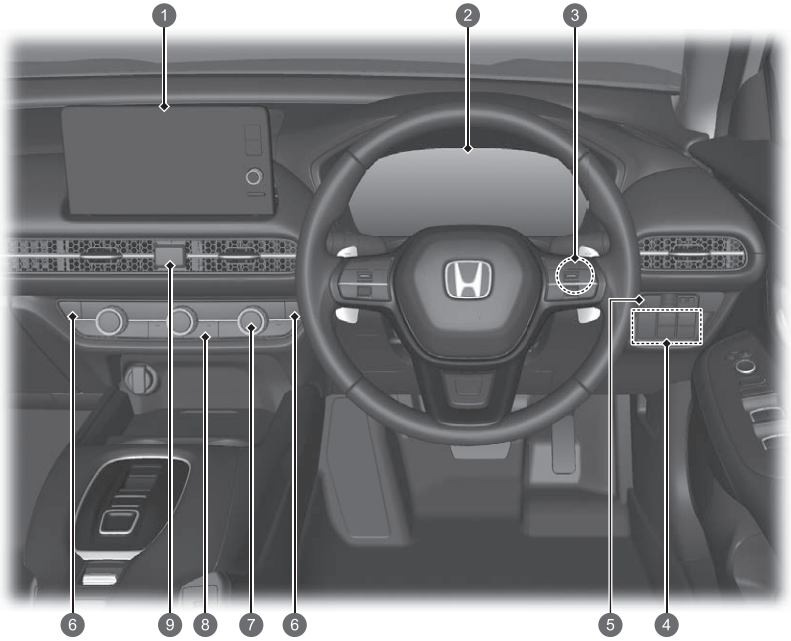
サービス内容並びに仕様について予告なく変更、または終了することがあります。

■車両特有部分について

- 緊急通報 P.333
- トラブルサポート P.334

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次

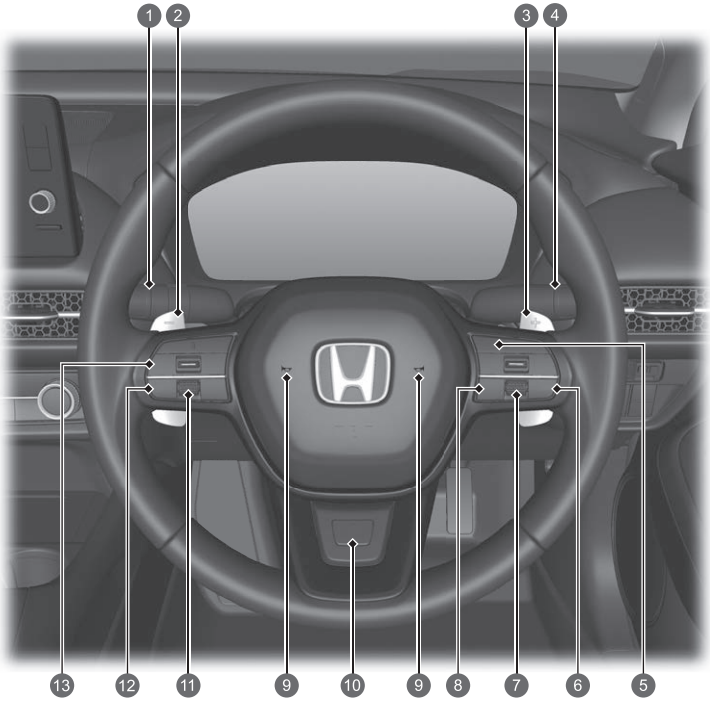


1. Honda CONNECTディスプレイ*※1
2. メーター (P. 64)
   警告灯 (P. 52)
   表示灯 (P. 58)
   マルチインフォメーションディスプレイ (P. 67, P. 70)
3. POWER スイッチ (P. 104)
4. (VSA OFF)スイッチ (P. 165)
   フロントガラス熱線スイッチ* (P. 118)
   ヘッドライトレベリングダイヤル* (P. 107)
   パワーテールゲートボタン (P. 98)
5. ETC 車載器*※2
6. シートヒータースイッチ* (P. 138)
7. オートエアコン (P. 140)
8. リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラー* スイッチ (P. 117)
9. 非常点滅表示灯(ハザードスイッチ)

※1: 別冊の「Honda CONNECT ディスプレイ」取扱説明書を参照してください。
※2: ETC 車載器については、別冊の取扱説明書を参照してください。

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

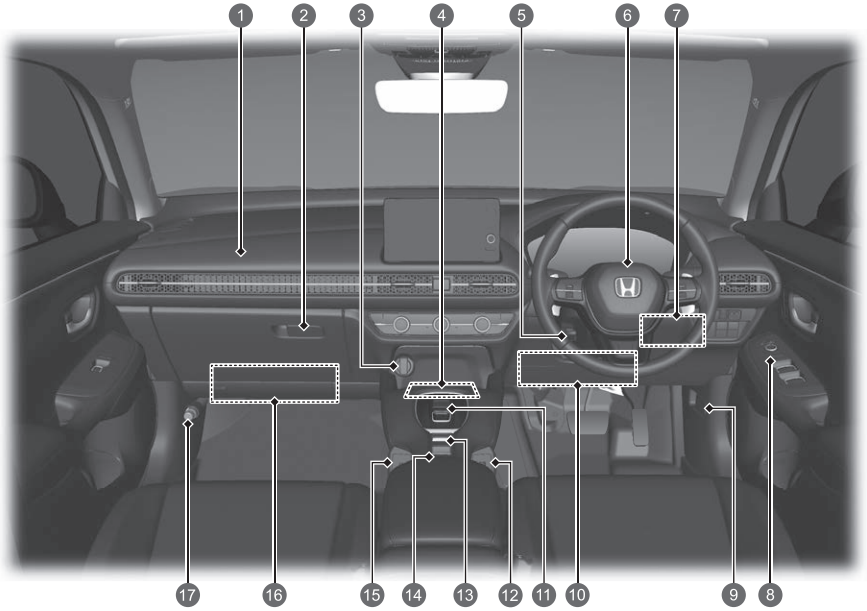


1. ワイパー/ ウォッシャースイッチ (P. 115)
   マルチビューカメラシステム* (P. 259)
2. 減速セレクター(−) (P. 156)
3. 減速セレクター(+) (P. 156)
4. ライト /方向指示器(ウィンカー)スイッチ (P. 105)
5. 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)スイッチ (P. 198)
6. LKAS スイッチ (P. 216)
7. ライトセレクターホイール (P. 70)
8. ディスタンススイッチ (P. 208)
9. ホーンスイッチ(周辺)
10. ステアリングヒーター* (P. 137)
11. レフトセレクターホイール (P. 68)
12. 発話スイッチ※
13. オーディオリモートコントロールスイッチ※

※: Honda CONNECT ディスプレイ装備車は、別冊の「Honda CONNECT ディスプレイ」取扱説明書を参照してください。

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

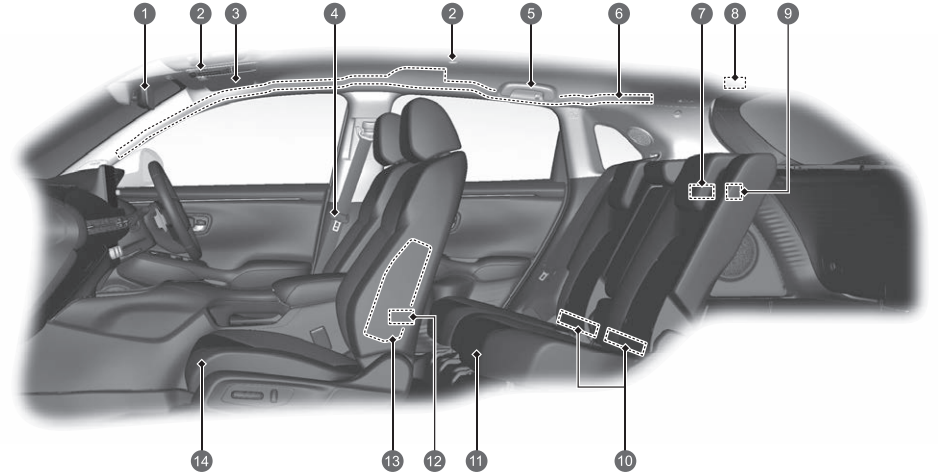


❶ SRSエアバッグシステム(助手席用) (P. 26)
❷ グローブボックス (P. 128)
❸ アクセサリーソケット (P. 134)
❹ ワイヤレス充電器* (P. 136)
❺ ハンドル位置調節レバー (P. 118)
❻ SRSエアバッグシステム(運転席用) (P. 26)
❼ 室内運転席側のヒューズボックス (P. 327)
❽ ドアミラー調節スイッチ (P. 119)
マスタードアロックスイッチ
パワーウィンドースイッチ (P. 102)
❾ ボンネット解除ノブ (P. 276)
❿ 運転席ニーエアバッグ (P. 28)
⓫ シフトポジションスイッチ (P. 151)
⓬ USB ジャック※
⓭ ドライブモードスイッチ (P. 159)
(ヒルディセントコントロール)スイッチ (P. 163)
⓮ Ⓟパーキングブレーキスイッチ (P. 239)
オートマチックブレーキホールドスイッチ (P. 243)
⓯ 充電専用 USB ジャック (P. 135)
⓰ 助手席ニーエアバッグ (P. 28)
⓱ 発炎筒 (P. 298)

※: Honda CONNECT ディスプレイ装備車は、別冊の「Honda CONNECT ディスプレイ」取扱説明書を参照してください。

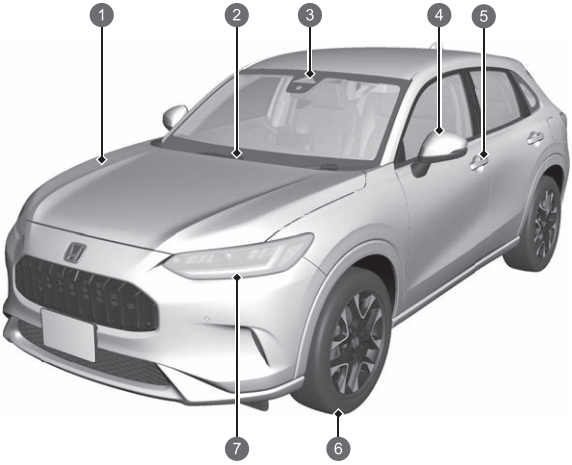
参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



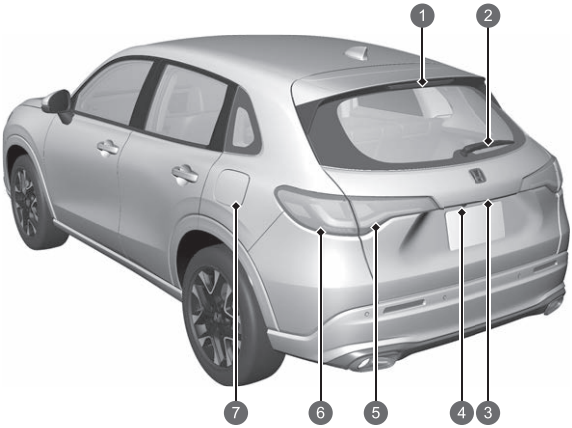
❶ ルームミラー (P. 119)
❷ 室内灯 / マップランプ (P. 128)
❸ サンバイザー
バニティミラー
❹ シートベルト (P. 17)
❺ グラブレール
コートフック (P. 130)
❻ サイドカーテンエアバッグシステム (P. 32)
❼ カーゴスペース照明灯 (P. 128)
❽ 分離収納式シートベルト (P. 22)
❾ アクセサリーソケット (P. 134)
❿ ISOFIX/i-Size 取付装置 (P. 44)
⓫ リヤシート (P. 124)
⓬ 充電専用 USB ジャック (P. 135)
⓭ サイドエアバッグシステム (P. 30)
⓮ フロントシート (P. 120)

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。



❶ エンジンルーム内のメンテナンス
(P. 275)
❷ ワイパー (P. 115, P. 281)
❸ フロントワイドビューカメラ (P. 236)
❹ ドアミラー (P. 119)
ドアミラーウィンカー (P. 279)
❺ ドアの施錠 / 解錠 (P. 87)
❻ タイヤ (P. 284, P. 299)
❼ ヘッドライト (P. 105, P. 279)
デイタイムランニングライト / 車幅灯
(P. 105, P. 279)
ウィンカー (P. 279)

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。



❶ ハイマウントストップランプ (P. 280)
❷ リヤワイパー (P. 117, P. 282)
❸ テールゲートの開閉 (P. 94)
番号灯 (P. 105, P. 280)
❹ リアワイドカメラシステム*※ (P. 258)
マルチビューカメラシステム*
(P. 259)
❺ 尾灯 (P. 105, P. 279)
後退灯 (P. 280)
❻ 尾灯 (P. 105, P. 279)
制動灯 (P. 279)
ウィンカー (P. 279)
❼ 給油のしかた (P. 270)

※: 別冊の「Honda CONNECT ナビ」もしくは「Honda インターナビシステム」取扱説明書を参照してください。

参照ページの記載がない装備については詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

目次

■はじめに …… 1
検索のしかた …… 1
安全に関する表示 …… 2
その他の表示 …… 2
車両データの記録 …… 3
ワイヤレスによるシステムアップデートについて* …… 4
取扱説明書表示機能について* … 5
Honda Total Care プレミアム … 5
■安全なドライブ …… 16
安全なドライブのために …… 16
安全のための確認事項 …… 16
シートベルト …… 17
シートベルトについて …… 17
シートベルトの着用 …… 20
シートベルトの点検 …… 24
シートベルトのアンカーポイント …… 25
エアバッグ …… 25
エアバッグの種類 …… 25
SRS エアバッグ …… 26
ニーエアバッグ …… 28
サイドエアバッグ …… 30
サイドカーテンエアバッグ …… 32
エアバッグシステム警告灯 …… 33
エアバッグのお手入れ …… 34
お子さまの安全 …… 35
お子さまの安全を守るために … 35
乳幼児の安全 …… 36
大きなお子さまの安全 …… 47
排気ガスの危険性 …… 49
一酸化炭素について …… 49
■計器の見かた …… 50
警告灯と表示灯 …… 50
警告灯 …… 52
表示灯 …… 58
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ …… 64
メーター …… 64
マルチインフォメーションディスプレイ　左側 …… 67
マルチインフォメーションディスプレイ　右側…… 70
■各部の操作 …… 86
時計の時刻を合わせる …… 86
ドアの施錠と解錠 …… 87
キー …… 87
Honda スマートキーの微弱電波…… 88
車外でのドアの施錠 / 解錠 …… 90
車内での施錠 / 解錠 …… 93
チャイルドプルーフ …… 94
テールゲート …… 94
テールゲート開閉時の注意 …… 94
パワーテールゲートの開閉 …… 95
セキュリティシステム …… 100
イモビライザーシステム …… 100
セキュリティアラームシステム…… 101
ウィンドーの開閉 …… 102
パワーウィンドーの開閉 …… 102
ハンドルまわりのスイッチ操作 …… 104
POWER スイッチ …… 104
ライトの使い方 …… 105
アクティブコーナリングライト* …… 106
ヘッドライトレベリングダイヤル* …… 107
オートハイビーム* …… 108
アダプティブドライビングビーム* …… 111
ワイパー / ウォッシャー …… 114
リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー* スイッチ …… 117
フロントガラス熱線スイッチ* …… 118
ハンドルの調節 …… 118
ミラー類の調節 …… 119
ルームミラー …… 119
ドアミラー …… 119
サイドアンダーミラー* …… 120

シートの調節 …… 120
フロントシート …… 120
リヤシート …… 124
リアシートリマインダー …… 125
ヘッドレスト …… 125
アームレスト …… 127
室内灯 …… 128
収納装備 …… 128
その他の室内装備品 …… 134
エアコン …… 140
エアコンの吹き出し口 …… 140
オートエアコンの使いかた … 140
オートエアコンのセンサー … 141
■オーディオ …… 142
オーディオ装置* …… 142
■運転 …… 143
運転の前に …… 143
運転の準備 …… 143
運転操作 …… 145
パワーシステムの起動 …… 145
走行時の注意点 …… 149
トランスミッション
について …… 151
シフト操作 …… 151
減速セレクター …… 156
車両接近通報装置 …… 158
ドライブモードスイッチ …… 159
ヒルディセント
コントロール …… 162
VSA（ビークルスタビリティ
アシスト）…… 163
アジャイルハンドリング
アシスト …… 165
リアルタイム AWD
（インテリジェント・コントロー
ル・システム）* …… 166
ブラインドスポット
インフォメーション* …… 166
高電圧バッテリーの特性 …… 170
ご使用時の注意 …… 171
ハイブリッド車特有の音
について …… 172
Honda SENSING …… 173
各機能を作動させるための
スイッチと表示…… 174
衝突軽減ブレーキ（CMBS）… 175
踏み間違い衝突軽減
システム…… 183
路外逸脱抑制機能 …… 188
歩行者事故低減
ステアリング…… 193
渋滞追従機能付アダプティブクルー
ズコントロール（ACC）…… 197
車線維持支援システム
（LKAS）…… 213
トラフィックジャムアシスト
（渋滞運転支援機能）…… 220
先行車発進お知らせ機能 …… 227
標識認識機能 …… 230
フロントワイドビュー
カメラ…… 236
ソナーセンサー …… 238
ブレーキ操作 …… 239
ブレーキシステム …… 239
ABS（アンチロックブレーキ
システム）…… 247
電子制御ブレーキアシスト … 248
エマージェンシーストップ
シグナル…… 248
駐停車操作 …… 249
駐車する …… 249
パーキングセンサー
システム…… 251
後退出庫サポート* …… 255
リアワイドカメラシステム* … 258
**マルチビューカメラ
システム*** …… 259
マルチビューカメラの画像を
表示させるには…… 260
マルチビューカメラシステムの
制限…… 269
給油 …… 270
指定燃料について …… 270
給油のしかた …… 270

■メンテナンス …… 273
メンテナンスの前に …… 273
点検整備について …… 273
メンテナンスを安全に行うために …… 273
メンテナンスに関する注意事項 …… 274
エンジンルーム内のメンテナンス …… 275
エンジンルーム内のメンテナンス項目 …… 275
ボンネットを開ける …… 276
推奨エンジンオイル …… 277
ウィンドウォッシャー液の補給 …… 278
電球の交換 …… 279
ヘッドライト電球 …… 279
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球 …… 279
デイタイムランニングライト / 車幅灯電球 …… 279
アクティブコーナリングライト電球* …… 279
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球 …… 279
制動灯電球 …… 279
尾灯電球 …… 279
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球 …… 279
後退灯電球 …… 280
番号灯電球 …… 280
ハイマウントストップランプ電球 …… 280
その他の電球 …… 280
ワイパーブレードラバーの点検と整備 …… 281
ワイパーブレードラバーの点検 …… 281
フロントワイパーブレードの交換 …… 281
リヤワイパーブレードラバーの交換 …… 282
タイヤの点検と整備 …… 284
タイヤの点検 …… 284
タイヤとホイールの交換 …… 285
タイヤのローテーション …… 286
冬期のタイヤ …… 287
Honda スマートキー …… 288
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換 …… 288
エアコンのお手入れ …… 289
エアクリーンフィルター …… 289
清掃 …… 291
車内の清掃 …… 291
車外の清掃 …… 293
アクセサリーと改造 …… 296
アクセサリー …… 296
改造や部品交換について …… 296
■万一の場合には …… 298
工具、発炎筒 …… 298
工具の種類 …… 298
発炎筒 …… 298
パンクしたとき …… 299
パンクしたタイヤの応急修理 …… 299
ジャッキの取り扱い …… 310
ジャッキのかけかた …… 310
パワーシステムが起動しない … 313
パワーシステムの確認 …… 313
Honda スマートキーの電池が切れたとき …… 314
緊急時のパワーシステム起動方法 …… 315
緊急時のパワーシステム停止方法 …… 315
12V バッテリーがあがったとき …… 316
ジャンプスタートの方法 …… 316
オーバーヒート …… 318
オーバーヒートしたときの対処方法 …… 318
警告灯の点灯 / 点滅 …… 320
「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された …… 320

12V バッテリー充電警告灯が
点灯した …… 321
「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された …… 321
PGM-FI 警告灯が
点灯 / 点滅した …… 322
ブレーキ警告灯（レッド）が
点灯 / 点滅した …… 322
EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した … 323
ブレーキシステム警告灯（オレンジ）の点灯と同時にブレーキ警告灯（レッド）が点灯または
点滅した …… 323
トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した …… 324
ヒューズ …… 324
ヒューズの設置場所 …… 324
ヒューズの点検と交換 …… 329
けん引 …… 330
非常時のけん引 …… 330
フューエルリッドが解錠できないとき …… 331
テールゲートが開かないとき … 332
緊急時や車両トラブルのとき … 333
緊急通報 …… 333
トラブルサポート …… 334
■こんなときは …… 336
■資料 …… 339
仕様 …… 339
ソフトウェアに関する重要なお知らせ …… 340
■索引 …… 341

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
  ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.93
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
  ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  ➔ **フロントシート** P.120
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
  ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
  ➔ **フロントシート** P.120
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P.20
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
  ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
  ➔ **エアバッグ** P.25
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P.35
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを[P]にしているか？
  ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
  ➔ **シフト操作** P.151
- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残していないか？
  ▶ 炎天下などでは車内が高温になることがあります。車内にお子さまや介護を必要とされる方、ペットを残したままにしないようにしてください。

ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト
体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用
シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。
- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

⚠警告

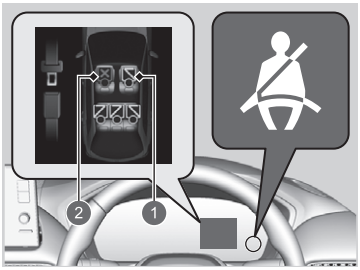
シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

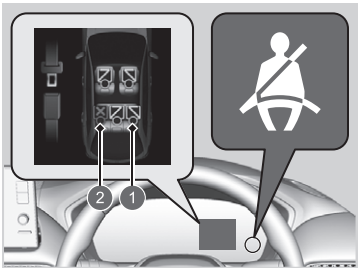
■ シートベルトリマインダー



■フロントシート

パワーモードを ON モードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーや警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

❶ シートベルト着用
❷ シートベルト未着用



■リヤシート

パワーモードをONモードにしたときや、パワーモードがONモードのときに後席ドアを開閉したり、リヤシートベルトを着脱すると、マルチインフォメーションディスプレイに各座席の装着状態が表示されます。
運転中にリヤシートベルトを外すと、ブザーと警告灯でお知らせします。

❶ シートベルト着用
❷ シートベルト未着用

- 運転席、助手席または後席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- 助手席に荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子さまや小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

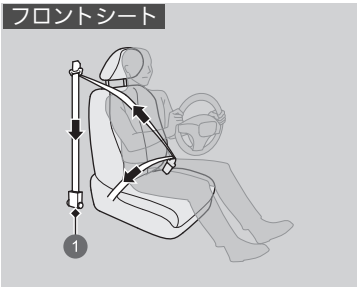
シフトポジションを R にしたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートおよびリヤシート外側 2 座席にはシートベルトプリテンショナーを装備しています。

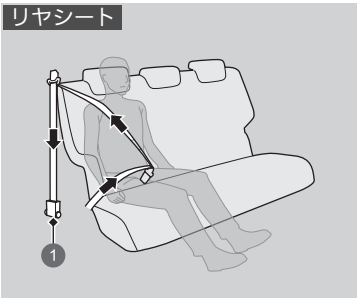
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

フロントシート



❶ シートベルトプリテンショナー

リヤシート



❶ シートベルトプリテンショナー

⚠注意

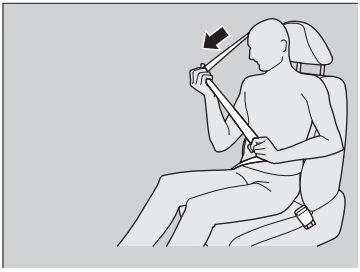
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。
衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

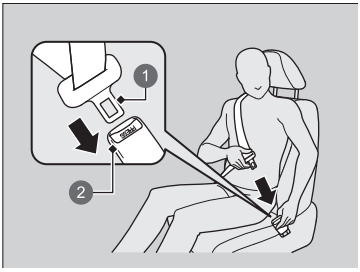
側面からの衝突により、両側のシートベルトプリテンショナーが作動します。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用

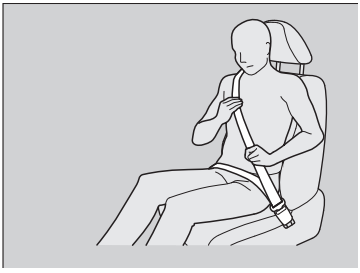


1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。

❶ タングプレート
❷ バックル



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
   ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
   ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
   ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

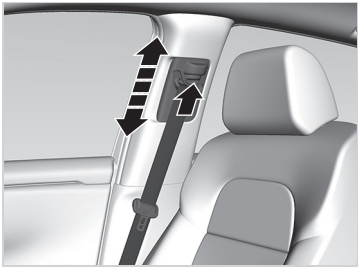
シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。
シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

➔ **シートベルトについて** P.17
➔ **シートベルトの点検** P.24

■ ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながら、アンカーを上下に動かす。
2. ちょうどよい高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

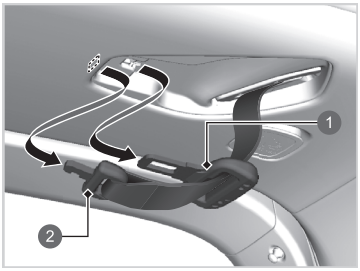
⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

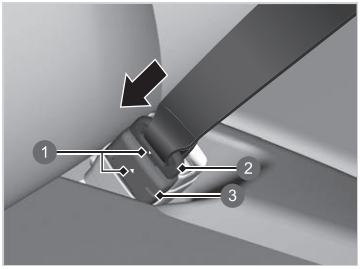
ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

■ 分離収納式シートベルト



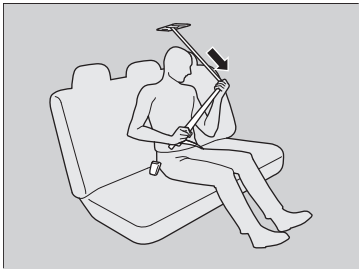
1. 天井の固定部からシートベルトのタングプレートとラッチプレートを外す。

❶ タングプレート
❷ ラッチプレート

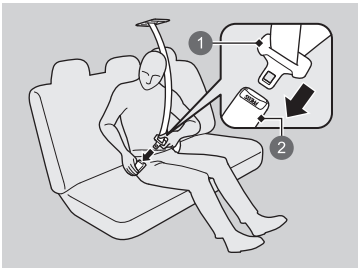


2. ラッチプレートを引き出し、▲マークがついているバックルに差し込む。
   ▶ ラッチプレートの▼マークとバックルの▲マークを合わせて差し込みます。

❶ ▲/▼ マーク
❷ ラッチプレート
❸ バックル

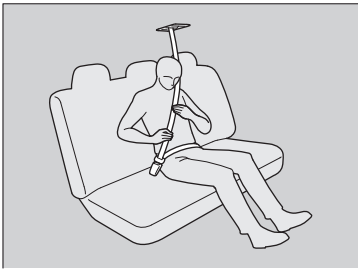


3. 正しい姿勢でシートにすわる。
4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。



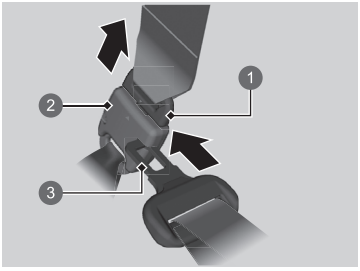
5. タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

❶ タングプレート
❷ バックル



6. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを▲マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。



❶ ラッチプレート
❷ バックル
❸ タングプレート

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

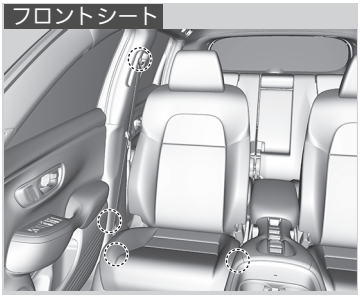
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

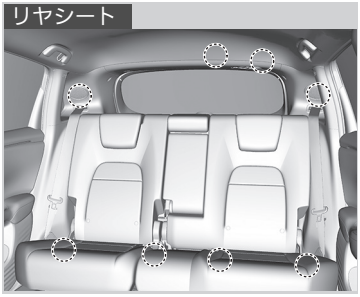
ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



リヤシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグ

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。
エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**:フロントシートの前方向エアバッグ
- **ニーエアバッグ**:ハンドルの下とグローブボックスの下にあるエアバッグ
- **サイドエアバッグ**:フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**:窓側の天井部両側についたエアバッグ

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS:サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

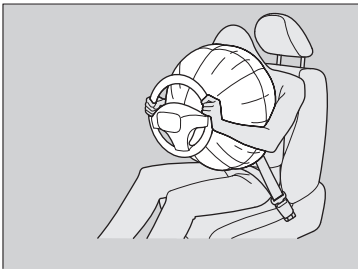
■ 格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

■SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRS エアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。
- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRSエアバッグが作動することがあります。
- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

⚠注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

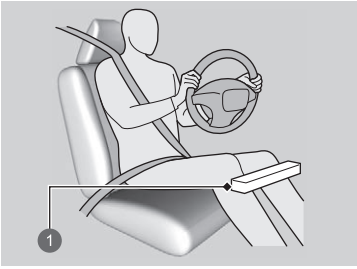
ニーエアバッグ

運転席、助手席それぞれの膝の前にあるエアバッグです。前方向からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の衝撃緩和を補助します。

⚠注意

ニーエアバッグ格納部やその周辺にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーなどをつけたりしない。
ニーエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときにものが飛んでけがをする原因になります。

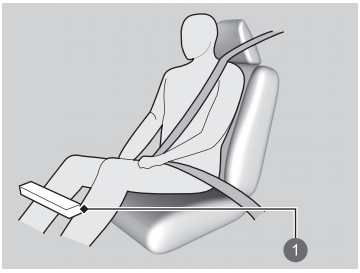
■ 格納場所



ニーエアバッグは運転席のハンドル下側、助手席はグローブボックス下側に格納されています。

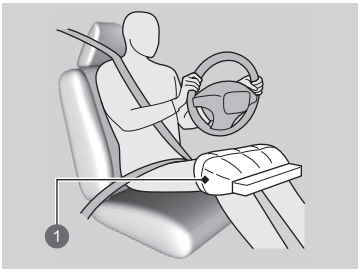
どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

❶ 格納場所



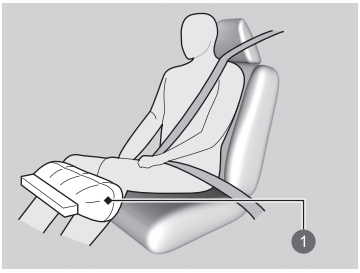
❶ 格納場所

■ 作動のしくみ



運転席または助手席の SRS エアバッグが膨らむと、ニーエアバッグも膨らみます。

❶ ニーエアバッグ



❶ ニーエアバッグ

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、ニーエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、ニーエアバッグが作動しないことがあります。
- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とニーエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。
側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

⚠注意

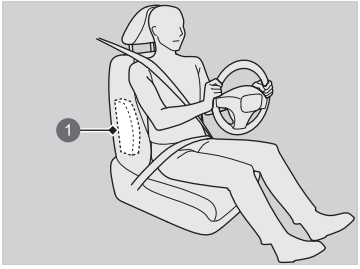
ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたってはHonda販売店にご相談ください。

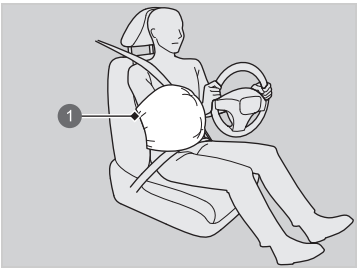
■ 格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

❶ 格納場所

■ 作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

❶ サイドエアバッグ

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てください。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

⚠注意

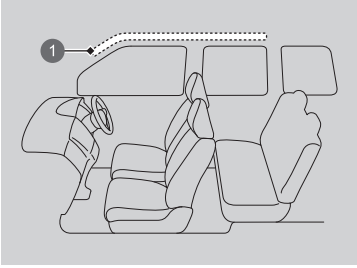
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

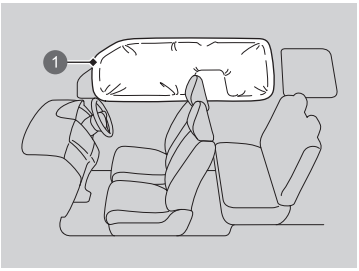
■ 格納場所



❶ サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ



❶ サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

➡ **作動条件** P.31

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。
収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ エアバッグシステム警告灯



■パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードをONモードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

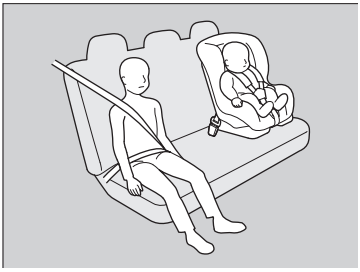
一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはリヤシートに乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



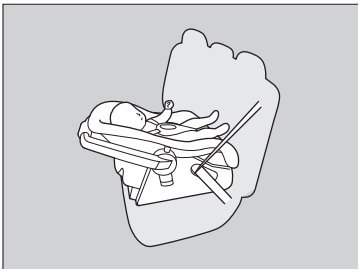
シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。
- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートに設置することができます。

▶ 推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

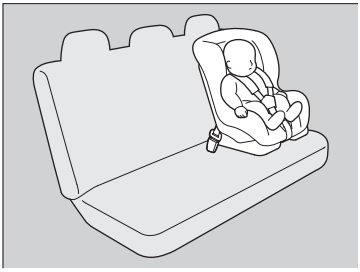
⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。
助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■前向きのチャイルドシートの設置場所

リヤシートへの設置を推奨します。

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■ チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に付属している下部取付金具とトップテザー取付金具またはサポートレッグで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること。
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの規格

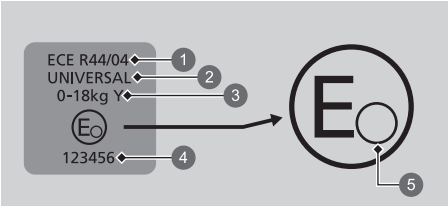
UN基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたはISOFIX/i-Sizeチャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは取り付けが簡単です。

ISOFIX/i-Sizeチャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

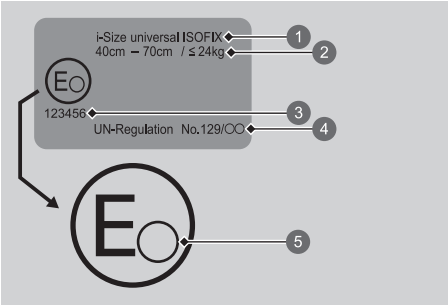
Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN R44 認可表示(例)



❶ 法規番号
❷ カテゴリー
❸ 体重範囲
❹ 認可番号
❺ 国番号

UN R129 認可表示(例)



❶ カテゴリー
❷ 身長範囲 / 体重範囲
❸ 認可番号
❹ 法規番号
❺ 国番号

■ シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付ける汎用(ユニバーサル)チャイルドシートに適している
	i-Size およびISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1：シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2：ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※3：チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けできない場合は一番上に上げてください。上げてもこの干渉が避けられない場合には取り外してください。
なお、取り外したヘッドレストは急制動時や衝突時に飛ばないように荷室に収納すること。
また、チャイルドシートを取り外した場合はヘッドレストを元の座席に取り付け、ロックされていることを確認してください。
ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
※4：後席中央席にチャイルドシートを取り付けると左側席のシートベルトが使用できなくなる可能性があります。
※5：後席中央席にブースターシートを取り付けると左側席のシートベルトが使用できなくなります。

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けられない場合は、ヘッドレストを最も高い位置に上げてください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size　チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

	サイズグループ 重量 身長		シートの位置及びシート位置番号 ❶ 助手席 ※1 ※7	❷ 後席（左側）	❸ 後席（中央）※3	❹ 後席（右側）
ベルト固定の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	Group 0	Up to 10kg	無	有	有※4	有
	Group 0+	Up to 13kg				
	Group I	9-18kg	有※2	有	有※4	有
	Group II	15-25kg				
	Group III	22-36kg				
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）	≦ 150cm		無	有	無	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有 / 無）※6	Honda 純正チャイルドシートリスト参照		有	有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	—		無	無	無	無
搭載可能な最大の後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	Group 0	Up to 10kg	無	R3	無	R3
	Group 0+	Up to 13kg				
	Group I	9-18kg				
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	Group I	9-18kg	無	F3	無	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	≦ 150cm		B3	B3	B3※5	B3

※1: シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2: ベルトユニバーサルタイプを取り付ける時はシートバックを最も前のロック位置に調節してください。
※3: チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けできない場合は一番上に上げてください。上げてもこの干渉が避けられない場合には取り外してください。
なお、取り外したヘッドレストは急制動時や衝突時に飛ばないように荷室に収納すること。
また、チャイルドシートを取り外した場合はヘッドレストを元の座席に取り付け、ロックされていることを確認してください。
ただし、ブースタークッションのみを使用する場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。
※4: 後席中央席にチャイルドシートを取り付けると左側席のシートベルトが使用できなくなる可能性があります。
※5: 後席中央席にブースターシートを取り付けると左側席のシートベルトが使用できなくなります。
※6: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。
Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります、チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。
※7: チャイルドシートは前向き取り付けのみです。

- チャイルドシートがヘッドレストに干渉して安定して取り付けられない場合は、ヘッドレストを最も高い位置に上げてください。
- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。

⚠警告

シートベルトは必ず正しく着用する
シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	学童	前	狭幅
ISO/B3	学童	前	全幅

■ 推奨チャイルドシート

UN R44 適合チャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	カテゴリー
0 10kg 未満 (0-9ヶ月)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定 (後向き)
0 + 13kg 未満 (0-2 歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(後向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定 (後向き)
I 9kg-18kg (9ヶ月 -4 歳)	Honda ISOFIX Neo	準汎用 ISOFIX(前向き)
	スタンダード	汎用シートベルト固定 (前向き)
II、III 15kg-36kg (4-12 歳)	Honda ジュニアシート	汎用シートベルト固定

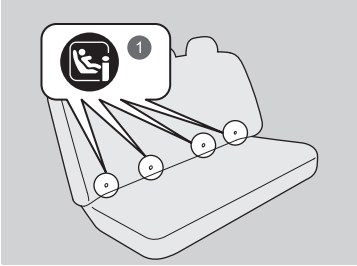
UN R129 適合チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size(後向き)
身長 71cm 以上 かつ月齢15ヶ月以上ー身長 100cm 以下		i-Size

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

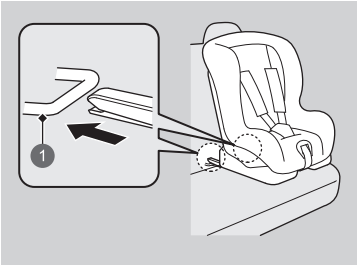
■ ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシート外側 2 座席に設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



1. マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。

❶ マーク



2. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。
   ▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

❶ 下部取付金具

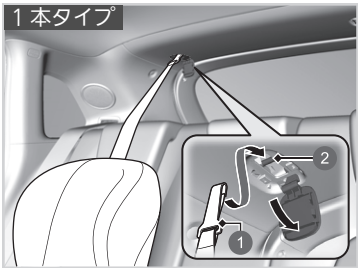


❶ トップテザー取付金具シンボル

⚠注意

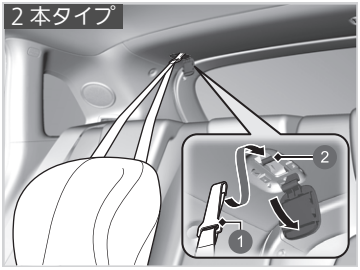
トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

1 本タイプ



❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具

2 本タイプ



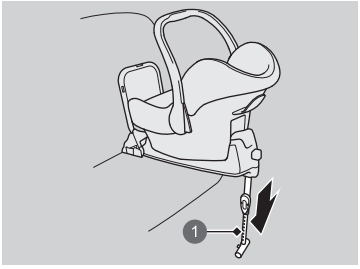
❶ トップテザーストラップ
❷ トップテザー取付金具

トップテザーストラップ付きチャイルドシート

3. カバーを開ける。
4. トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。
   ▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。
5. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

⚠注意

下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。



❶ サポートレッグ

サポートレッグ付きチャイルドシート

3. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。
   ▶ サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。
   ▶ 設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

⚠注意

リヤシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

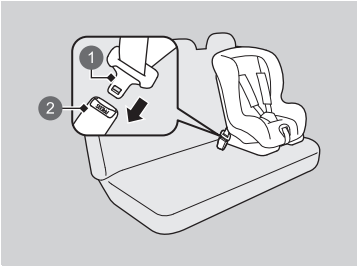
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠注意

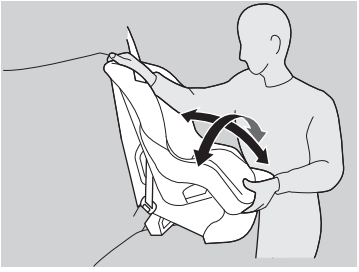
チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

■ シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
   ▶ チャイルドシートがヘッドレストに当たる場合は、ヘッドレストを最上段で固定します。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。

❶ タングプレート
❷ バックル



3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

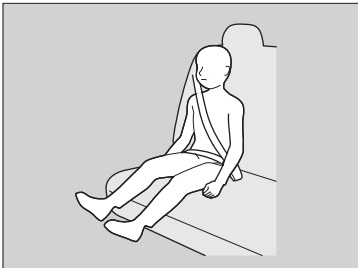
■ チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

大きなお子さまの安全

■ シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



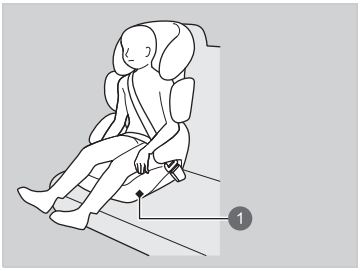
■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか?
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか?
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか?
- 乗車中、無理なくすわっていられるか?

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。
お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。
やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

■ ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

❶ ジュニアシート

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

この車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯

警告灯や表示灯は、車両状態に応じて点灯 / 点滅します。
点灯 / 点滅と同時にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従いHonda販売店に連絡するなどして対処してください。

- ※1 ブレーキ警告灯(レッド) P.52
- ※1 ブレーキシステム警告灯(オレンジ) P.53
- ※1 パワーシステム警告灯 P.53
- ※1 PGM-FI 警告灯 P.53
- ※1 12V バッテリー充電警告灯 P.53
- シートベルト非着用警告灯 P.54
- トランスミッション警告灯 P.54
- 燃料残量警告灯 P.54
- ※1 ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯 P.54
- ※1 エアバッグシステム警告灯 P.55
- ※1 VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯 P.55
- VSA OFF 警告灯 P.55
- ※1 EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 P.55
- パーキングセンサー警告灯 P.55
- 方向指示器 / 非常点滅表示灯 P.58
- ライト点灯表示灯 P.59
- ハイビーム表示灯 P.59
- ※1 オートハイビーム*/ アダプティブドライビングビーム*表示灯 P.59
- シフトポジション表示灯 P.60
- 減速セレクター表示灯 P.60
- READY READY 表示灯 P.60
- ※1 EV 表示灯 P.60

※1: これらの警告灯と表示灯は、パワーモードをONモードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

NORMAL	NORMAL モード表示灯	P.60
SPORT	SPORT モード表示灯	P.60
ECON	ECON モード表示灯	P.60
SNOW	SNOW モード表示灯	P.60
BRAKE HOLD ※1	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	P.61
Ⓐ ※1	オートマチックブレーキホールド表示灯	P.61
※1	ヒルディセントコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	P.61
	インフォメーション表示灯	P.61
	クルーズコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	P.62
	車間距離設定表示灯	P.62
○	イモビライザーシステム表示灯	P.59
○	セキュリティアラームシステム作動表示灯	P.59

※1	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	P.56
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	P.61
※1	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	P.56
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト / グリーン)	P.62
※1	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	P.56
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)	P.62
※1	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	P.56
	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	P.62
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	P.56
※1	安全支援情報警告灯(オレンジ)	P.57
	安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)	P.63

※1: これらの警告灯と表示灯は、パワーモードをONモードにしたときに点灯し、パワーシステム起動後または、数秒後に消灯します。
点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯(レッド)	• パーキングブレーキをかけると点灯	• パワーモードがアクセサリーモードまたはOFFモードのときにパーキングブレーキをかけるとしばらく点灯した後、消灯 • パーキングブレーキがかかっているときにパワーモードをOFFモードにするとしばらく点灯した後、消灯
		• ブレーキフルード量が低下したときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合は Honda 販売店にご連絡ください。 ➔ **ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した** P.322
		• ブレーキシステムが異常のときに点灯	• ABS　警告灯と同時に点灯した場合も、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した** P.322 • ブレーキシステム警告灯(オレンジ)と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
		• 電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅	• パーキングブレーキが故障して作動しません。 ➔ **ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した** P.322

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキシステム警告灯（オレンジ）	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。
		• 電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯	• 点灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
POWER SYSTEM	パワーシステム警告灯	• パワーシステムが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。
	PGM-FI 警告灯	• エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	➔ **PGM-FI警告灯が点灯/点滅した** P.322
	12V バッテリー充電警告灯	• 充電システムに異常があるときに点灯	• 走行できません。ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➔ **12V バッテリー充電警告灯が点灯した** P.321

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 • パワーモードがONモードのときに、リヤシートのシートベルトを外すとしばらく点灯 • 走行中にシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	• シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 • シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ➡ **シートベルトリマインダー** P.18
	トランスミッション警告灯	• トランスミッションが異常のときに点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行できません」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。
		• トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションを P にできないときに点滅	• 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 8.0 リットルになったときです。
		• 燃料計に異常があるときは点滅	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	• ABS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ➡ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.247

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	エアバッグシステム警告灯	• エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯	• VSA が作動しているときは点滅	—
		• VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、アジャイルハンドリングアシストのいずれかが異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➡ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.163
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
	VSA OFF 警告灯	• VSA を OFF にすると点灯	➡ **VSA（ビークルスタビリティアシスト）** P.163
	EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯	• EPS システム、ドライバー注意力モニターが異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。 ➡ **EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した** P.323
	パーキングセンサー警告灯	• パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅	➡ **パーキングセンサーシステム** P.251

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)	• 渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	車線維持支援システム(LKAS)警告灯(オレンジ)	• LKAS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警告灯(オレンジ)	• CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➡ **安全支援情報警告灯(オレンジ)** P.57
	路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)	• 路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯	• 安全支援情報警告灯(オレンジ)が同時に点灯します。 ➡ **安全支援情報警告灯(オレンジ)** P.57
	路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯	• 路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯	➡ **路外逸脱抑制機能** P.188

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション*、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS が異常のときに点灯	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• パーキングセンサーが異常のときに点灯	• パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。付着物を取り除いても点灯する場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **パーキングセンサーシステム** P.251
		• 12V バッテリー再接続後、システム初期化中のため点灯	• 車速20km/h以上でしばらく走行してください。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。
		• カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報警告灯(オレンジ)	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるときに点灯 雨、霧、雪など悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。
		ブラインドスポットインフォメーション装備車 • ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーが汚れると点灯 • ブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサーの温度が高温になると点灯	• 安全な場所に停車してブラインドスポットインフォメーションのレーダーセンサー周辺の汚れをふき取ってください。 • 温度が下がるとシステムは復帰します。 ➔ **ブラインドスポットインフォメーション*** P.166
		• バンパーのソナーに汚れ、氷、霜などの遮蔽物があると点灯	• 踏み間違い衝突軽減システムが作動しません。安全な場所に停車してバンパーの汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **ソナーセンサー** P.238 ➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.183

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器/非常点滅表示灯	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。
		• 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	➔ **エマージェンシーストップシグナル** P.248

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ライト点灯表示灯	• 車幅灯、尾灯などが点灯しているときに点灯	➡ **ライトの使い方** P.105
	ハイビーム表示灯	• ヘッドライトのハイビームが点灯しているときに点灯 • アダプティブドライビングビーム* が作動しているときに点灯	➡ **アダプティブドライビングビーム*** P.111
	オートハイビーム*/ アダプティブドライビングビーム* 表示灯	• オートハイビーム* または、アダプティブドライビングビーム* の動作条件がそろった時に点灯	➡ **オートハイビーム*** P.108 ➡ **アダプティブドライビングビーム*** P.111
表示灯 	イモビライザーシステム表示灯	• POWER を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• POWER を押したあと、点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。 • POWER のそばに、別のキーや金属があるとイモビライザーシステムがキーの情報を読み取れないことがあります。
	セキュリティアラームシステム作動表示灯	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➡ **セキュリティアラームシステム** P.101

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	シフトポジション表示灯	• 現在のポジションで点灯	➔ **シフト操作** P.151
	減速セレクター表示灯	• 減速セレクター作動時に減速の強さを表示 • 減速セレクターを操作しても減速の強さが変わらないと点滅 • SPORT モードのときに減速セレクターを作動させるとMが点灯	➔ **減速セレクター** P.156
	READY表示灯	• 走行の準備が完了すると点灯	➔ **パワーシステムの起動** P.145
	EV 表示灯	• モーターだけでの走行になると点灯	—
	NORMALモード表示灯	• ドライブモードがNORMALモードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ** P.159
	SPORTモード表示灯	• ドライブモードが SPORT モードのときに点灯	• SPORT モードのとき、アンビエントメーターが消灯して、メーターが赤色で点灯します。 ➔ **ドライブモードスイッチ** P.159
	ECONモード表示灯	• ドライブモードが ECON モードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ** P.159
	SNOWモード表示灯	• ドライブモードが SNOW モードのときに点灯	➔ **ドライブモードスイッチ** P.159

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	オートマチックブレーキホールドシステム表示灯	• オートマチックブレーキホールドシステムがONのときに点灯	➡ **オートマチックブレーキホールド** P.243
	オートマチックブレーキホールド表示灯	• オートマチックブレーキホールドが作動しているときに点灯	➡ **オートマチックブレーキホールド** P.243
	ヒルディセントコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	• ヒルディセントコントロールがONのときにホワイトで点灯 • ヒルディセントコントロールシステムが作動するとグリーンで点灯	➡ **ヒルディセントコントロール** P.162
	インフォメーション表示灯	• 異常を検知すると警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に点灯	• メッセージは、警告が解除されるか、ライトセレクターホイールを回すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにライトセレクターホイールを回し、メッセージを再表示させることができます。 ➡ **表示の切り換えかた** P.70
	渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯(ホワイト / グリーン)	• スイッチを押すとホワイトで点灯 • RES/+/SET/- スイッチを押し、渋滞追従機能付ACCが作動するとグリーンで点灯	➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.197

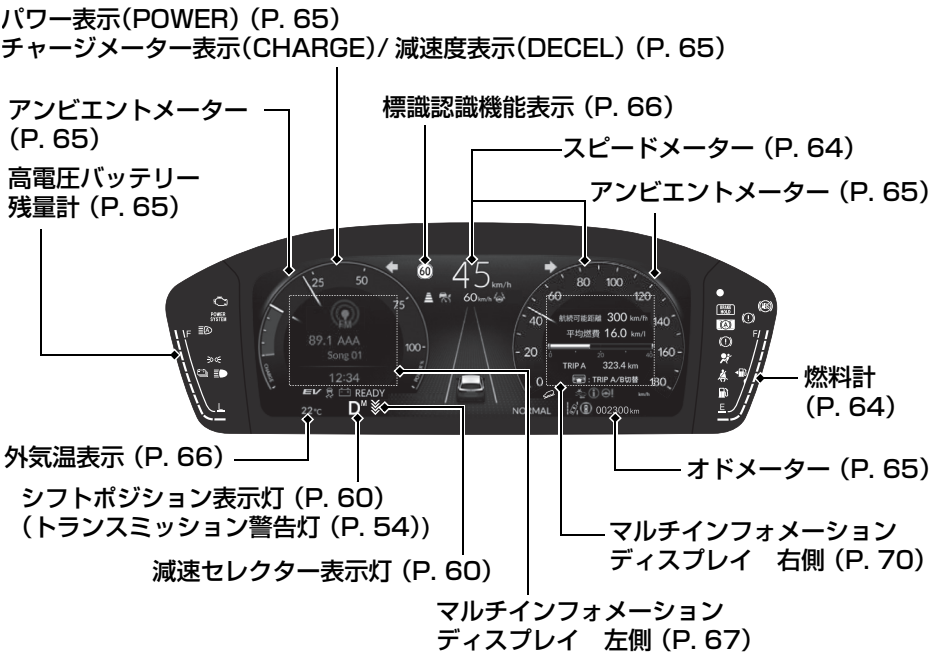
表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	車間距離設定表示灯	• 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯が点灯しているときに点灯	• ディスタンススイッチを押すごとに、先行車との車間距離設定を最長→長→中→短の順で切り替えることができます。 ➔ **車間距離を設定するには** P.208
	車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト/グリーン)	• LKASスイッチを押すとホワイトで点灯 • LKASが作動するとグリーンで点灯	➔ **車線維持支援システム(LKAS)** P.213
	クルーズコントロール表示灯(ホワイト / グリーン)	• クルーズモードが設定されたときにホワイトで点灯 • RES/+/SET/- スイッチを押し、クルーズモードが作動するとグリーンで点灯	➔ **クルーズモードへの切換え** P.211
	衝突軽減ブレーキ(CMBS)表示灯(グレー)	• CMBSをOFFにしているときに点灯	➔ **安全支援情報** P.77
	路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)	• 路外逸脱抑制機能を OFFにしているときに点灯	➔ **安全支援情報** P.77

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)	• 路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション*、踏み間違い衝突軽減システム、CMBS、パーキングセンサー警報がONのときにグリーンで点灯 • いずれかがONのときにグリーン / グレーで点灯 • すべてが OFF のときにグレーで点灯	➔ **ブラインドスポットインフォメーション*** P.166 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.175 ➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.183 ➔ **路外逸脱抑制機能** P.188 ➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.193 ➔ **パーキングセンサーシステム** P.251

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

●メーターデザインを変更することができます。
メーターデザイン (P. 80)



メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

■ スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■ 燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

■ パワー表示(POWER)

モーター出力の状態を表示します。

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

➔ **パワーフロー/ エンジン作動表示** P.71

■ チャージメーター表示(CHARGE)/ 減速度表示(DECEL)

高電圧バッテリーへの充電の状態を表示します。

減速セレクター作動時には減速の強さを表示します。

■ 高電圧バッテリー残量計

高電圧バッテリー内の充電量を表示します。

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

走行すると自動的に充電されます。

高電圧バッテリーの温度が変化すると、充電容量が上下することがあります。そのため充電量が変わらなくても、高電圧バッテリー残量計の表示が変化することがあります。

■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ アンビエントメーター

SPORT モードが OFF のときの運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

■ 外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、±3 ℃の範囲で補正することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

補正するには、マルチインフォメーションディスプレイの車両設定を使用します。

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

補正するには、オーディオ / インフォメーション画面の車両設定を使用します。

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

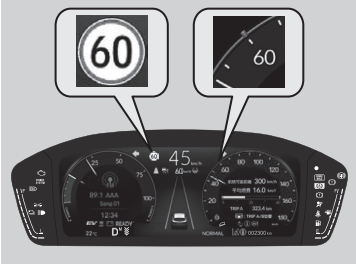
パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 3 ℃以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

■ 標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。

認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

➡ **標識認識機能** P.230



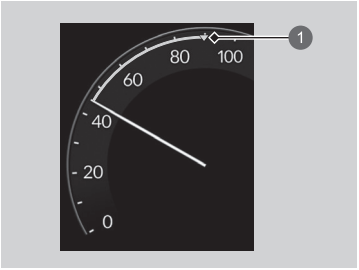
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)/ トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)表示

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)/ トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の現在の状態を表示します。

➡ **渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)** P.197
➡ **車線維持支援システム(LKAS)** P.213
➡ **トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)** P.220

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)またはクルーズコントロールで速度を設定すると、スピードメーターに設定した速度の位置にマークが表示されます。



❶ 設定速度

マルチインフォメーションディスプレイ　左側

時計や各種音楽メディア*、ハンズフリー電話* の情報を表示します。

■ 時計

時計を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイに表示される時計の ON/OFF を切り替えることができます。

➡ **表示設定** P.68

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車
Honda インターナビシステム非装備車
Honda CONNECT ナビ非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h)を変えたり時刻調整をすることができます。

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車
Honda インターナビシステム装備車
Honda CONNECT ナビ装備車

時計については、別冊の「Honda CONNECT ディスプレイ」、「Honda インターナビシステム」、または「Honda CONNECT ナビ」取扱説明書をご覧ください。

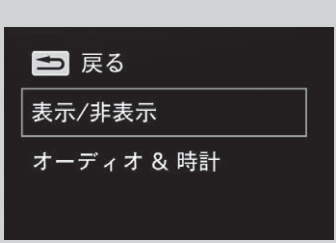
■ 表示設定

■オーディオソースの表示 / 非表示*

オーディオソースの表示 / 非表示を変更することができます。



1. レフトセレクターホイールを回し「表示設定」を選択し、押して決定する。



2. レフトセレクターホイールを回し「表示 / 非表示」を選択し、押して決定する。



3. レフトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択し、押して決定する。
   ▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■オーディオ* と時計の表示切り替え

オーディオと時計表示の ON/OFF を切り替えることができます。



1. レフトセレクターホイールを回し「表示設定」を選択し、押して決定する。



2. レフトセレクターホイールを回し「オーディオ　& 時計*/ 時計*」を選択し、押して決定する。



3. レフトセレクターホイールを回して　ON　または OFF を選択し、押して決定する。

設定変更するときはシフトポジションを P にしてください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

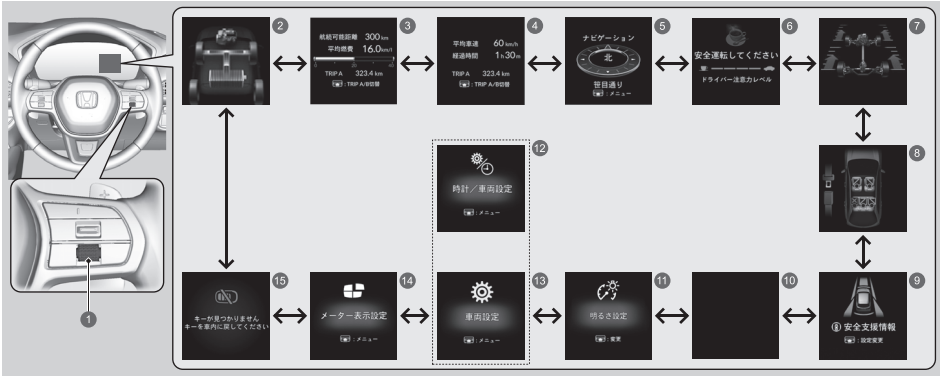
マルチインフォメーションディスプレイ　右側

マルチインフォメーションディスプレイには、航続可能距離や燃費などの情報や、車両状態などのメッセージが表示されます。
警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じてHonda販売店にご連絡し、点検を受けてください。
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン油圧異常」、「エンジン冷却水高温」または、「ブレーキ性能低下」が表示した場合は、下記を参照してください。

➔ **「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された** P.320
➔ **オーバーヒート** P.318
➔ **「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された** P.321

■ 表示の切り換えかた

ライトセレクターホイールを回すごとに画面が切り換わります。

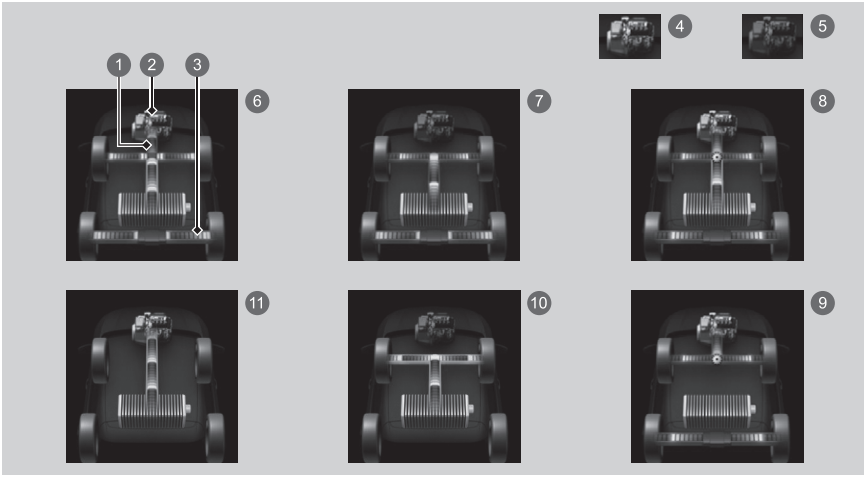


❶ ライトセレクターホイール
❷ パワーフロー/ エンジン作動表示 P.71
❸ 航続距離 / 燃費 / トリップメーター P.72
❹ 車速 / 経過時間 / トリップメーター P.73
❺ ナビゲーション* P.74
❻ ドライバー注意力モニター P.75
❼ AWD 駆動力配分表示* P.77
❽ シートベルト使用状況表示 P.77
❾ 安全支援情報 P.77
❿ なし
⓫ 明るさ設定 P.79
⓬ 時計 / 車両設定* P.81
⓭ 車両設定* P.81
⓮ メーター表示設定 P.80
⓯ 警告メッセージ P.81

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ パワーフロー/ エンジン作動表示

高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。



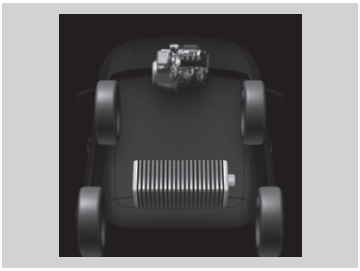
❶ パワーフロー表示
❷ エンジン作動表示
❸ 後輪側パワーフロー表示*
❹ エンジン作動中
❺ エンジン停止中
❻ **ハイブリッド走行:**エンジン作動とモーターアシスト(ブルー)
❼ **EV 走行:**モーターのみ作動(ブルー)
❽ **エンジン走行:**エンジン作動し高電圧バッテリーへ充電中(ブルー/ グリーン)
❾ エンジンのみ作動(ブルー)
❿ **回生:**高電圧バッテリーへ充電中(グリーン)
⓫ エンジン作動し高電圧バッテリーへ充電中(グリーン)

パワー表示(POWER)とチャージメーター表示(CHARGE)の動きとパワーフロー/ エンジン作動表示の動きは、状況により一致しない場合があります。

➡ **パワー表示(POWER)** P.65
➡ **チャージメーター表示(CHARGE)/ 減速度表示(DECEL)** P.65

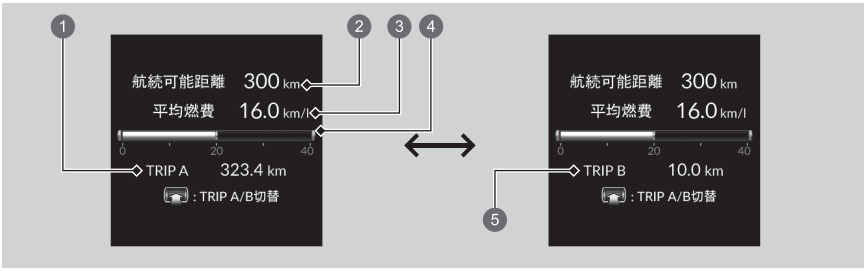
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



■ 航続距離 / 燃費 / トリップメーター

ライトセレクターホイールを押すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



❶ トリップメーターA
❷ 航続可能距離
❸ 平均燃費
❹ 瞬間燃費
❺ トリップメーターB

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

トリップメーターをリセットするには

リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でライトセレクターホイールを長押しし、「リセット」を選択してください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。
また、平均燃費表示、平均車速表示、経過時間表示も同時にリセットされます。

■平均燃費表示
トリップメーターA、Bと連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新してkm/lで表示します。

■瞬間燃費表示
瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■航続可能距離表示
高電圧バッテリーと燃料の残量、平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

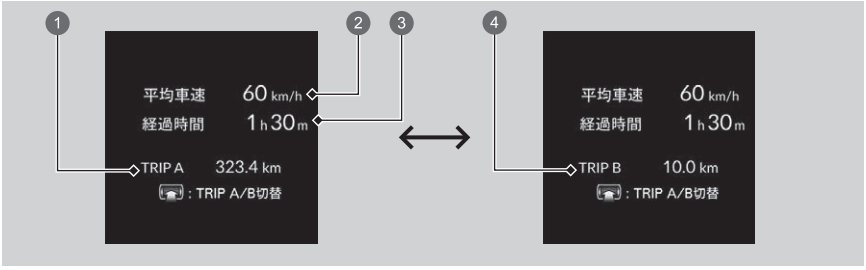
Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

■ 車速 / 経過時間 / トリップメーター
ライトセレクターホイールを押すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。



❶ トリップメーターA
❷ 平均車速
❸ 経過時間
❹ トリップメーターB

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ トリップメーター
➔ トリップメーター P.72

■ 経過時間表示
トリップメーターA、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

■ 平均車速表示
トリップメーターA、B をリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

経過時間表示は 999 時間 59 分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➔ 別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ 時計*/ 車両設定 P.81

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➔ 別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ 時計*/ 車両設定 P.81

■ ナビゲーション*

■ コンパス
コンパスが表示されます。

■ 交差点案内表示
ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➔ 別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書

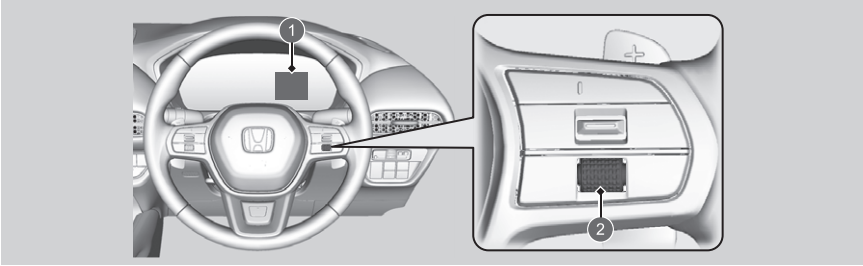
Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ 時計*/ 車両設定 P.81

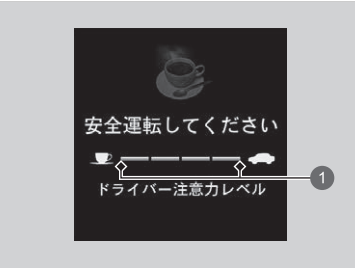
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ ドライバー注意力モニター

ドライバー注意力モニターは運転者のハンドル操作に応じて居眠り運転や不注意運転を検知します。システムが検知したハンドル操作に応じて、マルチインフォメーションディスプレイ内に運転者の注意力レベルを表示します。



❶ マルチインフォメーションディスプレイ
❷ ライトセレクターホイール



マルチインフォメーションディスプレイでドライバー注意力モニターを選択すると、ドライバー注意力レベルを白い目盛りで表示します。

➔ **表示の切り換えかた** P.70

❶ ドライバー注意力レベル



注意力の目盛りが2になると「ドライバー注意力レベル低下」が表示されます。



注意力の目盛りが1になると「ドライバー注意力レベル低下　休憩をとってください」が表示され、警報音とハンドル振動で運転者に知らせます。
このメッセージが表示されたら、安全な場所に車を停車し、十分に休憩をとってください。
ライトセレクターホイールを回すか、システムが運転を正常と判断するとメッセージが消えます。
運転者が休憩をとらず、システムが注意力低下を検知し続けた場合、15 分後にメッセージ表示、警報音、ハンドル振動により再度運転者に知らせます。
30 分未満の運転では、メッセージは表示しません。

■ ドライバー注意力モニターのリセット

次の場合にドライバー注意力レベルがリセットされます。

- パワーモードを OFF モードにしたとき
- 停車中に運転者がシートベルトを外し、ドアを開けたとき

■ ドライバー注意力モニターの作動条件

- 車速が 40km/h を超えているとき
- EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が消灯しているとき

■ ドライバー注意力モニターが作動しない事例

- 車線維持支援システム（LKAS）のステアリングアシスト作動中
- 道路の状態が悪い（舗装されていない道路や荒れた道路など）
- 風が強いとき
- 車線変更や加減速を多く繰り返す走行をしているとき

■ 設定の変更

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

マルチインフォメーションディスプレイを使用してシステムの設定をカスタマイズすることができます。

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

オーディオ / インフォメーション画面を使用してシステムの設定を変更することができます。

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

ドライバー注意力モニターは、運転者の疲労や注意力を常時検知するものではありません。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ドライバー注意力レベルの表示に関わらず、疲労を感じたときは、安全な場所で十分に休憩をとってください。

ドライバー注意力モニターが作動していないときは、ドライバー注意力レベル表示の目盛りがグレーになります。

■ リアルタイムAWD(インテリジェント・コントロール・システム)駆動力配分表示*



前輪と後輪の各トルク配分量を表示します。

➔ リアルタイム AWD(インテリジェント・コントロール・システム)* P.166

■ シートベルト使用状況表示

全席シートベルトの使用状況を表示します。

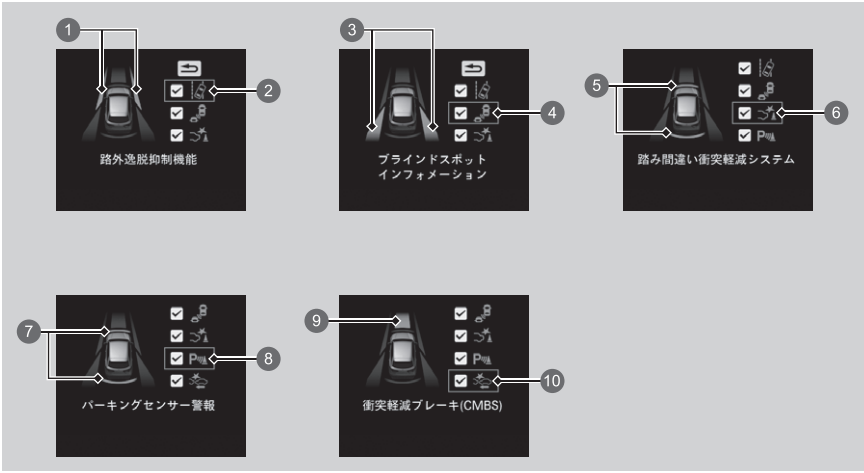
➔ シートベルトリマインダー P.18

■ 安全支援情報

安全支援情報は、路外逸脱抑制機能・歩行者事故低減ステアリング、ブラインドスポットインフォメーション*、踏み間違い衝突軽減システム、衝突軽減ブレーキ、パーキングセンサー警報の作動状態を表示します。

- グリーン:作動中
- グレー:停止中
- オレンジ:システムが異常のとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



❶ 路外逸脱抑制機能作動状態
❷ 路外逸脱抑制機能アイコン
❸ ブラインドスポットインフォメーション作動状態*
❹ ブラインドスポットインフォメーションアイコン*
❺ 踏み間違い衝突軽減システム作動状態
❻ 踏み間違い衝突軽減システムアイコン
❼ パーキングセンサー警報作動状態
❽ パーキングセンサー警報アイコン
❾ 衝突軽減ブレーキ作動状態
❿ 衝突軽減ブレーキアイコン

オレンジで表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

各機能の ON と OFF を切り換えるには、ライトセレクターホイールを回して機能を選択し、次にライトセレクターホイールを押して ON/OFF を切り換えます。

➔ **路外逸脱抑制機能** P.188
➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)** P.175
➔ **踏み間違い衝突軽減システム** P.183
➔ **歩行者事故低減ステアリング** P.193
➔ **ブラインドスポットインフォメーション*** P.166
➔ **パーキングセンサーシステム** P.251

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

各機能の状態は、警告灯・表示灯でも確認できます。

- **安全支援情報警告灯(オレンジ)** P.57
- **安全支援情報表示灯(グリーン / グレー)** P.63
- **衝突軽減ブレー キ(CMBS)警告灯(オレンジ)** P.56
- **衝突軽減ブレー キ(CMBS)表示灯(グレー)** P.62
- **路外逸脱抑制機能警告灯(オレンジ)** P.56
- **路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯** P.56
- **路外逸脱抑制機能表示灯(グレー)** P.62

踏み間違い衝突軽減システムアイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」をOFFにしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

- **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

- **時計*/ 車両設定** P.81

パーキングセンサー警報アイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後方のパーキングセンサー警報は作動しません。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

- **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

- **時計*/ 車両設定** P.81

■ 明るさ設定

「明るさ設定」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押す。

ライトセレクターホイールを回して明るさ調整を行います。
明るくする:ライトセレクターホイールを上に回す
暗くする:ライトセレクターホイールを下に回す

ライトセレクターホイールを押すと設定が完了します。

車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。

- 周囲が暗いときは照明が暗くなる
- 周囲が明るいときは照明が明るくなる

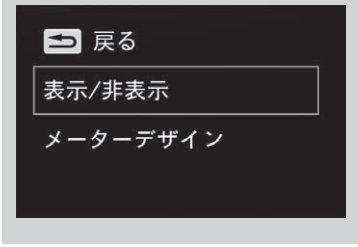
周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ メーター表示設定

■機能の表示 / 非表示

機能の表示 / 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。



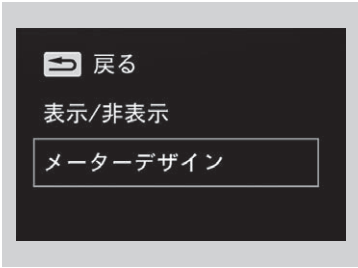
1.「メーター表示設定」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押す。
2. ライトセレクターホイールを回し「表示 / 非表示」を選択し、押して決定する。



3. ライトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択し、押して決定する。
▶ チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

■メーターデザイン

メーターデザインを 2 眼タイプまたは、バータイプに変更することができます。



1.「メーター表示設定」の画面が表示されているときにライトセレクターホイールを押す。
2. ライトセレクターホイールを回し「メーターデザイン」を選択し、押して決定する。



3. ライトセレクターホイールを回してお好みの設定を選択し、押して決定する。

文字色がグレーの機能を非表示にすることはできません。

設定変更するときはシフトポジションを[P]にしてください。

「2 眼 / シンプル」または「バー/ シンプル」を選択しているときに、渋滞追従付アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動すると、シンプルなメーター表示になります。

■ 警告メッセージ

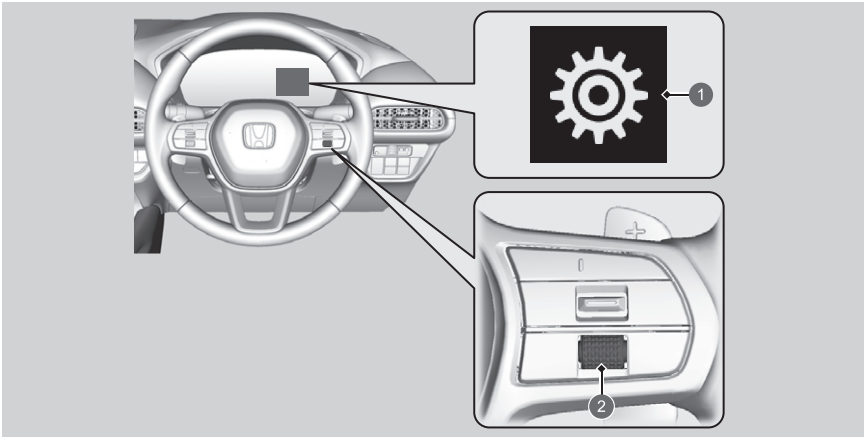
警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

複数のメッセージがある場合は、ライトセレクターホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

■ 時計*/ 車両設定

パワーモードが ON モードでシフトポジションが[P]のときに、ライトセレクターホイールを回して、⚙を選択します。ライトセレクターホイールを押すと、設定を変更することのできる「グループ」画面に切り換わります。



❶ マルチインフォメーションディスプレイ
❷ ライトセレクターホイール
- 回す:選択する
- 押す:決定する

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■設定項目

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせて設定を変更することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
時計設定✤	時刻調整	時(00 ～ 12※/00 ～ 23)、分(00 ～ 59)
	時計表示	24h、12h※、非表示
運転支援システム設定	衝突軽減ブレーキ(CMBS)警報距離	遠め、標準※、近め
	ACC 先行車検知音	有り、無し※
	先行車発進お知らせ設定	標準※、早め、OFF
	路外逸脱抑制機能設定	アシストタイミング早め、アシストタイミング標準※、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ
	LKAS(車線維持支援システム)制御解除警報音	ON、OFF※
	ブラインドスポットインフォメーション設定✤	警報音 / 警報表示※、警報表示
	標識認識機能表示	ON※、OFF
	標識認識機能速度超過お知らせ	ON※、OFF
	標識認識機能速度超過量	+0km/h※、+5km/h、+10km/h、+15km/h
	ドライバー注意力モニター	ステアリング振動と警報音※、ステアリング振動、OFF
	リアパーキングセンサー警報設定	ON※、OFF

※: 工場出荷時の設定

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
メーター設定	外気温表示補正	−3 ℃～ ±0 ℃※ ～ +3 ℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ※
	TRIP B 自動リセットタイミング	満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ※
	アラーム音量	大、中※、小
	アンビエントメーター照明色変化設定	ON※、OFF
	交差点案内表示✤	ON※、OFF
	リアシートリマインダー	ON※、OFF
Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量	大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動
ライティング設定	オートハイビーム	ON※、OFF
	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	デイタイムランニングライト	ON※、OFF
	ワンタッチターンシグナル	ON※、OFF
ドア設定	降車時オートドアロック	作動、非作動※
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	パワーウィンドウ（サンルーフ）キーレス連動	連動※、非連動
	オートリトラミラー格納	キーレス連動※、手動のみ
	予約ロック	ON※、OFF
パワーテールゲート設定	キーレス自動オープンモード	ロック時とアンロック時に作動※、アンロック時のみ作動
	テールゲートハンドル自動オープン	OFF（手動のみ）、ON（自動 / 手動）※
初期化設定		中止、実行

※：工場出荷時の設定

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A　自動リセットタイミング」を「満タン給油時」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A　自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. ライトセレクターホイールを回して、⚙が表示されたら、ライトセレクターホイールを押す。



2. ライトセレクターホイールを回す。
   ▶「グループ」画面に切り換わりますので、ライトセレクターホイールを回し、「メーター設定」を選択します。
3. ライトセレクターホイールを押す。
   ▶「メニュー」画面に切り換わります。



4. ライトセレクターホイールを回し、「TRIP　A　自動リセットタイミング」が表示されたら、ライトセレクターホイールを押す。
   ▶「セットアップ」画面に切り換わり、「満タン給油時」、「IGN OFF 時」、「手動のみ」が選択できます。



5. 「満タン給油時」が選択されていることを確認し、ライトセレクターホイールを押す。
   ▶「“満タン給油時”に設定しました」という画面が表示された後、「メニュー」画面に戻ります。



6.「戻る」が表示されたら、ライトセレクターホイールを押す。
7. **手順 6** の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

➔ **設定項目** P.82
➔ **カスタマイズ設定の例** P.84

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

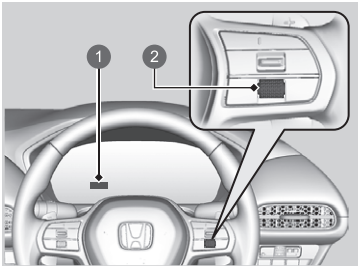
- パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにする
- シフトポジションを P 以外にする

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車
Honda インターナビシステム非装備車
Honda CONNECT ナビ非装備車

時計の時刻を合わせる

時計はメーターに表示されます。



パワーモードが ON モードでシフトポジションが P のときにライトセレクターホイールを回して表示を切り換え、ライトセレクターホイールを押して決定します。

❶ 時計
❷ ライトセレクターホイール

■時刻の調整



1. ライトセレクターホイールで「時計 / 車両設定」を表示させ、決定する。



2. ライトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。



3. ライトセレクターホイールで「時刻調整」を表示させ、決定する。
▶「時」の調整ができます。



4. ライトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. ライトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
▶「分」が設定されます。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車
Honda インターナビシステム装備車
Honda CONNECT ナビ装備車
ライトセレクターホイールを回しても時計調節表示に切り換わりません。

ドアの施錠と解錠

キー

パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠に使用できます。

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂やほこりを避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

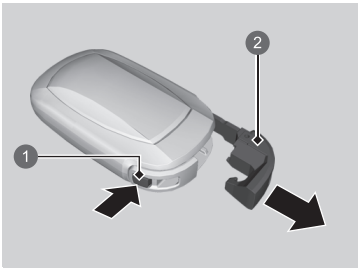
Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーの電池が切れたとき P.314

■ 内蔵キー



❶ ボタン
❷ 内蔵キー

Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、ボタンを押しながら取り出します。

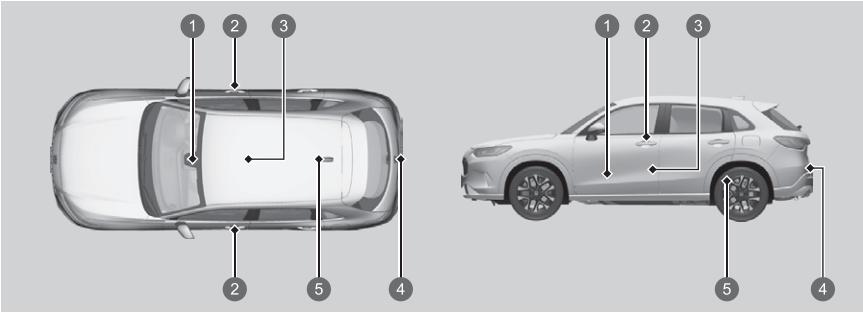
収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠 / 解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Hondaスマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。
そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



❶ 車室内発信機(インストルメントパネル下)
❷ 車室外発信機(前席アウターハンドル内)
❸ 車室内発信機(センターコンソール後方下)
❹ 車室外発信機(リヤバンパー内)
❺ 車室内発信機(カーゴスペース前方下)

⚠注意

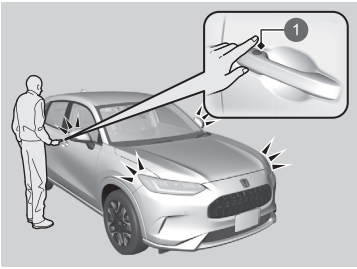
植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。
電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約 3 秒長押しするとインジケーターが 2 回点滅し、電波の受信が停止します。
Honda スマートキーのいずれかのボタンを 1 回押すと電波の受信が再開します。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

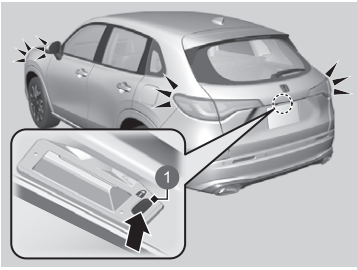


❶ ドアロックセンサー

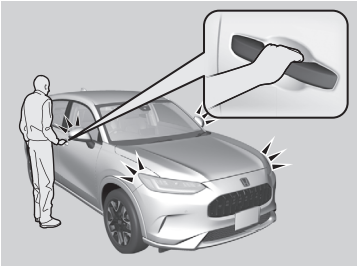
■施錠するには

フロントドアハンドルのドアロックセンサーに触れる、またはテールゲートのロックボタンを押します。

▶「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。



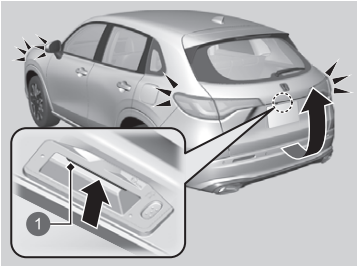
❶ ロックボタン



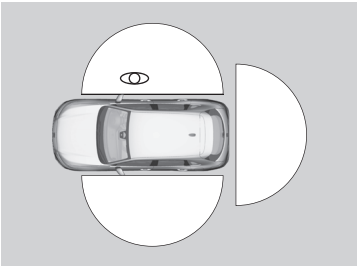
■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルを押します。

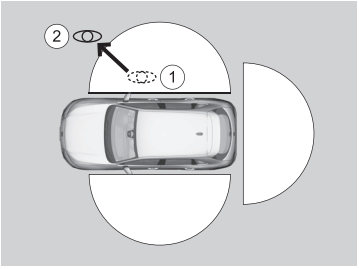
▶「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠します。



❶ テールゲートハンドル



オートロック機能の作動範囲



■施錠するには(降車時オートドアロック機能)

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、ドアが自動的に施錠します。

このオートロック機能は、以下の状態で Honda スマートキーが運転席、助手席ドアハンドル、テールゲートハンドルから周囲約 1.5m 以内にあるときに起動します。

- すべてのドア、テールゲートが閉まっている状態
- すべてのドアを閉めたあと、パワーテールゲートが自動で閉じ始めた状態

Honda スマートキーを携帯し、降車してドアを閉めてください。

1. そのまま約 1.5m 以内で待つ。
   ▶「ピッ」と音が鳴り、オートロック機能が起動します。
2. Honda スマートキーを携帯したまま、約 1.5m 以上離れて、約 2 秒待つ。
   ▶「ピッ」と音が鳴り、非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。
ON にするときは、カスタマイズ機能で設定を変更してください。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

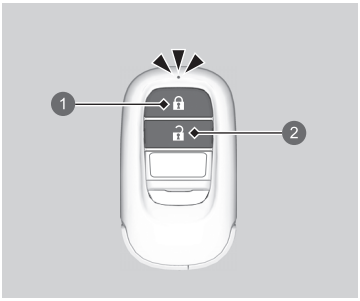
➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



❶ 施錠ボタン
❷ 解錠ボタン

■施錠

施錠ボタンを押します。

1 回目 :

▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

2 回目(施錠ボタンを押して 5 秒以内):

▶ アンサーバックブザーが鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

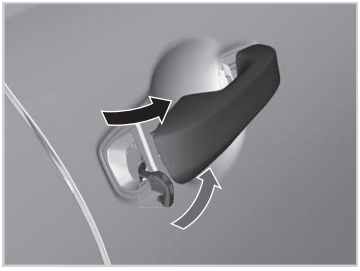
■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

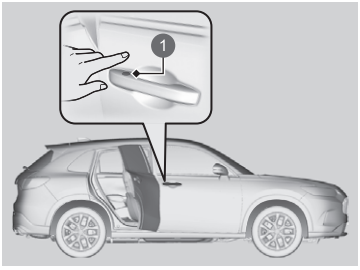
■ キーを差し込んでの解錠

Honda スマートキーのボタンで解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。
鍵穴はドアハンドルを引いた裏側にあります。



ハンドルの下にあるキーシリンダーに内蔵キーを挿入し、回します。

■ 予約ロック機能



❶ ドアロックセンサー

あらかじめ施錠操作をする事で、ドアやテールゲートを閉めた後、自動で施錠する機能です。
運転席ドアを閉めてから操作をしてください。

1. ドアロックセンサーに触れる、または Honda スマートキーの施錠ボタンを押します。
   ▶ 通知音が鳴り、予約ロックが設定されます。
2. 全てのドア、テールゲートを閉める。
   ▶ 施錠が完了すると通知音とハザード点滅で施錠を知らせます。

施錠が完了したことを確認してから車両から離れてください。

⚠注意

パワーテールゲートに指などを挟みこまないように注意する。
特にお子さまには気をつけてください。

予約ロックによる施錠が完了する前に閉まっているドアまたはテールゲートを開くと予約ロックはキャンセルされます。

予約ロックの ON/OFF 設定を変更することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

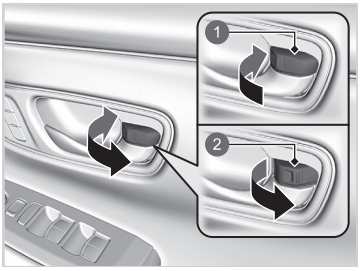
Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

施錠の際は車内にキーを置き忘れないようにしてください。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



■施錠するには
ノブを押し込みます。

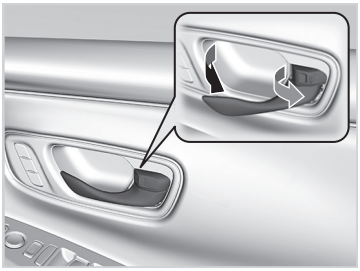
■解錠するには
ノブを引き出します。

❶ 施錠
❷ 解錠

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠 / 解錠されます。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠



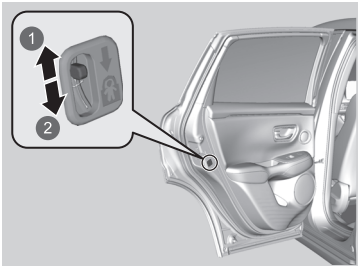
運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠します。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。お子さまをリヤシートに乗せるときなどにお使いください。

■ チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

❶ 解錠
❷ 施錠

テールゲート

テールゲート開閉時の注意

テールゲートを開閉するときは、下記の点に注意してください。

- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ テールゲートが破損するおそれがあります。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。
頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な損傷を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

カーゴスペース内に、人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

パワーテールゲートの開閉

キーレスエントリーシステム、運転席にあるパワーテールゲートボタン、テールゲートハンドルやハンズフリー機能*を使って、パワーテールゲートを自動で開閉することができます。

シフトポジションがPのとき、パワーテールゲートを操作できます。

⚠注意

パワーテールゲートを確実に閉め切るため、締め切り直前の部分に挟み込みを検知しないエリアがあります。指などをはさみ込まないように、注意してください。

パワーテールゲート装備車はテールゲートを開閉するときに、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
頭をぶつけたり、手などをはさんだりして重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

お子さまだけを車内に残さない。必ずHondaスマートキーを携帯してドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

アドバイス

パワーテールゲートが自動で開閉しているときはテールゲートに触れないでください。無理な力をかけると、フレームが変形するおそれがあります。

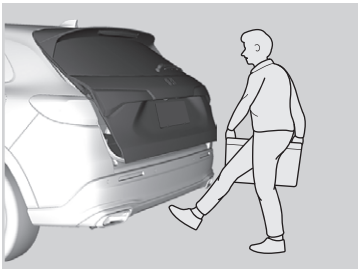
この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

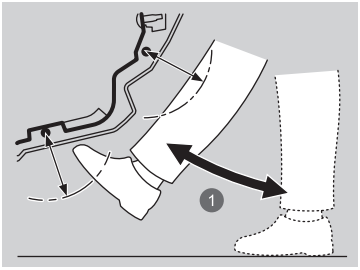
次のような場合はパワーテールゲートが確実に開閉しないことがあります。
- 自動開閉中にパワーシステムを起動したとき
- 傾斜している場所
- 風が強いとき
- パワーテールゲートやルーフに雪がつもっているとき(開閉する前に雪を取り除いてください)

パワーテールゲートにアクセサリーや字光式ナンバープレートを取り付ける場合は、Honda 販売店にご相談ください。

荷物の出し入れは、パワーテールゲートが完全に開ききったことを確認してから行ってください。

■ ハンズフリーアクセスパワーテールゲート*





Honda スマートキーを携帯し、片足のつま先をリヤバンパー中央の下へ入れて引くような動作を行うとテールゲートを自動で開閉することができます。

▶「ピー」とブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅し、テールゲートが動作します。

❶ 約 1 秒

雨のときや、車体に水分が付着しているとき、センサーが足の動きを検知できないことがあります。

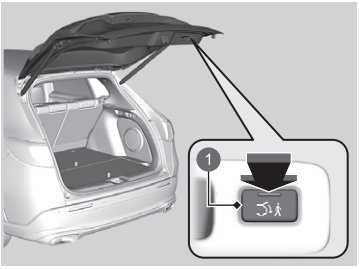
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

足による操作中にリヤバンパー中央の下のセンサーの検知範囲内で足をとどめた場合、パワーテールゲートが開閉しないことがあります。およそ 1 秒で足の操作を行ってください。

Honda スマートキーを携帯していないと開閉しません。Honda スマートキーを携帯していることを確認し、操作を行ってください。

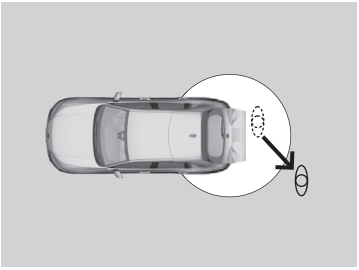
■ 予約クローズ

Honda スマートキーを携帯して車両から離れると、パワーテールゲートが自動で閉まります。



1. Honda　スマートキーを携帯し、ボタンを押します。
   ▶ 予約クローズの設定ができると、インジケーターが緑色に変わります。

❶ 予約クローズボタン

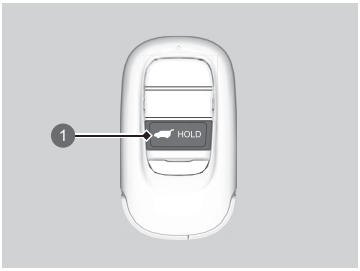


2. ボタンを押してから 30 秒以内に、車両から約 1m 離れます。
   ▶「ビー」とブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅し、テールゲートが閉まります。

降車時のオートロック機能の設定が ON のとき、すべてのドアとテールゲートが閉じると自動的に施錠されます。

➡ **施錠するには（降車時オートドアロック機能）** P.91

■ キーレスエントリーシステムで開閉する



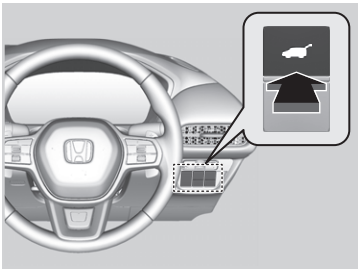
パワーモードが OFF モードのとき、パワーテールゲートボタンを長押しします。

▶「ピー」とブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅し、テールゲートが動作します。

動作中にパワーテールゲートボタンを押すと、動作を停止します。停止した状態でパワーテールゲートボタンを長押しすると、逆方向に動作します。

❶ パワーテールゲートボタン

■ パワーテールゲートボタンで開閉する

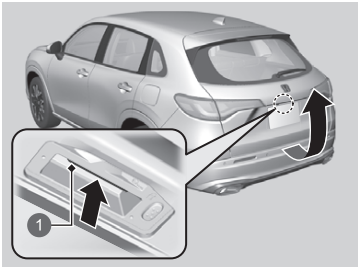


パワーテールゲートを開閉するために、パワーテールゲートボタンを長押しします。

▶「ピー」とブザーが鳴り非常点滅表示灯が点滅し、テールゲートが動作します。

動作中にパワーテールゲートボタンを押すと、動作を停止します。停止した状態でパワーテールゲートボタンを長押しすると、逆方向に動作します。

■ テールゲートハンドルで開閉する



テールゲートハンドルを押すと、自動で開きます。

▶「ピー」とブザーが鳴り、テールゲートが動作します。

▶ 手動で開きたいときは、テールゲートハンドルを約 1 秒以上押してください。

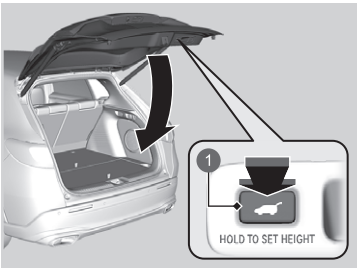
Honda スマートキーを携帯している場合、テールゲートを開く前に解錠する必要はありません。

❶ テールゲートハンドル

開閉中にテールゲートハンドルを押すと、途中で止まります。再度テールゲートハンドルを押すと、「ピー」とブザーが鳴り、反対側に動きます。

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に置かないようにしてください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもテールゲートハンドルでテールゲートを解錠することができます。

■ テールゲートインナーボタンで開閉する



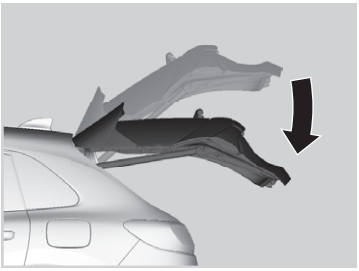
❶ テールゲートインナーボタン

テールゲートインナーボタンを押すと、テールゲートが閉まります。

▶「ピー」とブザーが鳴ります。

開閉中にテールゲートインナーボタンを押すと、途中で止まります。再度テールゲートインナーボタンを押すと、「ピー」とブザーが鳴り、反対側に動きます。

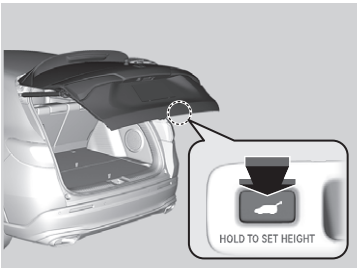
■ テールゲート位置の設定



パワーテールゲートの開く範囲を設定することができます。

設定するには:

1. 希望する位置までテールゲートを開ける。



2. テールゲートインナーボタンを長押しする。

▶「ピー」、とブザーが鳴り、続いて「ピピッ」とブザーが鳴ると、設定は完了です。

■ オートクローザー機能

テールゲートを手動で半ドア状態まで下げると、自動的に閉まります。

⚠注意

パワーテールゲートは半ドア状態の位置から自動的に閉まるため手をはさまないように注意する。重大な傷害を負うおそれがあります。

テールゲートを閉じているときにテールゲートハンドルスイッチを押すと、オートクローザー機能は作動しません。

アドバイス

パワーテールゲートが閉まる前は、無理な力をかけないでください。

■ テールゲート落下検知機能

パワーテールゲートが開いているとき、テールゲートに付着した雪などの重みによって、自動的にパワーテールゲートが下がることがあります。下がっている間は、「ピー」とブザーが鳴り続けます。

パワーテールゲートを全開した直後に、手動で閉めようとした場合、テールゲート落下検知機能が作動することがあります。

テールゲート落下検知機能が作動した場合、テールゲートから離れ、完全に停止するまで待ってください。

テールゲート落下検知機能が毎回作動する場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

車両とキーで電子照合をしており、登録されたキーでないとパワーシステムの起動は出来ないシステムです。

システムの改造や追加をしないでください。

システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムあるいはHonda スマートキーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■停止させるには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

システムの改造や追加をしないでください。

システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。

運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。
パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

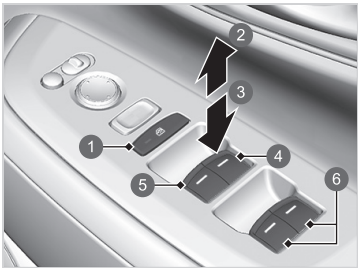
お子さまだけを車内に残さない。必ずHondaスマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーモードを OFF モードにしても、約 10 分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。
この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

➲ **パワーウィンドー関連の機能については左の QR コードから詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。**

■ 自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



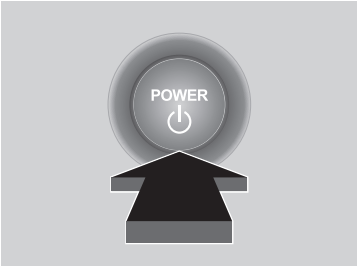
❶ パワーウィンドーロックボタン
❷ ウィンドーを閉める
❸ ウィンドーを開ける
❹ 運転席用スイッチ
❺ 助手席用スイッチ
❻ 後席用スイッチ

■手動開閉
開けるとき:スイッチを軽く押す
閉めるとき:スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉
開けるとき:スイッチを強く押す
閉めるとき:スイッチを強く引き上げる
自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

ハンドルまわりのスイッチ操作

POWER スイッチ



Honda スマートキーを携帯し、ブレーキを踏まずに POWER を押すとOFFモード→アクセサリーモード→ON モード→OFF モードの順にパワーモードが切り換わります。

OFF モード:
車両の電源が OFF の状態です。
アクセサリーモード:
オーディオなど一部のアクセサリーが使用できます。
ON モード:
すべてのアクセサリーが使用できます。

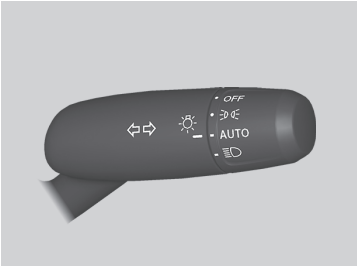
小物入れなど車両との通信に影響がある場所に Honda スマートキーが置かれている場合、パワーモードが切り換わらないことがあります。

➡ **POWER スイッチ関連の機能については右の QR コードから詳細取扱説明書（HTML 版）を参照してください。**

ライトの使い方

■ ヘッドライト・車幅灯

車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯 / 消灯させることもできます。



パワーモードが ON モードのとき、ライトスイッチを AUTO にすると自動点灯が作動します。

■手動点灯 / 消灯

ヘッドライト・車幅灯の点灯:

ライトスイッチを にします。

車幅灯の点灯:

ライトスイッチを にして手を離します。

- ▶ ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
- ▶ 停車中に行うとヘッドライトは消灯します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
- ▶ 車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを にしたあと、AUTO にします。または、にして手を離します。

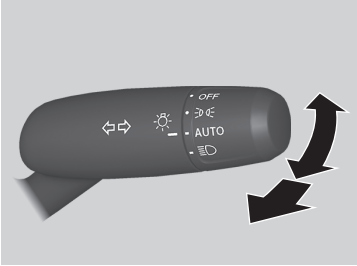
ヘッドライト・車幅灯の消灯:

シフトポジションが P もしくはパーキングブレーキをかけて停車しているとき、ライトスイッチを OFF にして手を離します。

- ▶ 発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。

■ ハイビーム

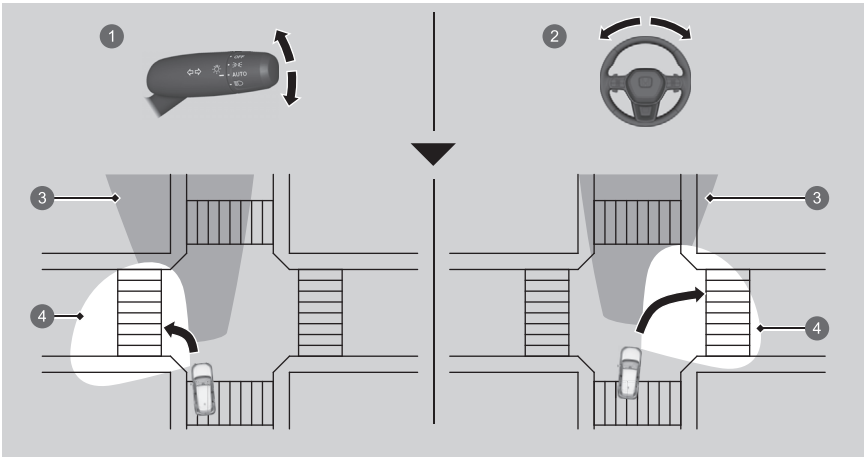
ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。



アクティブコーナリングライト*

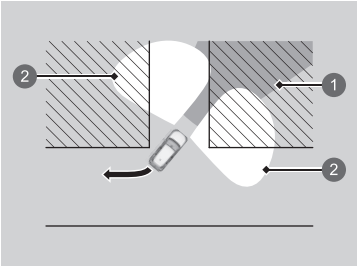
パワーモードが ON モードで、車速が 40 km/h 以下のときにヘッドライトが点灯していると、方向指示器やハンドル操作、シフトポジションを R にしたとき、アクティブコーナリングライトが点灯し、夜間走行時にコーナーでの視認性を向上させることができます。

■方向指示器、ハンドル操作による点灯



❶ ヘッドライト点灯中にウィンカーを操作
❷ ヘッドライト点灯中にハンドルを約 75 度以上操作
❸ ヘッドライト照射範囲
❹ コーナリングライト照射範囲

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

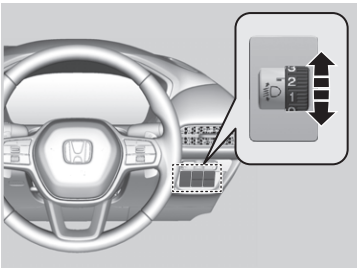


❶ ヘッドライト照射範囲
❷ コーナリングライト照射範囲

■シフトポジション操作による点灯
ヘッドライトが点灯しているときにシフトポジションを[R]にすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。

アクティブコーナリングライトを 5 分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。
消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行うか、シフトポジションを[R]に入れると点灯します。

ヘッドライトレベリングダイヤル*



車幅灯が点灯しているとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

光軸の調節はダイヤルを回して行います。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安
乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
5 名乗車時	1
5 名乗車でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを[0]の位置に戻してから行ってください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

アダプティブドライビングビーム装備車

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

オートハイビーム*

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントワイドビューカメラ** P.236

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

オートハイビームの ON/OFF 設定を変更することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

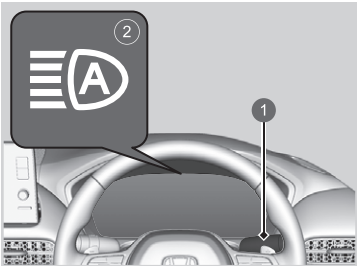
➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ オートハイビームの使いかた

■システムの作動

以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームとロービームが切り換わります。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

❶ ライトスイッチ
❷ オートハイビーム表示灯

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを≡Oに回したあと、AUTO に戻す

■ハイビーム / ロービームの自動切り換え

オートハイビーム表示灯が点灯しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム		ロービーム
以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。 • 車速が 30km/h 以上 • 前方にライトを点灯した車両がいない • 前方に街灯などの光が少ない	⇔	以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。 • 車速が 24km/h 以下 • 前方にライトを点灯した車両がいる • 前方に街灯などの光が多い

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作:

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。

▶ オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを≡Dに回した後、AUTOに戻す
  このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作:

ライトスイッチを≡Dに回す。

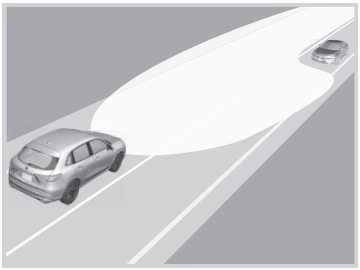
▶ オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチをAUTOに戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

アダプティブドライビングビーム*



夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてハイビームとロービームが自動で切り換わります。また、先行車や対向車への眩惑を軽減するため、ハイビームの配光が自動で調整されます。

アダプティブドライビングビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントワイドビューカメラ** P.236

アダプティブドライビングビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

アダプティブドライビングビームの ON/OFF 設定を変更することができます。
➡ 別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書

次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

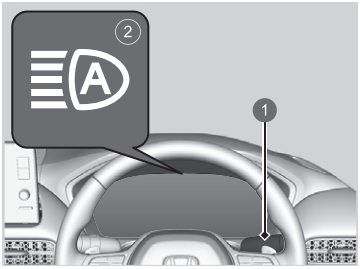
- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況(雨、雪、霧、フロントガラスの霜など)
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- カーゴスペースに重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速(HI)作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

■ アダプティブドライビングビームの使いかた

■システムの作動

以下の条件をすべて満たすとアダプティブドライビングビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームの配光が調整されます。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

❶ ライトスイッチ
❷ アダプティブドライビング
ビーム表示灯

上記の条件を満たしていてもアダプティブドライビングビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、アダプティブドライビングビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを≡Oに回したあと、AUTO に戻す

■ハイビームの配光の自動調整

車速が 10km/h 以上になるとハイビームの配光の自動調整が開始され、以下の条件または車速に応じてハイビームの配光が変化します。

- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

また、車速が6km/h以下になるとハイビームの配光の自動調整は停止しロービームに切り換わります。

■ハイビーム / ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、アダプティブドライビングビーム表示灯が消灯し、アダプティブドライビングビームが停止します。

レバーによる操作:

レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す。

▶ アダプティブドライビングビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前(パッシングの位置)に引いた後すぐに手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを≡Dに回した後、AUTOに戻す
  このとき、アダプティブドライビングビーム表示灯が点灯します。

ライトスイッチによる操作:

ライトスイッチを≡Dに回す。

▶ アダプティブドライビングビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチをAUTOに戻してください。このとき、アダプティブドライビングビーム表示灯が点灯します。

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。

ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。

ポンプ故障の原因となります。

アドバイス

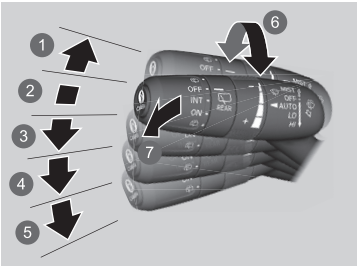
寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線*でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

■ フロントワイパー/ ウォッシャー

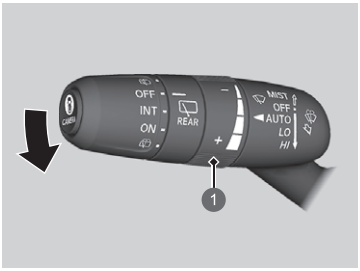


パワーモードが ON モードのときに使用できます。

❶ **MIST**:(レバーを操作している間作動)
❷ **OFF**:停止
❸ **AUTO**:自動作動
❹ **LO**:低速(普通の雨量のとき)
❺ **HI**:高速(雨量が多いとき)
❻ センサー感度の調節
❼ ウォッシャー

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ オートワイパー

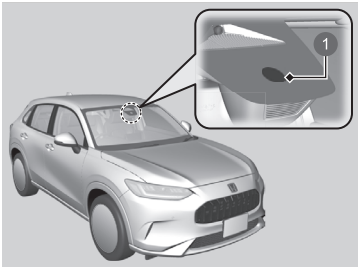


❶ リング
[−]:雨滴に対して、より鈍感に反応してワイパーを作動します。
[+]:雨滴に対して、より敏感に反応してワイパーを作動します。

レバーを[AUTO]の位置にするとワイパーが1回作動し、その後は自動作動に切り換わります。

フロントガラス上部にある雨滴検知センサーが検出した雨滴量に応じて、停止、間欠作動、低速作動、高速作動のいずれかの作動をします。

ワイパー作動中に雪などがたまると雨滴検知をしていなくてもワイパーが作動し続けることがあります。
レバーを OFF の位置にすると、ワイパーを停止することができます。

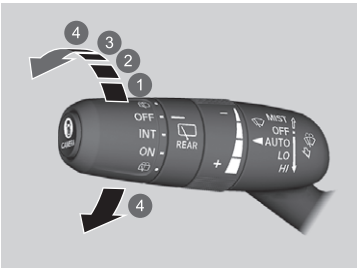


❶ 雨滴感知センサー

⚠注意

フロントガラスのお手入れをするときは、レバーを必ず OFF にしてください。
パワーモードが ON モードでレバーが
[AUTO]のとき、雨滴センサー上部のガラス面に手で触れたり、布で拭き取ったりすると、ワイパーが作動することがあり、手をけがしたりワイパーが損傷するおそれがあります。

■ リヤワイパー/ ウォッシャー



❶ OFF:停止
❷ INT:間欠作動
❸ ON:低速作動
❹ ⛲:ウォッシャー

パワーモードがON モードのときに使用できます。

■リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

雨量に応じてワイパースイッチを切り換えて使用します。

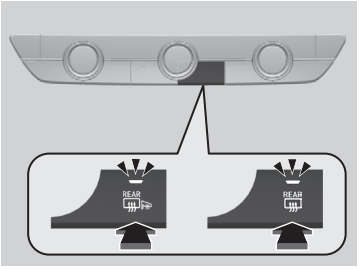
■ウォッシャースイッチ

スイッチを⛲まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■リバース連動モード

フロントワイパー作動中にシフトポジションを R にするとリヤワイパーが作動します。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ

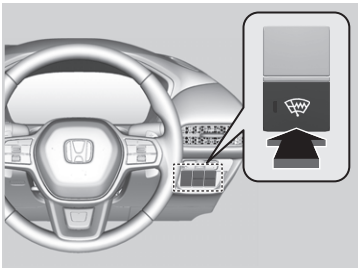


パワーモードがON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラー* を暖め、曇りをとることができます。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12V バッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

フロントガラス熱線スイッチ*



パワーモードがONモードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

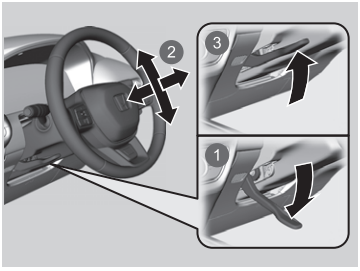
スイッチを押すと、フロントガラス熱線がONになります。

約 15 分経過後、自動的に停止します。

この装置は消費電力が大きいので、霜が取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12Vバッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



❶ 解除
❷ 調節
❸ 固定

1. ハンドル位置調節レバーを押し下げる。
   ▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
   ▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルを固定する。
   ▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

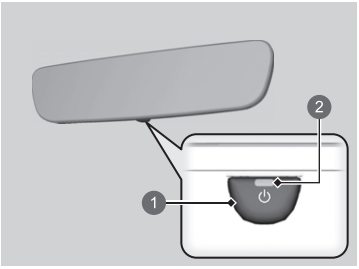
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ミラー類の調節

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■ 自動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。
パワーモードが ON モードで、オートミラースイッチが ON のときに作動します。スイッチを押すごとに ON、OFF が切り換わります。
ON にすると表示灯が点灯します。

❶ オートミラースイッチ
❷ 表示灯

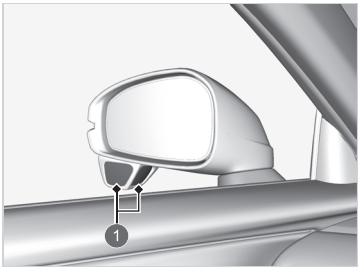
シフトポジションを R にしているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■角度調節
左右切り換えスイッチ: 右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。
角度調節スイッチ: 上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

サイドアンダーミラー*



助手席側ドアミラーの下部についています。停車時や発進前などに車両左側下部を確認するときに役立ちます。

❶ サイドアンダーミラー

見える範囲には限度がありますので、周囲の安全は目視などで確認してください。

サイドアンダーミラーは車両左側を見るために下向きになっています。

サイドアンダーミラーの角度調節はできません。

シートの調節

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

⚠注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

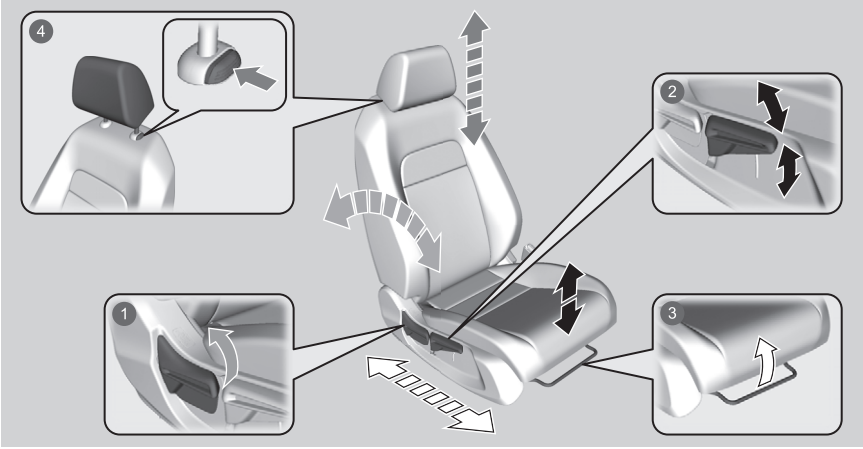
フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■ シートの動かしかた

■ フロントマニュアルシート*



❶ **背もたれの角度調節**
レバーを引き上げながら調節

❷ **高さの調節(運転席)**
レバーを繰り返し引き上げ / 下げし、高さを調節

❸ **前後位置の調節**
レバーを引き上げながら、前後位置を調節

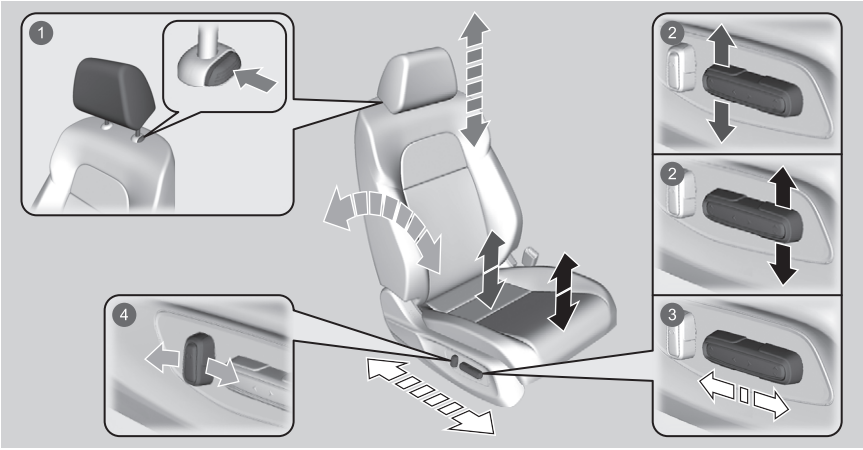
❹ **ヘッドレストの調節**
- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ フロントパワーシート*



❶ **ヘッドレストの調節**
- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる

❷ **高さの調節（運転席）**
スイッチを上下に動かして高さを調節

❸ **前後位置の調節**
スイッチを前後に動かして前後位置を調節

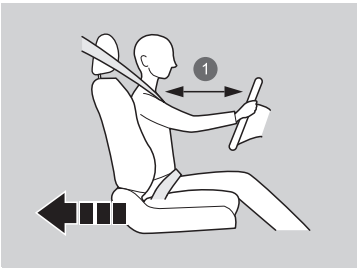
❹ **背もたれの角度調節**
スイッチを前後に動かして調節

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

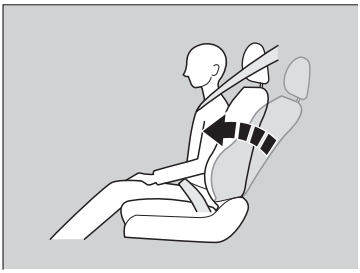
■ フロントシートの調節



■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードの SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。

❶ 十分な距離をとる



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

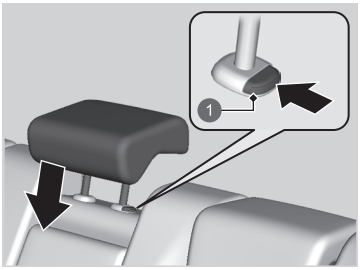
リヤシート

⚠注意

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。

■ 背もたれの倒しかた

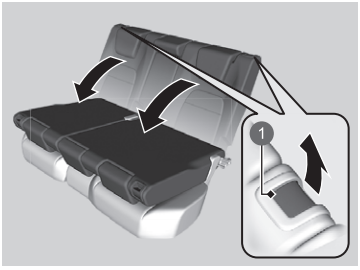


❶ ノブ

リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側ずつ独立して行えます。

■倒しかた

1. 中央の三点式シートベルトを分離・収納する。
➡ **分離収納式シートベルト** P.22
2. ヘッドレストを下げ、アームレストを収納する。



❶ レバー

3. 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

アドバイス

シートを格納する前にシートの周りを確認してください。シートの上にものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。
シートベルトやバックルが破損することがあります。

シートの座面や収納される場所の荷物等はあらかじめどけてから操作してください。

背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。
急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

リアシートリマインダー

後席への人や荷物の置き去りがないようにお知らせする機能です。この機能は、パワーモードを ON モードにする直前または直後に、後席ドアを開けた場合に作動します。



作動後、パワーモードを OFF モードにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにお知らせが表示され、音が鳴ります。

ヘッドレスト

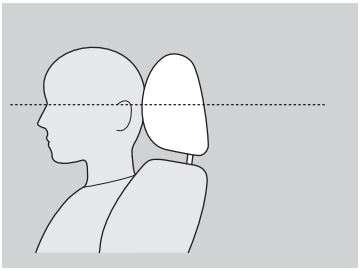
⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

フロントシートのヘッドレストは、取り外しできません。

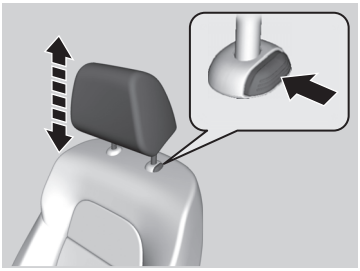
■ フロントシートヘッドレストの調節



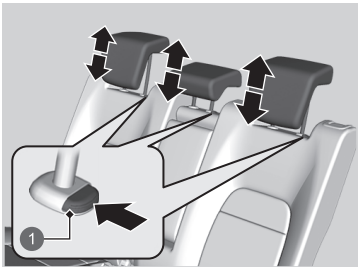
後頭部の中心がヘッドレストの中心に

後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき:ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき:ノブを押しながら下げます。



■ リヤシートヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。
高くするとき:ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき:ノブを押しながら下げます。

❶ ノブ

⚠警告

リヤシートのヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。



■ リヤシートヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し:
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け:
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

天井とシートバックのスペースが限られているため、リヤシートヘッドレストの取り外しや取り付けを行うときは、シートバックを少し前に倒してください。

アームレスト

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アドバイス

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。
アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

➡ 室内灯の操作については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

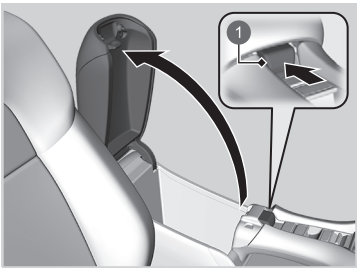
収納装備

■ グローブボックス

⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ センターコンソールボックス



❶ ボタン

⚠警告

走行中は必ずセンターコンソールボックスを閉める。
センターコンソールボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ ドリンクホルダー

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■ コートフック

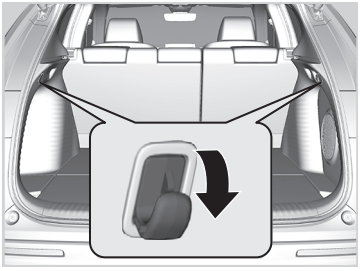


⚠注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

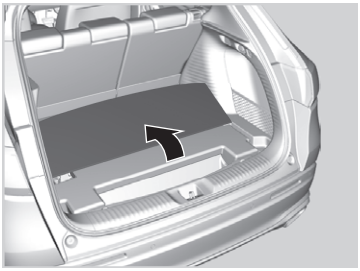
■ コンビニフック



アドバイス

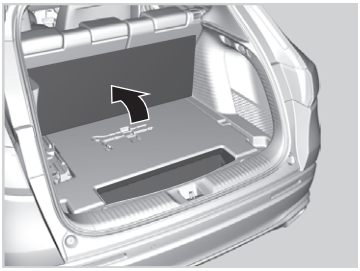
コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの（約 3kg 以上）や大きいものをかけないでください。

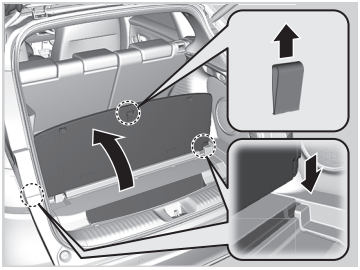
■ カーゴフロアボックス



パーセルカバー非装備車

カーゴリッドを三つ折りにして開けます。





パーセルカバー装備車

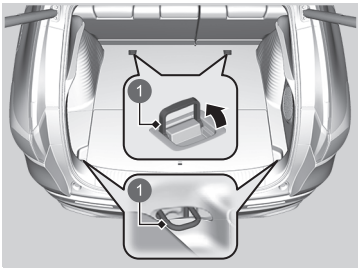
ストラップを引きながらカーゴリッドを開けます。
カーゴリッドの下にボックスがあります。

⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

カーゴリッドを立てた状態で走行しないでください。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ カーゴフック



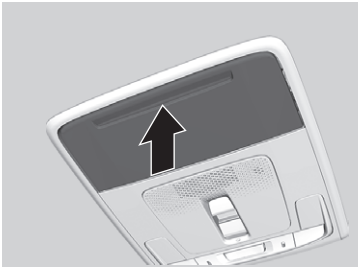
❶ カーゴフック

⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス
重い荷物はできるだけ前に積んでください。
荷物を積むとき、荷重が 1 か所に集中しないように配置してください。

■ サングラスボックス



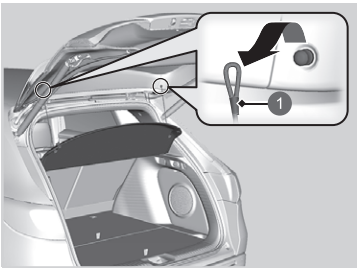
矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れを起すことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

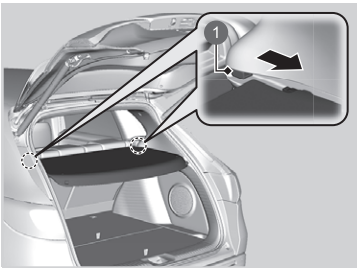
■ パーセルカバー*



■外しかた

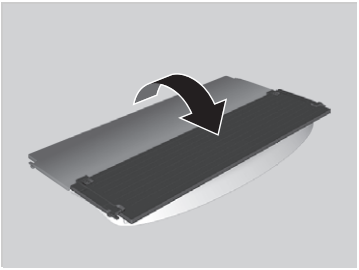
1. テールゲートの裏側から、フックを外す。

❶ フック



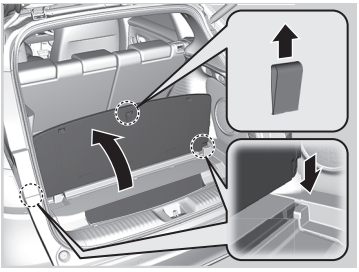
2. パーセルカバーをサポートラッチから外して取り出す。

❶ サポートラッチ



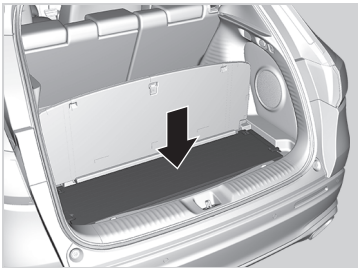
■収納のしかた

1. パーセルカバーを図のように折りたたみます。



2. ストラップを引きながらカーゴリッドを開けます。
   カーゴリッドの下にボックスがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



3. カーゴフロアボックスに収納する。

パーセルカバーの上に物を置かないでください。
後方視界をさまたげるばかりでなく、急ブレーキなどのときにとび出すおそれがあります。

カーゴリッドを立てた状態で走行しないでください。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

その他の室内装備品

■ アクセサリーソケット

⚠注意

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。
電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりする恐れがあります。

シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

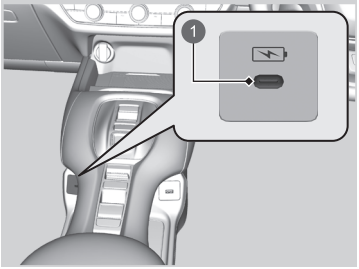
消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

12V バッテリーあがりを防ぐため、パワーシステムが起動している状態でご使用ください。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

■ 充電専用 USB ジャック

センターコンソール前部座席側



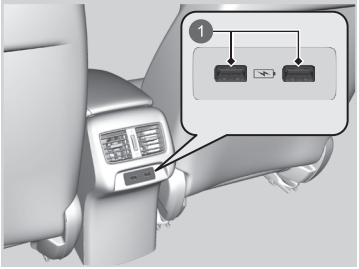
❶ USB ジャック

■ センターコンソール前部座席

充電する機器の USB ケーブルを USB ジャックに接続します。

▶ のマークがある USB ジャックは充電専用(3.0A)です。

センターコンソール後部座席側



❶ USB ジャック

■ センターコンソール後部座席

充電する機器の USB ケーブルを USB ジャックに接続します。

▶ のマークがある USB ジャックは充電専用(2.5A)です。

■ ワイヤレス充電器*

➲ ワイヤレス充電器については右の QR コードから詳細取扱説明書(HTML 版)を参照してください。

⚠警告

以下のことを守らない場合、感電や火災の原因になり、重大な傷害や死亡に至る恐れがあります。

- ワイヤレス充電器と対応機器の間に金属類を挟んだ状態で充電しない。
- タオルなどをかぶせた状態やほこりが被った状態で充電しない。
- 水や飲料物等で機器を濡らさない。
- 油類、アルコール、ベンジン、シンナーなどで拭いたり、ヘアスプレー、殺虫剤などをかけたりしない。

ワイヤレス充電器は最大15W充電に対応していますが、機器や条件によって充電の電力は変化します。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

⚠注意

ペースメーカ(植え込み型心臓ペースメーカおよび除細動機能なし植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ)およびICD装着のお客様は、充電時にはワイヤレス充電器から 22cm 以内に植込み部位を近づけない。
充電によりペースメーカおよび ICD の動作に影響を与える恐れがあります。ご使用になる前に医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

"Qi" 及び、φ マークはワイヤレスパワーコンソーシアム(WPC) の登録商標です。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ ステアリングヒーター*



パワーモードが ON モードのときに使用できます。スイッチを押すと表示灯が点灯し、ハンドルを暖めることができます。停止するときは、再度スイッチを押し、表示灯を消します。

⚠注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

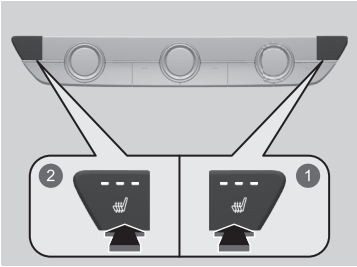
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。

12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ シートヒーター*



❶ 運転席シート
ヒータースイッチ
❷ 助手席シート
ヒータースイッチ

⚠注意

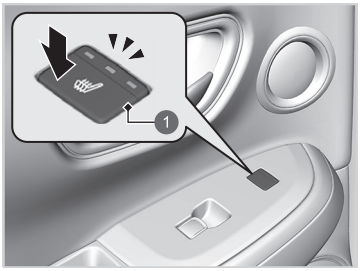
低温やけどに注意する。
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。
12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ リヤシートヒーター(左右席)*



❶ シートヒータースイッチ

⚠注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

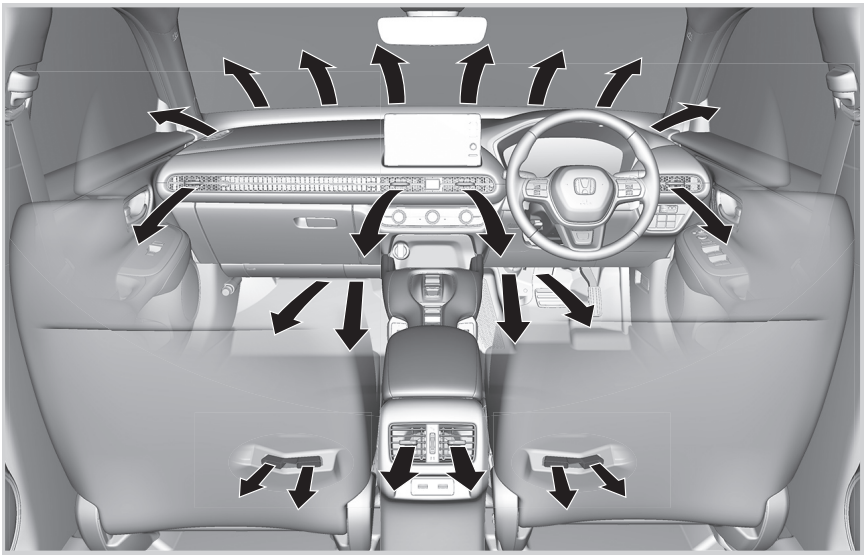
この装置は消費電力が大きいので、パワーシステムが停止しているときは長時間使わないでください。

12V バッテリーの容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

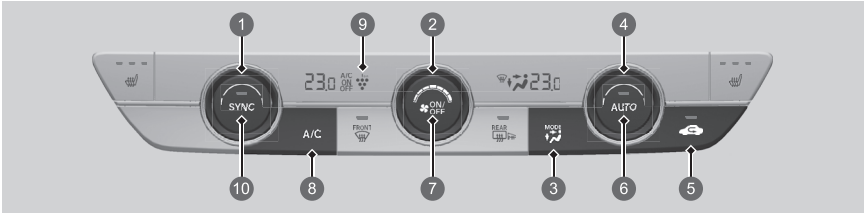
この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

エアコンの吹き出し口

■吹き出し口の位置



オートエアコンの使いかた



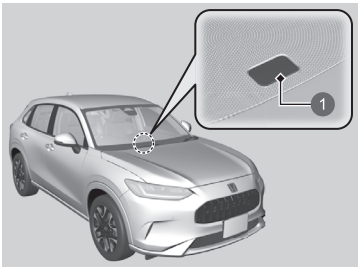
❶ 助手席側温度調節ダイヤル
❷ ファンスピード切り換えダイヤル
❸ MODE スイッチ
- 上半身送風
- 足元送風、上半身送風
- 足元送風
- 足元送風、窓ガラスの曇り取り

❹ 運転席側温度調節ダイヤル
❺ 内外気切り換えスイッチ
❻ AUTO スイッチ
❼ ON/OFF スイッチ
❽ A/C スイッチ
❾ プラズマクラスターマーク*
❿ SYNC スイッチ

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

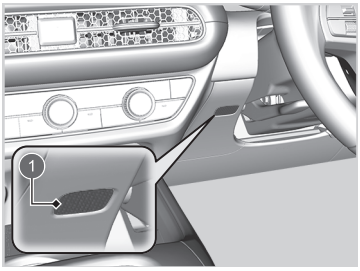
➔ オートエアコンの詳細については左のQRコードから詳細取扱説明書(HTML版)を参照してください。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

❶ センサー



❶ センサー

この章では、オーディオに関する情報を記載しています。

オーディオ装置*

オーディオ・テレビの取り扱いについては、別冊の「Honda CONNECT ディスプレイ」、「Honda CONNECT ナビ」、または「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

5 運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■ 車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  ➔ **タイヤの点検と整備** P.284
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。
凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 車内での確認項目

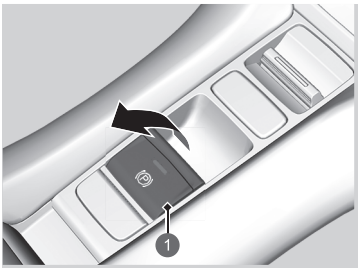
- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P.93
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P.120
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P.119
  ➔ **ハンドルの調節** P.118
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P.20
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P.52

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

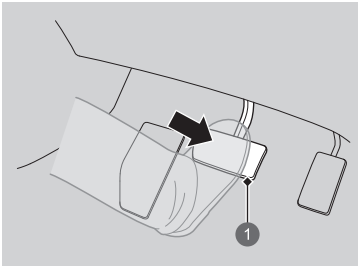
車に合ったフロアマットをお使いください。

パワーシステムの起動



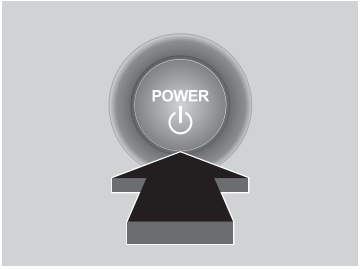
❶ パーキングブレーキスイッチ

1. パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
   ▶ パーキングブレーキがかかっていると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯（レッド）が約 30 秒間点灯します。



❶ ブレーキペダル

2. 右足でブレーキペダルを踏む。



3. ブレーキを踏んだままアクセルペダルを踏まずに、POWER を押す。



4. READY 表示灯の点灯を確認する。
- ▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ▶ パワーシステムが起動すると、READY表示灯が点灯し運転することができます。
- ▶ 外気温が極端に低いときは、条件が整うまで走行することができません。このとき、READY 表示灯が点灯せず、他のメッセージが表示されます。

➔ **表示灯** P.58

⚠警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのパワーシステムの起動は、12V バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで POWER に触れてください。
➔ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.314

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。
そのため、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができません。
➔ **イモビライザーシステム** P.100

パワーシステムが起動しない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

Honda スマートキーが強い電波を受けていると、パワーシステムが起動しないことがあります。

パワーモードを ON モードにしたとき、ブレーキペダルが押し込まれる感じを受けることがありますが、ブレーキ装置の作動によるものであり、異常ではありません。

POWER は、パワーシステムが起動するまで押し続ける必要はありません。

走行可能な状態でも、エンジンが始動しないことがあります。
READY 表示灯が点灯していれば走行可能です。
READY 表示灯が点灯している状態で、ブレーキペダルを踏んで POWER を押すとパワーモードが OFF になり、走行できなくなります。

➔ READY 表示灯 P.60

■ 発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、READY 表示灯の点灯を確認し、シフトポジションを[D]にする。
   ▶ 後退する場合は[R]にします。
2. パーキングブレーキをかけたまま、ブレーキペダルを離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。
   ▶ ブレーキ警告灯(レッド)が消灯したことを確認してください。
   ▶ 運転席シートベルトを装着していないと、発進時でも電子制御パーキングブレーキは自動解除されません。

➔ **電子制御パーキングブレーキ** P.239

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

パーキングブレーキスイッチの操作で解除することもできます。
下り坂の場合、アクセルペダルを踏まずにパーキングブレーキを手動で解除すると、よりスムーズに発進することができます。

ハイブリッド車は走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がでないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。
READY 表示灯が点灯しているかどうかを確認し、発進操作をしてください。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約 1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

■ パワーシステムの停止

車が完全に停止しているとき、パワーシステムを停止することができます。

1. ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトポジションを P にする
   ▶ メーターのシフトポジション P が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。
2. POWER を押す。

走行時の注意点

⚠注意

減速の強さを変更する際の車速には、十分注意する。
滑りやすい路面では、急激な回生ブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS（電動パワーステアリング）システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

走行中はパワーシステムを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
エンジンブレーキや回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずパワーシステムを起動してください。
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■ 霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

■ 風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。
トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

■ 雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。
わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

ハイドロプレーニング現象に注意してください。
ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■ その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

トランスミッションについて

■ クリープ現象

パワーシステムが起動しているとき、シフトポジションが P N 以外に入っているとオートマチック装備のガソリン車と同様に、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■ キックダウン

シフトポジションが D で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、オートマチック車のキックダウンのように、力強い加速を得ることができます。

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、エンジン回転数が上がり、モーターの出力が大きくなることで速度が出すぎてしまうことがあります。
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

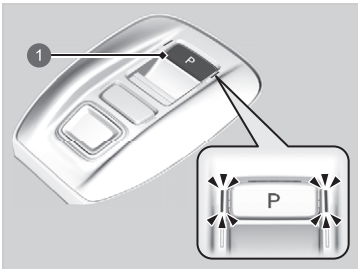
走行状態に応じてシフトポジションスイッチを押して切り換えます。

■ シフトポジションの名称とはたらき



P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき
R リバース
車を後退
N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態
D ドライブ
通常走行
- 一時的に減速セレクターを使用するとき
- 減速セレクターを使用するとき（SPORT モード走行時）

■パーキングスイッチ



パワーモードがONモードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションがPになり、スイッチのインジケーターが点灯します。

❶ Pスイッチ

車を後退させるときは、トランスミッション保護のため、車速が制限されることがあります。

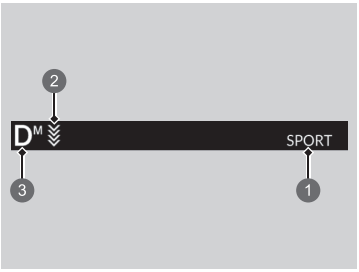
高電圧バッテリーの充電量が満充電に近い状態のとき、または高電圧バッテリーの温度が低いときは、回生ブレーキの効きが弱くなることがあります。

故障と予期しない作動を防止するため:

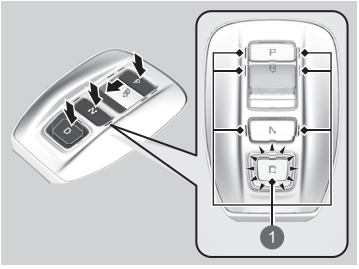
- シフトポジションスイッチに液体などをこぼさないでください。
- シフトポジションスイッチやまわりに、衝撃を与えたりものを落とさないでください。
- お子さまや運転者以外の方がシフトポジションスイッチを操作しないようご注意ください。

Nのポジションの時にアクセルペダルを踏むとブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
ブレーキペダルを踏み、シフトポジションをDまたはRにしてください。

■ シフトポジションの操作



❶ SPORT モード表示灯
❷ 減速セレクター表示灯
❸ シフトポジション表示灯



P パーキングにするときは、P を押します
R 後退するときは、R を押します
N ニュートラルにするときは、N を押します
D 通常走行するときは、D を押します

❶ シフトポジション表示

アドバイス

車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままシフトポジションを[D]から[R]または[R]から[D]に切り換えてください。

車が完全に止まっていない状態で操作をすると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

シフトポジションを[P]に切り換えるときは、メーターのシフトポジション[P]が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもシフトポジションの位置を確認してください。

選択しているシフトポジションが点滅しメッセージが表示された場合は、トランスミッションに異常があります。
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。
全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。
異常なければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。

外気温が非常に低い(マイナス30度以下)とき、シフトポジションの表示の切り替わりが少し遅れることがあります。走行前は必ずシフトポジションを確認してください。

[R]のポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションが[R]の位置になっていることを知らせます。

■ 自動パーキング選択制御

■ ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2km/h 以下のときに、[P]以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で[P]になります。

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを[P]にし、適切な方法により行ってください。

駐停車操作 P.249

この制御により[P]になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

■ パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが[P]以外のまま、パワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動で[P]になります。

■シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

操作前のシフトポジション	1. 操作・走行状態	2. パーキングスイッチ・シフトポジションの操作	3. 操作後のシフトポジション	対処のしかた
P	ブレーキペダルを踏んでいない	他のシフトポジションを選択する	P	アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む
	アクセルペダルを踏んでいる			
N	低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない		N	
	低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる			
N D	前進している	R		停車する
R N	後退している	D		
R N D	走行中	P		
P N	READY 表示灯が点灯していない	P N以外を選択する	P N	READY 表示灯の点灯を確認する

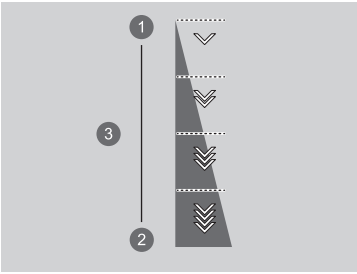
減速セレクター

ハンドルにあるセレクターで、アクセルペダルを離したときの減速の強さをハンドルから手を離さずに、4 段階で変更できます。前走車との車間調整や坂道などで減速の強さを変更したいときに使用してください。

⚠注意

減速する際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激な減速がタイヤのスリップを招くことがあります。



1 回のセレクター操作で、減速の強さは 1 段強さが変更します。

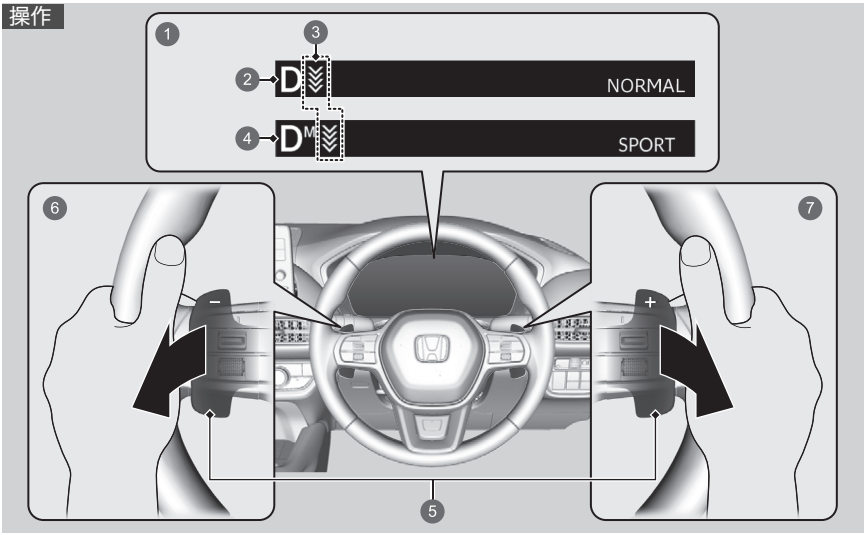
▶ セレクターを引き続けても連続では変更しません。

❶ 弱
❷ 強
❸ 減速の強さ

減速強さを変更するには

- [+]のセレクター(右側)を引くと減速の強さが弱くなる
- [−]のセレクター(左側)を引くと減速の強さが強くなる

[+]のセレクターを数秒間引き続けると減速セレクターがキャンセルされます。



❶ シフトポジションが D のとき
❷ SPORT モード OFF のとき
減速の強さが表示されます
❸ 減速の強さ
❹ SPORT モード ON のとき
減速の強さと M が表示されます
❺ セレクター
❻ −のセレクター(左側)を引くと減速の強さが強くなる
❼ ＋のセレクター(右側)を引くと減速の強さが弱くなる

■SPORT モードスイッチが OFF のとき

セレクターを引くと一時的に減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さが表示されます。減速セレクターをキャンセルするには、[+]のセレクターを数秒間引き続けます。一定速度の走行や加速の状態、停止間際まで減速すると減速の強さは自動的に解除され表示は消灯します。

■SPORT モードスイッチが ON のとき

セレクターを引くと減速の強さが変更され、メーター内に減速の強さと M が表示されます。SPORT モード中は自動解除されません。解除する場合は、SPORT モードスイッチをOFFにするか、[+]のセレクター(右側)を数秒間引き続けます。解除されると表示は消灯します。

左右のセレクターを同時に操作すると、変更しないことがあります。

以下の状態のときはセレクターを引いても減速の強さが変更されずに表示が点滅します。
また、自動的に減速の強さが弱くなったり解除することがあります。

- 高電圧バッテリーが満充電時、低温時、高温時
- 車速が減速の強さの許容範囲外のとき
- ハイブリッドシステムの保護が必要なとき
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)作動により停車してセレクターの操作をしたとき
- ブレーキパッドが高温のとき
- シフトポジションを[P]、[R]または[N]にしたとき

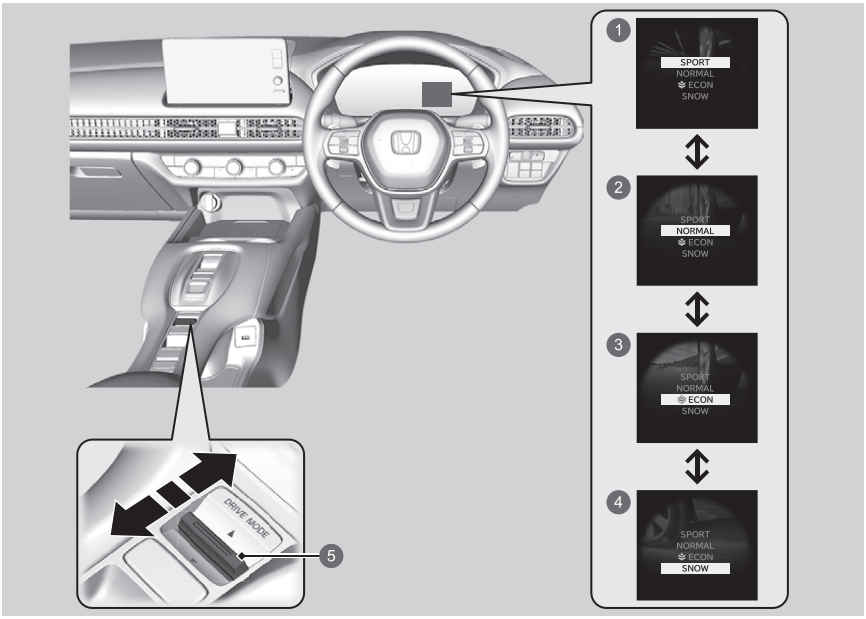
セレクター操作を行うと渋滞追従機能付 ACC 作動は解除されます。

車両接近通報装置

約25km/h以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

ドライブモードスイッチ

選択したモードに応じた走行性能へ車両を制御します。
ドライブモードスイッチで SPORT モード、NORMAL モード、ECON モード、SNOW モードの 4 つのモードから走行モードを切り換えることができます。
選択しているモードはマルチインフォメーションディスプレイに表示され、それぞれのモードに応じて表示の内容が変化します。

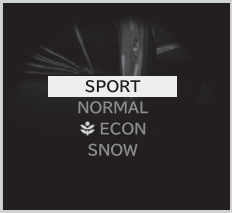


❶ SPORT モード
❷ NORMAL モード
❸ ECON モード
❹ SNOW モード
❺ ドライブモードスイッチ

運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。
また、車両に異常があるときなども、モードの変更ができません。

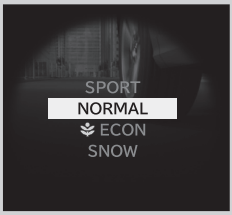


■SPORT モード



運転操作に対しての応答性を高めたモードです。

■NORMAL モード



操作性と快適性のバランスを最適化したモードです。

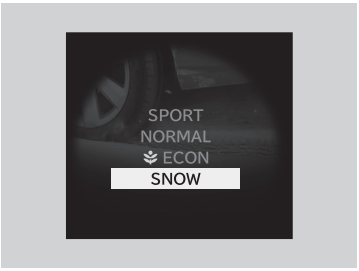
■ECON モード



省燃費運転をしやすくしたモードです。

ECON モードにするとエアコンの効きが弱くなり加速の応答性が低くなります。

■SNOW モード



パワートレインを制御して雪道での操作性を最大化したモードです。

アドバイス

SNOW モードはあらゆる状況の積雪路や凍結路での走行を可能にするものではありません。あくまでも、運転者をアシストするためのモードです。

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

冬期のタイヤ P.287

■ 再度パワーモードを ON にしたときのモード

再度パワーモードを ON にしたときのモードは、以下のとおりです。

ドライビングポジションシステム装備車

最後に使用したモードは、Honda スマートキーの DRIVER1 と DRIVER2 に応じて記憶されます。

パワーモードを ON にする前のモード	パワーモードを ON にしたときのモード
SPORT モード	NORMAL モード
NORMAL モード	NORMAL モード
ECON モード	ECON モード
SNOW モード	NORMAL モード

ヒルディセントコントロール

エンジンブレーキだけでは十分に減速できない下り坂での走行中に、ブレーキペダルを踏むことなく車速を一定に保つよう支援する機能です。

⚠警告

ヒルディセントコントロールはあらゆる状況で車速を一定に保つことができるシステムではありません。

急な下り坂や滑りやすい路面を走行しているときは車速を一定に保つことができず、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

システムによるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

緩やかな下り坂では作動しないことがあります。システムの作動状態をヒルディセントコントロール表示灯で確認してください。

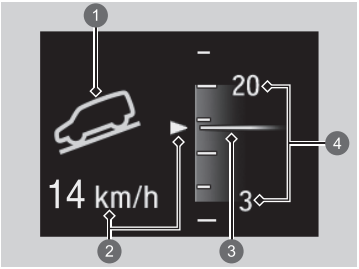
下り坂でなくても段差を乗り越えるときなどに車両が傾くとシステムが作動することがあります。

■ ヒルディセントコントロールの作動条件

システムは以下の条件で作動します。

- 車速が約 3 ～ 20km/h で走行しているとき
- 下り坂を走行しているとき
- アクセルペダルとブレーキペダルを踏んでいないとき

■マルチインフォメーションディスプレイの表示



❶ システムの作動状態
- グリーン:作動中
- ホワイト:スタンバイ

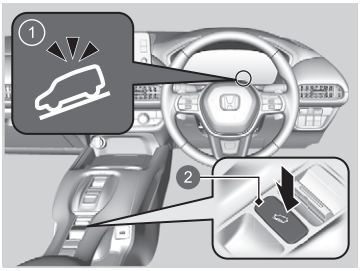
❷ 車速表示
- ホワイト:設定車速
- グレー:現在車速

▶ 作動車速を超過すると点滅します。

❸ 現在車速

❹ 設定可能車速

■ ヒルディセントコントロールの操作方法



❶ ヒルディセントコントロール表示灯
❷ (ヒルディセントコントロール)スイッチ

■作動させるには

車速が約 20km/h 以下のときに を押してシステムを ON にします。

▶ スタンバイ状態になりヒルディセントコントロール表示灯(ホワイト)が点灯します。

作動条件を満たすとシステムが作動し、下り坂で車速を一定に保つよう走行します。

▶ システムの作動中はヒルディセントコントロール表示灯(グリーン)が点灯します。

■設定車速を調整するには

アクセルペダルかブレーキペダルを踏み、作動範囲内で設定車速を調節します。ペダルを離すと、そのときの車速が設定車速になります。

■OFF にするには

を押してシステムを OFF にします。

長時間連続して使用するとブレーキの温度が上昇し、一時的にシステムがスタンバイ状態になることがあります。

前回走行時にシステムを ON にした状態でも、パワーモードを OFF モードにする度にシステムは OFF になります。

作動中はペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。

車速が約 60km/h 以上になるとシステムは OFF になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 P.247

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能
急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

➡ **電子制御ブレーキアシスト** P.248

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしても点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。

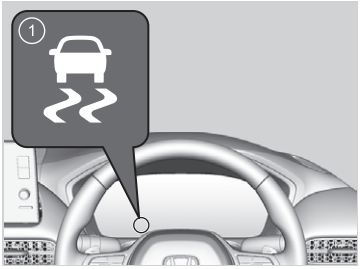
通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤを装着し控えめな速度で運転する

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

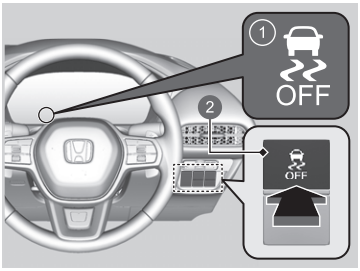
■VSA の作動と警告灯



❶ VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯

TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■VSA の ON と OFF



❶ VSA OFF 警告灯
❷ (VSA OFF)スイッチ

VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。
再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

新雪やぬかるみから脱出したいときに、でVSAをOFFにするとTCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、前輪に軽いブレーキがかかることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とする機能です。

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。
安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

アジャイルハンドリングアシストが作動中、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

リアルタイム AWD(インテリジェント・コントロール・システム)*

AWD(オールホイールドライビング)システムは、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、AWD が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

AWD の状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のため AWD から 2WD に切り換わることがあります。

しばらくして油温が下がると、AWD に復帰します。

ブラインドスポットインフォメーション*

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。

⚠警告

車線変更の際は、目視やミラーなどで確認する。

状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

他の運転支援システムと同様に、ブラインドスポットインフォメーションには制限があります。

以下の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

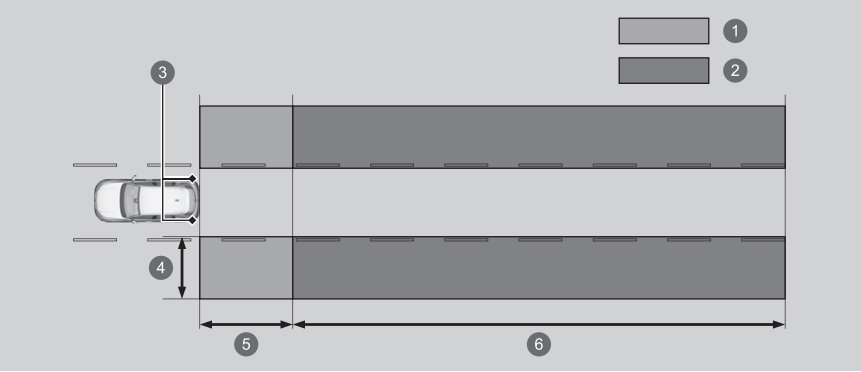
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺に衝撃が加わったとき
- 検知範囲内を他の車両が走行しているときに警告灯が点灯しないことが続くとき
- リヤバンパーや関連するシステムの修理を行うとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

リヤバンパーや関連するシステムの修理を行うと、再度システムが調整を行うまでは検知範囲は工場出荷直後の状態（検知範囲 1）になります。

■ システムの作動条件

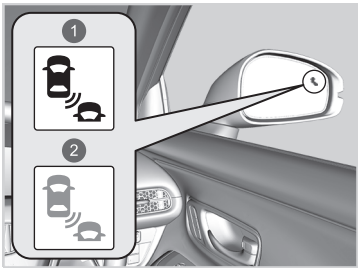
自車の車速が 20km/h 以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲内に走行している車両を検知します。



❶ 検知範囲 1
❷ 検知範囲 2
❸ レーダーセンサー：リヤバンパーコーナーの内側にあります
❹ 検知距離 A：側面から約 0.5 ～ 3m
❺ 検知距離 B：リヤバンパーから約 3m 後方
❻ 検知距離 C：リヤバンパーから後方約 3 ～ 25m（接近する車両が自車に対して速いほど、より遠くから検知します。）

工場出荷直後の検知範囲は検知範囲 1 です。路側に設置物があり、交通量のある直線道路を一定時間走行することで、システムが調整を行い、検知範囲が広くなります（検知範囲 1 と 2）。

■システムが車両を検知したとき



❶ 点灯
❷ 点滅

ブラインドスポットインフォメーション警告灯:両側のドアミラー内にあります。

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する条件:
- 他の車両が、自車より車速約 50km/h 以下の車速差で追い越しのために後方から接近してきたとき
- 約 20ｋm/ｈ 以下の車速差で他の車両を追い越したとき

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点滅し、警報音が鳴る条件:
ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯している状態で、検知された車両の方向に方向指示器(ウィンカースイッチ)を操作したとき
▶警報音は 3 回鳴ります。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺は常にきれいにしておく
- リヤバンパーの周辺にシールなどを貼り付けない

他の車両が検知範囲内を走行している場合でも、以下のように作動することがあります。
- ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯せず、マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメ ー ションがセンサーの汚れ / 高温のため作動しません」と表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「ブラインドスポットインフォメ ー ションがセンサーの汚れ / 高温のため作動しません」と表示されていても、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯する

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

■ システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.70
➡ **安全支援情報** P.77

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

警報音、警報表示の設定をカスタマイズすることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

■ ブラインドスポットインフォメーションの条件と制限

以下のような場合、ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯しないことがあります。

- 自車と隣接する車線を走行する車両との速度差が大きいとき
- 隣接する車線に駐車車両があるとき
- レーダーセンサーによって検知されていないものに接近したり、通過したりしたとき
- 自車と隣接する車線を走行する車両が二輪自動車などの小型な車両のとき

以下の場合、システムが影響を受け正確に表示しないなどの可能性があります。

- 交差点を右左折しているとき
- 路側の設置物（ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など）を検知したとき
- 二輪車が検知範囲に入ったときや、電波を反射しないものが検知範囲にあるとき
- カーブした道路を走行しているとき
- 他の車両が隣接する車線よりさらに外側から接近してきたとき
- 他の車両のレーダーや強い電波を発する設備などによりシステムが干渉を受けたとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が土・泥・雪・氷で覆われているとき
- リヤバンパーやレーダーセンサー周辺が破損、変形しているとき
- 悪天候（雨、雪、霧など）のとき
- 旋回や路面の凸凹により車体が傾いているとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを取り付けているとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。
バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3 か月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。
長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。
バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

高電圧バッテリーが放電しすぎないように注意をしてください。充電量が 0 の状態で長期間放置するとエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

- **エンジンは自動で停止 / 始動します**

エンジンが自動的に始動や停止します。そのため、停車時にエンジンが停止状態から始動することがあります。特に、次のようなときは、エンジンが自動的に停止しないことがあります。

- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
- 暖房負荷や冷房負荷が高いとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき
- 高電圧バッテリーの充電状態が非常に低いとき

先読みエコアシスト*

ナビゲーションでルート案内時に目的地までのエコな走行をアシストする機能です。
目的地までの長い下り坂での回生ブレーキによる充電容量を先読みして、積極的に EV 走行を行います。
目的地までに立ち寄り箇所がある場合は、経由地として設定したほうがより効果的に使えます。
ナビゲーションのルートから逸脱して走行した場合は、ルートにあった EV 走行にならないことがあります。
オーディオ / インフォメーション 画面の車両設定を使って先読みエコアシストの ON/OFF を選択することができます。

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



■高電圧システムには触れない

高電圧システムを分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ずHonda 販売店にご相談ください。

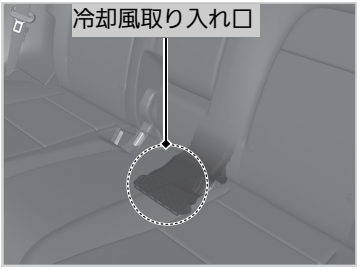
■事故が起きたとき

- **感電に注意する**
  ▶車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。
  高電圧部位やそれらを接続する配線（オレンジ色）には、絶対に触れないでください。
- **高電圧バッテリー液に触れない**
  ▶高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。
- **火災が発生したら電気火災用消火器を使用する**
  ▶少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。
- **Honda 販売店で修理を受ける**
  ▶車体が損傷を受けたときは、必ずHonda 販売店で修理を受けてください。

■高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的にOFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、指定のHonda 販売店にご連絡ください。
高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、Honda 販売店にご相談ください。

■冷却風取り入れ口をふさがない



冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や12Vバッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

ハイブリッド車特有の音について

パワーシステム起動時や走行中に、次のような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

聞こえるとき	状況
エンジンの始動・停止時	トランスミッションの作動音が車両前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時	エネルギーを回生するために、モーター回生動作音がエンジンルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

Honda SENSING

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。

Honda SENSING には、次の機能があります。

■作動させるためにスイッチ操作が不要な機能

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS） ➔P.175
- 踏み間違い衝突軽減システム ➔P.183
- 路外逸脱抑制機能 ➔P.188
- 歩行者事故低減ステアリング ➔P.193
- 先行車発進お知らせ機能 ➔P.227
- 標識認識機能 ➔P.230
- オートハイビーム* ➔P.108
- アダプティブドライビングビーム* ➔P.111
- ブラインドスポットインフォメーション* ➔P.166
- 後退出庫サポート* ➔P.255
- パーキングセンサーシステム ➔P.251

■作動させるためにスイッチ操作が必要な機能

- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC） ➔P.197
- 車線維持支援システム（LKAS） ➔P.213
- トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能） ➔P.220

⚠警告

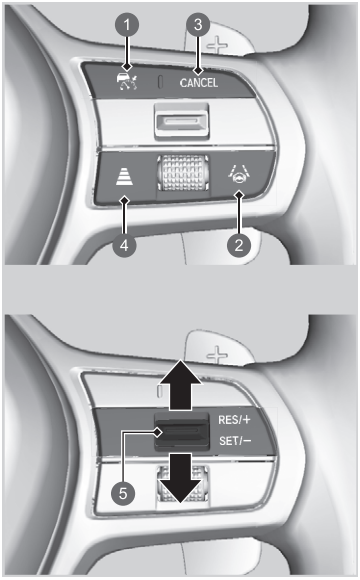
Honda SENSING は、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。
あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。
各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、各機能が作動しない場合があります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

各機能を作動させるためのスイッチと表示

■ ステアリングスイッチ



❶ **スイッチ**
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)の待機状態の設定を行います。

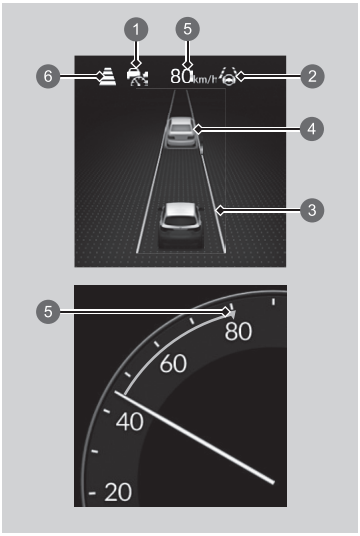
❷ **車線維持支援システム(LKAS)スイッチ**
車線維持支援システム(LKAS)およびトラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)の待機状態の設定を行います。

❸ **CANCEL スイッチ**
渋滞追従機能付 ACC の解除を行います。

❹ **ディスタンススイッチ**
渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行います。

❺ **RES/+ スイッチ / SET/– スイッチ**
渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。

■ メーターの表示



渋滞追従機能付 ACC、LKAS およびトラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）の現在の状態を表示します。

❶渋滞追従機能付 ACC の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❷LKAS およびトラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）の作動状態
- グリーン：作動中
- ホワイト：待機中
- オレンジ：システムが異常のとき

❸LKAS およびトラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能）の検知状態
- グリーンの線：作動中
- ホワイトの線：車線を検知した状態
- オレンジの線：
  点灯した側の車線逸脱を検知

❹渋滞追従機能付 ACC の前走車検知状態
- ホワイト、車両輪郭グリーン：
  制御対象車両
- グレー：制御対象外車両

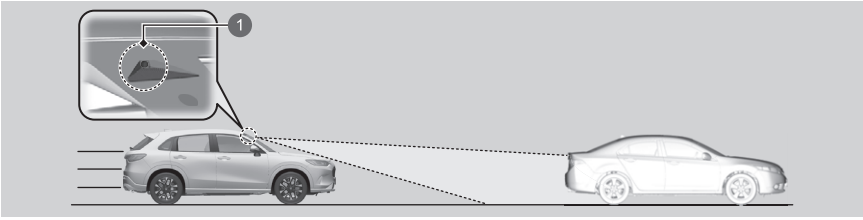
❺渋滞追従機能付 ACC の設定車速

❻渋滞追従機能付 ACC の設定車間

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

自車が、前方の車両（二輪車含む）のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車（移動する自転車）に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

■システムの作動



❶ フロントワイドビューカメラ
▶ フロントガラスの上部にカメラを装備。

自車の車速が約5km/h以上になるとカメラが前方の車両、歩行者および移動する自転車の検知を開始。

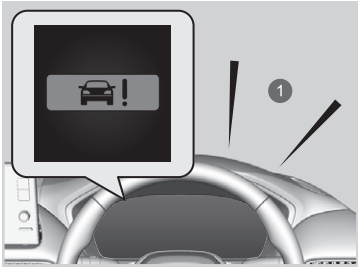
自車との速度差が約5km/h以上ある車両、歩行者および移動する自転車に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

交差点などでの右折時は、自車が約 30km/h 以下で走行中に対向車両に対して正面で衝突するおそれがあるときに、CMBS が作動します。

対向車両、停止車両、歩行者および移動する自転車に対しては、自車が約 100km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。

CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、CMBS は解除されます。
なお、衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

■CMBS の警告のしかた



以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
▶ マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告音による警告が発生します。

❶ 警告音

CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➔ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

遠めは標準に対して遠くで警告します。近めは標準に対して近くで警告します。

⚠警告

衝突軽減ブレーキ（CMBS）は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

このシステムのカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

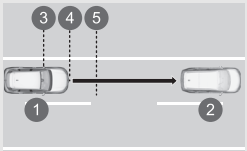
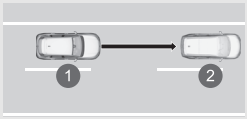
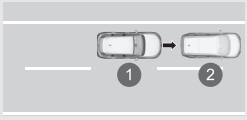
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.236

アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離		状況	ブザーと表示による警告	ブレーキ
第1段階		車両への衝突のおそれがでてきた状況	警告表示が点滅する さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶衝突警報距離を変更することができます。 Honda CONNECT ディスプレイ 非装備車 ➡ **時計*/ 車両設定** P.81 Honda CONNECT ディスプレイ 装備車 ➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**	—
第2段階		衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	軽いブレーキ
第3段階		回避が困難な状況		強いブレーキ

※: CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

❶ 自車
❷ 車両
❸ 遠め
❹ 標準
❺ 近め

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■CMBS の ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.70
➔ **安全支援情報** P.77

CMBS を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

次のような場合、カメラが車両、歩行者および移動する自転車や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が車両、歩行者、移動する自転車および路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両、歩行者および移動する自転車の全体が照らされていないとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車との距離が極端に短いとき
- 前方に車両、対向車両、歩行者および移動する自転車が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 自転車が停止しているとき
- 前方の車両、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 暗がりで前方の車両、対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき

■その他検知、作動できない事例

- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車が自車の正面にいないとき
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車と自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作(交差点などでの右折時を除く)※ をしながら、前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車および三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 前方の車両、対向車両、歩行者および移動する自転車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき

※:右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときに CMBS が作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

運転中は CMBS を OFF にすることはできません。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- カメラの温度が高温のとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は CMBS は作動しません。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

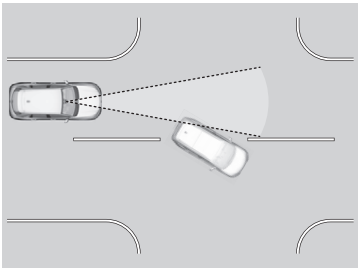
タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

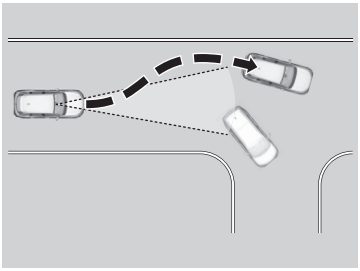
■ 衝突の可能性が高くない場合の作動について

衝突の可能性が高くなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。
また、車両、歩行者および移動する自転車の動きによってシステムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。

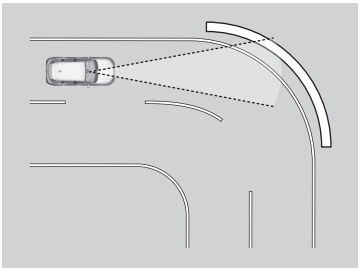
- 左折、または右折している前方車両がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき



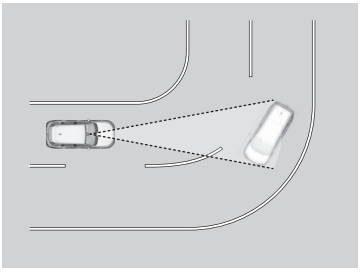
- 前走車を追い越すときに車両に接近して走行する場合



- 車両、歩行者および移動する自転車と自車が接近したとき
- 車両や歩行者、移動する自転車が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどの構造物があるとき



- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき



- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の 3 つの機能を持ったシステムです。
フロントバンパー、フロントグリルおよびリヤバンパーに設置してあるソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

⚠警告

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングで踏み間違い衝突軽減システムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。

縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能を OFF にしてください。

ソナーセンサーの取り扱いについては下記を参照してください。
➔ **ソナーセンサー** P.238

システムが作動してから一定時間経過するとブレーキ操作の支援が解除されます。停車状態を保持するには、ブレーキペダルを踏み続けるか、シフトポジションを P にしてください。

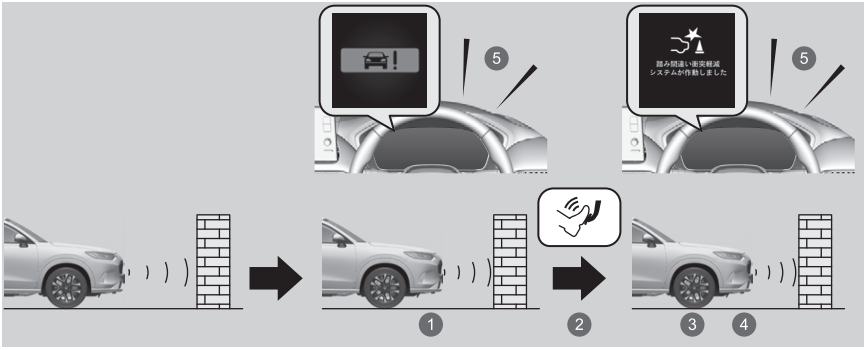
不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査の際のシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは OFF にしてください。

リアセンサーや、その周囲にアクセサリー（自転車ラックなど）を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リアパーキングセンサーを OFF にしてください。
➔ **パーキングセンサーの ON と OFF** P.251

■ システムの作動

■近距離衝突軽減ブレーキ

約 2km/h ～約 10km/h で走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。



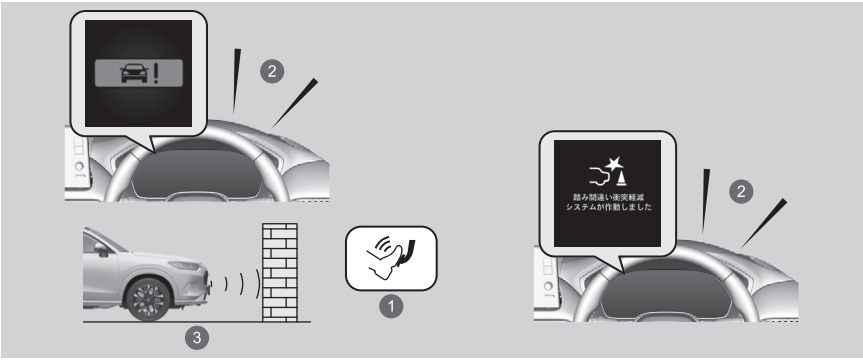
❶ 緊急ブレーキ作動開始
❷ ブレーキ
❸ 停車
❹ 停止保持後ブレーキ解除
❺ 警告音

パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしている場合は、後退時の近距離衝突軽減ブレーキが作動しません。

➔ **パーキングセンサーの ON と OFF** P.251

■誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能

停車時や約 10 km /h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにパワーシステムの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。



❶ アクセル誤踏み込み
❷ 警告音
❸ パワーシステムの出力を抑制

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が作動しないとき
前進:急な坂道やシフトポジションが、P、R、Nのとき
後退:

- 急な坂道やシフトポジションがR以外のとき
- パーキングセンサーシステムをリヤのみ OFF にしているとき

➡ **パーキングセンサーの ON と OFF** P.251

■ システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.70
➡ **安全支援情報** P.77

機能を OFF にした状態でパワーモードを OFF にした場合でも、再度パワーモードを ON にすると自動的に ON になります。

12V バッテリー再接続後、踏み間違い衝突軽減システムが一時的に OFF になる場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると自動で ON になります。
ON にならないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 作動解除の条件

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の解除条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

近距離衝突軽減ブレーキの解除条件

近距離衝突軽減ブレーキが作動してから、一定時間経過したとき

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能が一度作動した後は、同じ障害物に近づいた場合は作動しません。
作動後一定距離走行した場合に再作動が可能となります。

近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能は、前進時と後退時にそれぞれ作動することができます。
(例:前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する)
ただし近距離衝突軽減ブレーキが作動した場合、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の再作動には一定距離の走行が必要となります。

■ 踏み間違い衝突軽減システムの条件と制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

■ ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

■ ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき(雪、氷、泥などで覆われているとき)
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

■その他システムが正しく作動しない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■次のような場合は衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります

- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

⚠警告

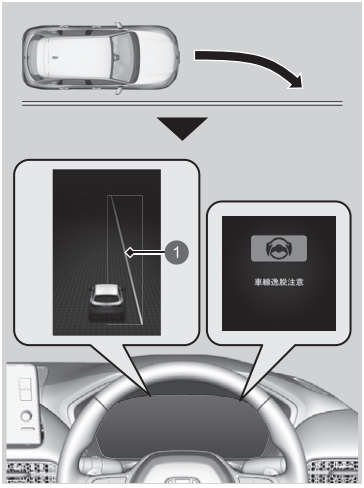
路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検知したときに警告します。
車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。草、砂利などの道路境界や対向車両への接近を検出できない場合があります。天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

■ システムの作動

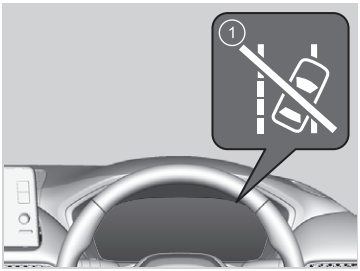


このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。

▶ 車線区画線(白線や黄線)を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

❶ 車線表示(オレンジ)



繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し路外逸脱抑制機能は復帰します。

❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は路外逸脱抑制機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントワイドビューカメラ** P.236

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

➡ **路外逸脱抑制機能の条件と制限** P.191

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

カスタマイズ機能でシステムの設定を変更することができます。
車線維持支援システム(LKAS)を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合に以下のメッセージが表示される場合があります。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**



この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線（黄線）の場合
  車速が約 60km/h ～ 120km/h のとき
  ▶ 対向車両が走行している場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合
  車速が約 30km/h ～ 120km/h のとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、安全支援情報警告灯（オレンジ）および路外逸脱制御機能警告灯（オレンジ）が点灯する場合があります。

➔ **警告灯** P.52

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■ システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➔ **表示の切り換えかた** P.70
➔ **安全支援情報** P.77

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

マルチインフォメーションディスプレイ* またはオーディオ / インフォメーション画面*を使用してシステムの設定を変更することができます。
カスタマイズ機能で「操舵アシストなし警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル制御を行いません。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➔ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➔ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件下では、システムは白線(黄線)、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき

■対向車両の状態により正しく検知できない事例
- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき

■その他、作動できない事例
- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■衝突の可能性のない場合の作動について
以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

カメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

⚠警告

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

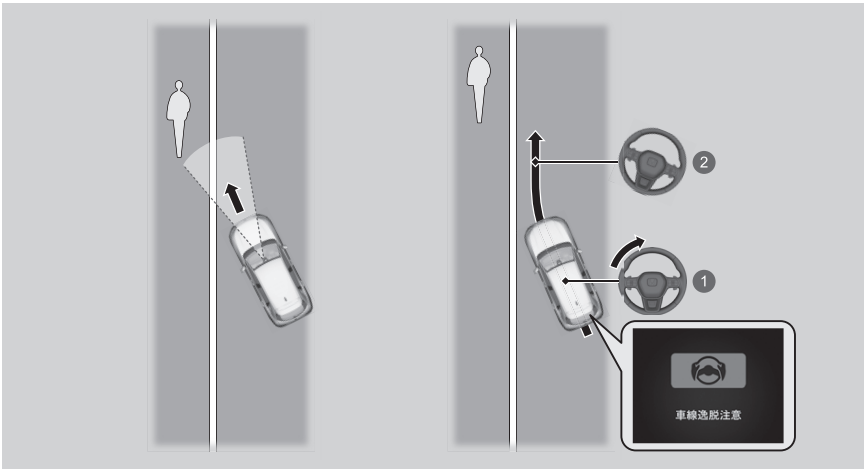
車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は歩行者事故低減ステアリングは作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

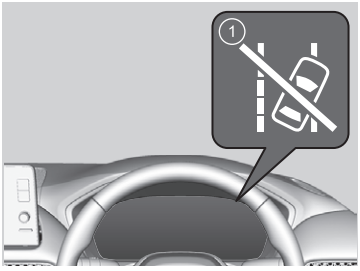
➔ **フロントワイドビューカメラ** P.236

■ システムの作動



❶ 警報と支援
❷ 運転者の回避操作

カメラが白線(黄線)および歩行者を検出します。
路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
車両と歩行者の位置関係によっては衝突軽減ブレーキ(CMBS)の作動が優先される場合があります。



❶ 路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

繰り返し歩行者事故低減ステアリングが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

一時停止状態から数分経過すると、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が消灯し歩行者事故低減ステアリングは復帰します。

■システムの作動条件

歩行者事故低減ステアリングは、以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

歩行者事故低減ステアリングは、正常に作動しないことがあります。

➡ **歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限** P.196

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

■ システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ **表示の切り換えかた** P.70

➡ **安全支援情報** P.77

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態(ON または OFF)を保持します。

カスタマイズ機能で路外逸脱抑制機能の設定を「操舵アシストなし警報のみ」にした場合、歩行者事故低減ステアリングはステアリング制御を行いません。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。
運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- カーゴスペースや、リヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- サスペンションを変更したとき
- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき

■歩行者の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■その他、作動できない事例

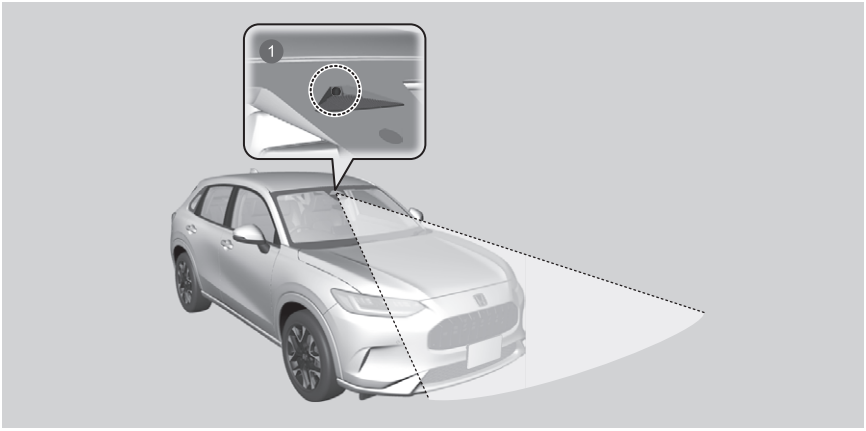
- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両など

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

渋滞追従機能付 ACC は、フロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路の渋滞時に適切な加減速を行い、設定車間距離を保持しながら、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに走行、停車出来るよう支援するシステムです。渋滞追従機能付 ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

渋滞追従機能付 ACC を作動させるには:

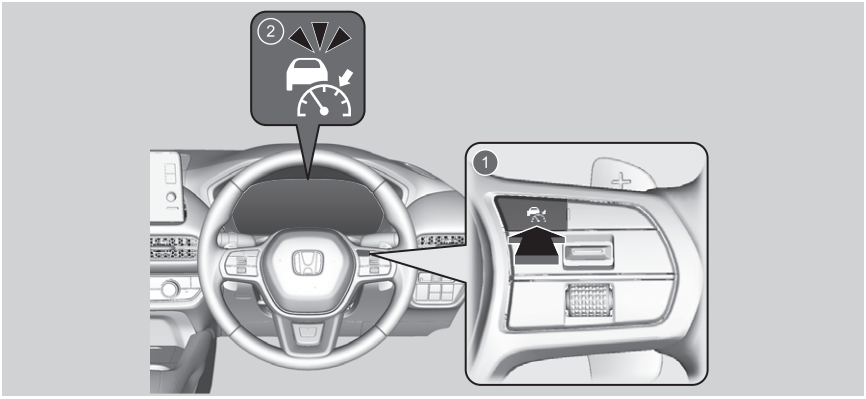
渋滞追従機能付 ACC システムは、シフトポジションが D のときに使用することができます。



❶ フロントガラス上部にフロントワイドビューカメラを装備

ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、渋滞追従機能付 ACC は作動しません。
悪天候などで、フロントワイドビューカメラが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

■システムを作動させるには



❶ ハンドルの スイッチを押す
❷ メーター内に (ホワイト)が点灯し、渋滞追従機能付 ACC が操作可能になります。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして使用してください。渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があります。
適切な駐車操作無しで動く車両は、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。
渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

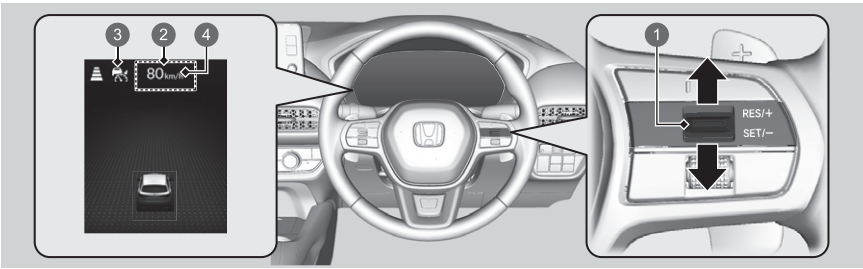
使用上の注意：
渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントワイドビューカメラ** P.236

12V バッテリー再接続後、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が一時的に点灯する場合があります。
車速 20km/h 以上でしばらく走行すると消灯します。消灯しないときは Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 車速をセットするには



❶ RES/+/SET/- スイッチ
❷ 渋滞追従機能付 ACC 開始時に点灯
❸ (グリーン)
❹ 設定車速(ホワイト)

ブレーキペダルを操作していないときに RES/+/SET/- スイッチを上か下に押すと現在の車速が設定車速とされ、渋滞追従機能付 ACC が作動し、メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

渋滞追従機能付 ACC を使用すると Straight Driving Assist(直進保舵支援機能)が作動します。
これは EPS(電動パワーステアリング)の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

車速が 30km/h 以下で走行しているとき:
先行車を検知している場合のみ作動させる事ができ、現在の車速にかかわらず設定車速が約30km/hに設定されます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。

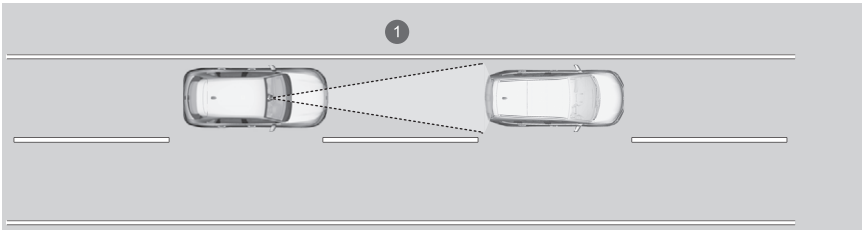
下記の状況のときは、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。
- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況では、適切な車間距離が保てません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることで設定車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できない場合があります。

- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な上り坂や急な下り坂を走行しているとき。
- 起伏のある坂道を走行しているとき。

■ 渋滞追従機能付 ACC の作動

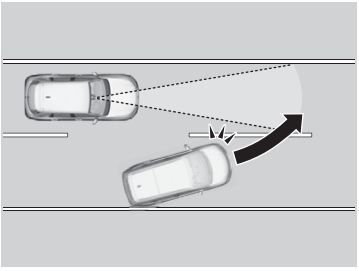
■先行車がいるとき

渋滞追従機能付 ACC は先行車がフロントワイドビューカメラの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。

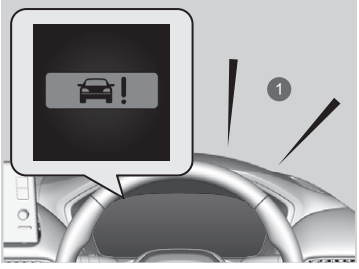


❶ 渋滞追従機能付 ACC の検知範囲：120m

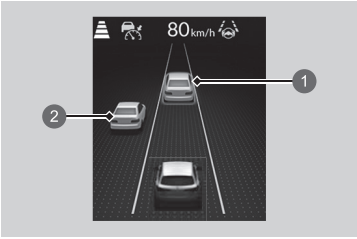
先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。



ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



❶ 警告音

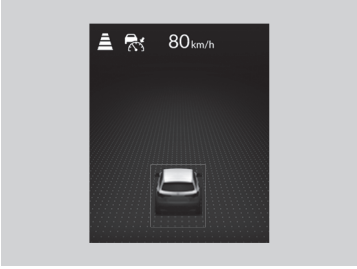


設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

❶ 検知範囲に入ると車のアイコンが表示されます。
❷ 検知範囲外の車などのアイコンが表示されます。

制御対象車両アイコン : ホワイト、車両輪郭グリーン
制御対象外車両アイコン : グレー

■先行車がいないとき



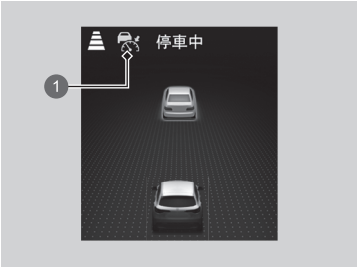
先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速後、定速走行します。

急な下り坂では、過度な加速を防ぐと共に設定した車速を保持するために減速制御を行いますが、設定した車速を超えてしまう場合があります。

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、渋滞追従機能付ACCが一時的に解除され車速が上がります。このとき、渋滞追従機能付 ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、渋滞追従機能付ACCが復帰し追従走行または定速走行を再開します。

■先行車が減速して停車するとき



先行車が停車すると、自車も自動で停車します。メーターにメッセージが表示されます。
先行車の動きに合わせて RES/+/SET/- スイッチを上か下に押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

❶ (グリーン)

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

カスタマイズ機能で先行車検知音の有り / 無しを設定できます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

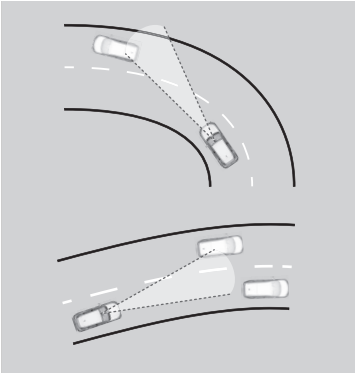
制限:

安全な車間距離を保つために、渋滞追従機能付 ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより渋滞追従機能付 ACC が適切に作動しないことがあります。

➡ **渋滞追従機能付 ACC の条件と制限** P.204
➡ **車間距離を設定するには** P.208

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ 渋滞追従機能付 ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除する場合があります。以下の条件では渋滞追従機能付 ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

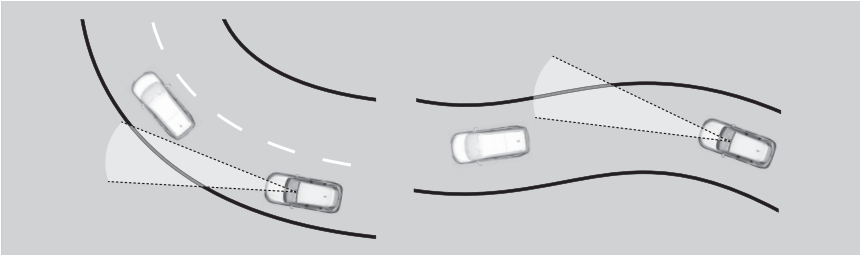
➡ **フロントワイドビューカメラ** P.236

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき



- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

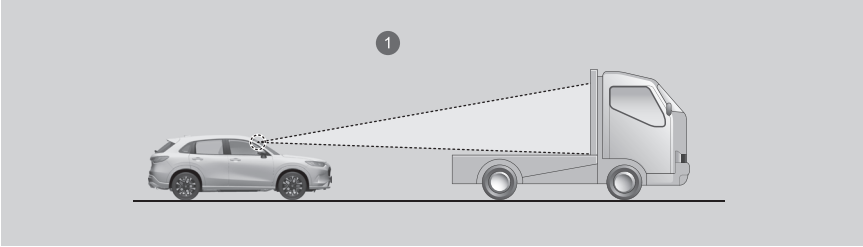
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■前方の車両の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき
- 前方の車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで前方の車両が片側点灯または無灯火のとき

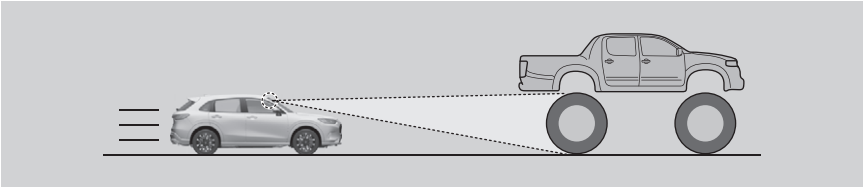
■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両が特殊な形状の車両
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両



❶ トラックの上部を検知

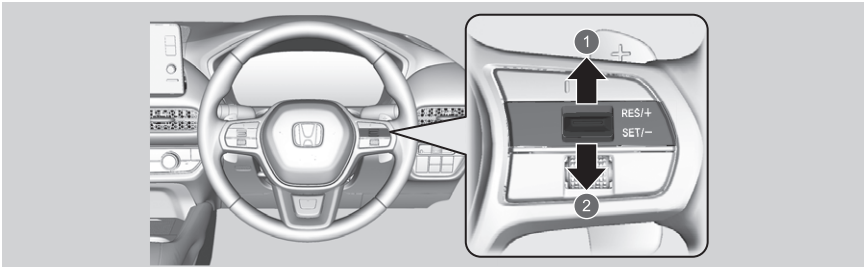
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき



- 前方の車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

■ 設定車速を調整するには

手元の RES/+/SET/- スイッチの操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



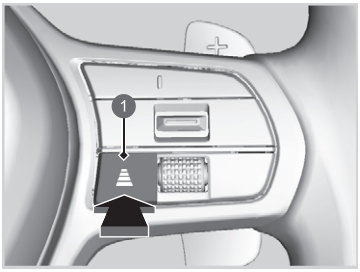
❶ RES/+ 側
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

❷ SET/- 側
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。
これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

アクセルペダルを踏み、RES/+/SET/- スイッチを下に押すと、現在の車速が設定車速になります。

■ 車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。
適切な車間距離の設定を決定してください。

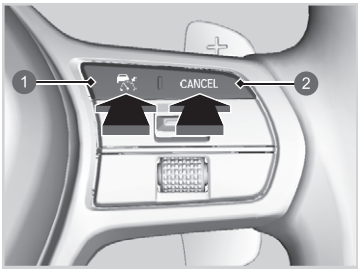
❶ ディスタンススイッチ

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 31m
中		約 35m	約 43m
長		約 44m	約 55m
最長		約 54m	約 67m

先行車が停車し、自車も自動で停車したときの車間は車間距離設定により変わります。

■ 解除するには



❶ スイッチ
❷ CANCEL スイッチ

以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付ACCが解除されます。

- CANCEL スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が消灯します。
- 車両が前進しているときにブレーキペダルを踏む
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。

■渋滞追従機能付 ACC の自動解除

次の場合は、メッセージが表示され、「ピー」とブザーが鳴り、渋滞追従機能付ACCが自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABSやVSA、衝突軽減ブレーキ(CMBS)または踏み間違い衝突軽減システムが作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 停車状態で先行車がいなくなったとき
- 急加速したとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んでいるとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯したとき

- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- LKAS が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき

解除前の設定車速を復帰させるには:

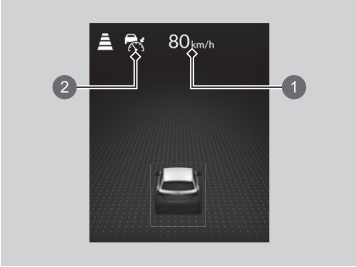
渋滞追従機能付 ACC を解除したあと、先行車を検知している場合、停車状態でも RES/+/SET/- スイッチを上に押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。

CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合、この車速で作動が開始されます。

また、(ホワイト)が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合は、RES/+/SET/- スイッチを下に押した場合と同様に現在の車速が設定されます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- スイッチを押して渋滞追従機能付 ACC を OFF したあと
- 30km/h 以下で先行車がいないとき



❶ 解除前の設定車速(グレー)
❷ (ホワイト)

停車中の解除:

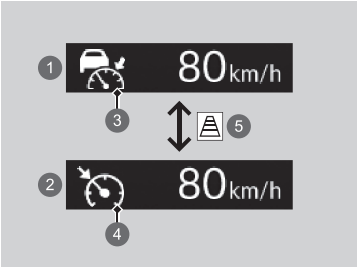
渋滞追従機能付 ACC によって自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合に、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。



❶ 警告音

すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

■ クルーズモードへの切換え



❶ 渋滞追従機能付 ACC ON
❷ クルーズモード ON
❸ (ホワイト)
❹ (ホワイト)
❺ ディスタンススイッチ

ディスタンススイッチを 1 秒間押し続けます。
マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズモードに設定しました」と表示された後、クルーズモードに切り換わります。
同時に、メーター内の(ホワイト)が(ホワイト)に変わります。
再度ディスタンススイッチを1秒間押し続けると、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC モードに設定しました」と表示された後、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

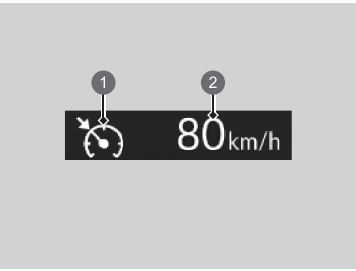
以下の場合、モードを切り換えられません。
- 車速をセットしているとき
- スイッチが OFF のとき

クルーズモードへ切り換えた状態でもスイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

■ 車速をセットするには

希望の車速になったらペダルから足を離し、**RES/+/SET/-** スイッチを上か下に押します。

RES/+/SET/- スイッチを上か下に押して離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。



同時に、メーターに(グリーン)と設定車速が表示されます。

❶ (グリーン)
❷ 設定車速

■作動条件
約 30km/h 以上で走行しているとき

クルーズモードを使用すると Straight Driving Assist(直進保舵支援機能)が作動します。
これは EPS(電動パワーステアリング)の機能であり、直進におけるハンドル保舵力を低減し、直進走行しやすくします。

■ 車速を調節するには

RES/+ 側
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

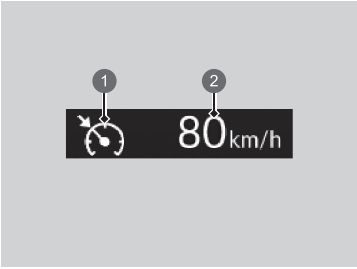
SET/- 側
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

■ 解除するには

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。
- CANCEL スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。
- スイッチを押す
  ▶ メーター内の(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む
  ▶ メーター内の(グリーン)が(ホワイト)になります。

解除前の設定車速に復帰させる
自動定速走行を解除したあとでも、30km/h 以上の車速で走行中に RES/+/SET/- スイッチを上に押すとメーター上に表示されている解除前の設定車速(グレー)で作動を開始することができます。
CANCEL スイッチまたはブレーキペダルで解除した場合、その直前の設定車速がグレーで表示されます。RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合、この車速で作動が開始されます。
また、(ホワイト) が表示され、解除前の設定車速(グレー)の表示が無い状態で RES/+/SET/- スイッチを上に押した場合は、RES/+/SET/- スイッチを下に押した場合と同様に現在の車速が設定されます。
ただし、下記の場合は復帰できません。

- 車速が 30km/h 未満のとき
- スイッチで OFF 操作をしたとき



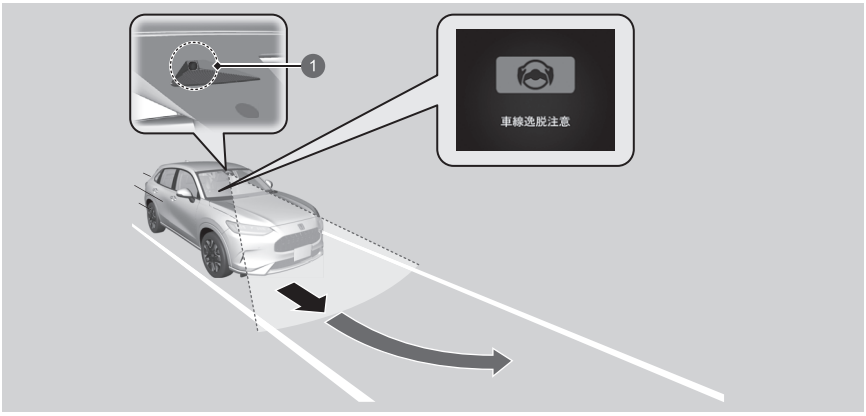
❶ (ホワイト)
❷ 解除前の設定車速(グレー)

車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

車線維持支援システム(LKAS)

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動

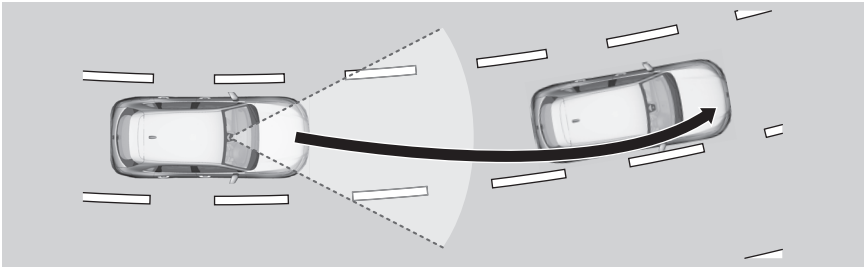


❶ フロントワイドビューカメラ

車線変更する場合は、方向指示器（ウィンカー）を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線（黄線）を検知すると、LKAS が復帰します。方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

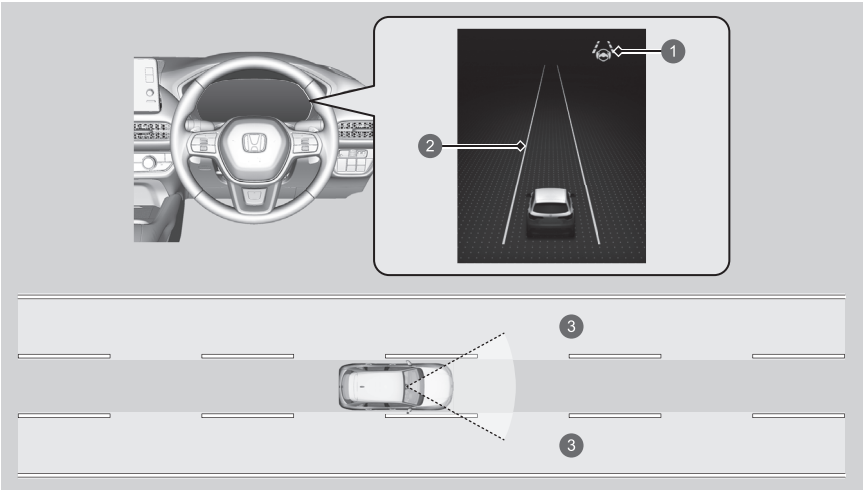
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線（黄線）に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。



❶ 車線維持支援システム（LKAS）表示灯（グリーン）
❷ 車線表示（オレンジ）
❸ 警報エリア

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKAS は方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線（白線や黄線）や車線逸脱を検出できない場合があります。
また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➡ **フロントワイドビューカメラ** P.236

LKAS は条件により正常に作動しない場合があります。

➡ **LKAS の条件と制限** P.218

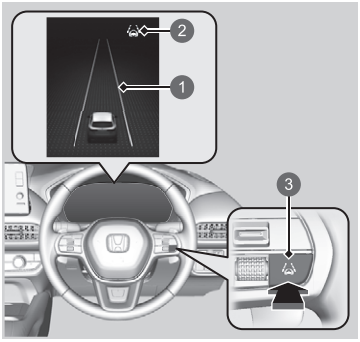
車線の検知ができないときは、一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■LKAS を作動させるには

LKAS は、以下の条件で作動します。

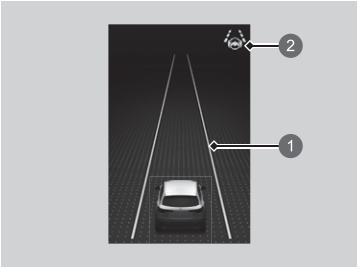
- 車速が約 65 ～ 120km/h で走行しているとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき

■システムの作動方法



❶ 車線表示(ホワイト)
❷ 車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト)
❸ 車線維持支援システム(LKAS)スイッチ

1. LKAS スイッチを押す。
   ▶ 車線維持支援システム(LKAS)表示灯(ホワイト)が点灯します。
   システムが待機状態になります。
   ▶ カメラが両側の白線(黄線)を検知すると、メーターに車線表示(ホワイト)が点灯します。



2. 車線の中央付近を走行する。
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、メーターの車線表示とLKAS表示灯がグリーンに切り替わり、LKASの制御を開始します。

❶ 車線表示（グリーン）
❷ LKAS 表示灯（グリーン）

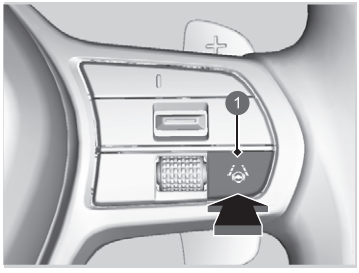
システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止しHonda 販売店で点検を受けてください。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。
LKAS の条件と制限 P.218

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

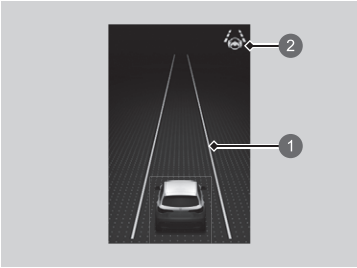
システムが作動可能状態のときにLKASスイッチを押すと、LKASは待機状態にはならずに制御を開始します。

■ 解除するには



LKAS スイッチを押すと、LKAS が解除されます。
前回走行時にLKASがON状態でも、パワーモードをOFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

❶ LKAS スイッチ



❶ 車線表示（ホワイト）
❷ LKAS 表示灯（ホワイト）

■LKAS の一時解除

次の場合、メーターの車線表示とLKAS表示灯がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。

- 車速が 50km/h 以下になったとき
  ▶車速が 50km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線（黄線）を検知すると LKAS が自動で復帰します。

■LKAS が自動的に一時解除されるとき

- 白線（黄線）を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき

これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

■LKAS が自動的にキャンセルされるとき

次の場合、メーターの車線表示が消え、ブザーが鳴り、LKAS が自動的にキャンセルされる場合があります。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

カスタマイズ機能で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

■LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線（黄線）を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

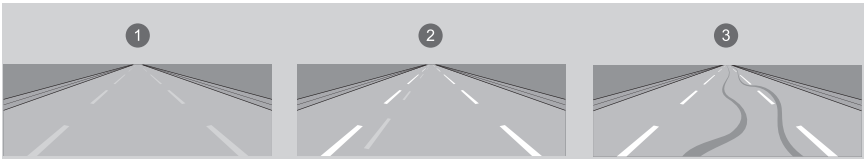
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき (木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

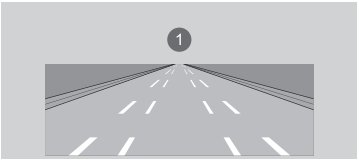
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき



❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

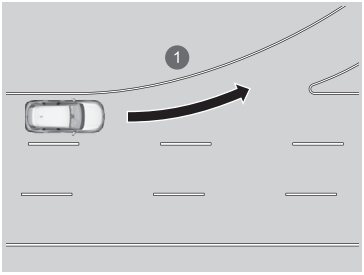
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



❶ 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき

- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



❶ 線のひかれていない分岐

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき

トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)

トラフィックジャムアシストは、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストし、渋滞時に車線維持走行を補助するための機能です。

⚠警告

トラフィックジャムアシストは補助機能として使用してください。トラフィックジャムアシストは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。

機能に頼った運転をすると、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

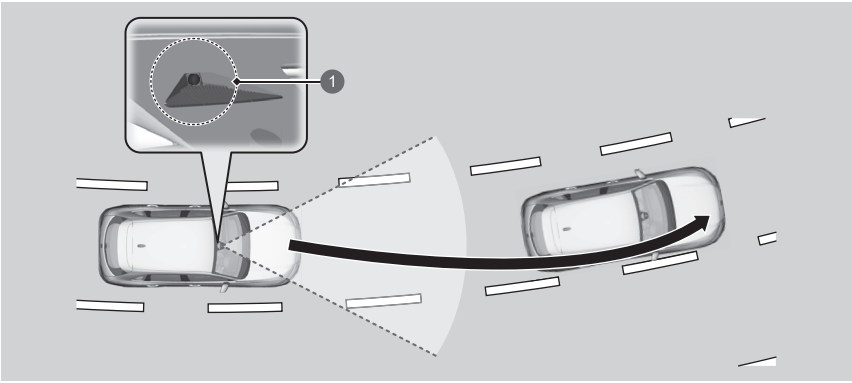
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ **フロントワイドビューカメラ** P.236

■ トラフィックジャムアシストの作動

車線維持支援システム(LKAS)作動中の渋滞時に白線(黄線)を検知すると、車線の中央を走行するようにハンドル操作をアシストします。



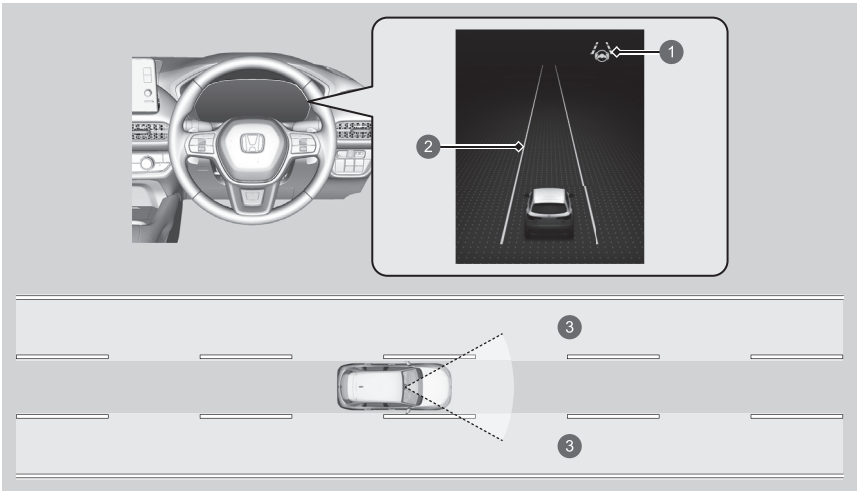
❶ フロントワイドビューカメラ

車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作するとトラフィックジャムアシストが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行し白線(黄線)を検知すると機能が自動復帰します。

機能の作動中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
運転者による操作が行われているときや、路面の状況によってはアシストが感じられないことがあります。

■車線逸脱警報機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報を音とディスプレイ表示で行います。



❶ 車線維持支援システム(LKAS)表示灯(グリーン)
❷ 車線表示(オレンジ)
❸ 警報エリア

トラフィックジャムアシストは方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
トラフィックジャムアシストは、すべての車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが正しく機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

トラフィックジャムアシストは条件により正常に作動しない場合があります。
➡ **トラフィックジャムアシストの条件と制限** P.225

■ トラフィックジャムアシストを作動させるには

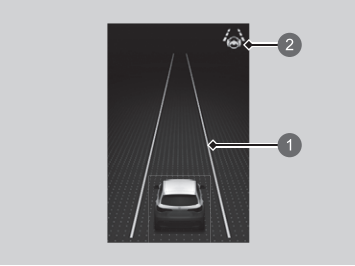
トラフィックジャムアシストは、以下の条件で作動します。
- LKAS が ON のとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 車速が約 0 ～ 65km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ハンドル操作をしているとき
- シフトポジションが D のとき

下記の状況のときは、トラフィックジャムアシストを使用しないでください。
- 急カーブのある道のとき
  ▶ 道路状況に応じた走行ができなくなることがあります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面のとき
  ▶ タイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

LKAS の取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **車線維持支援システム（LKAS）** P.213

各機能のステアリングスイッチと表示については下記を参照してください。
➡ **各機能を作動させるためのスイッチと表示** P.174

■ トラフィックジャムアシストの作動方法



車線の中央付近を走行する。
▶ 両側の白線（黄線）を検知するとシステムが作動を開始し、LKAS 表示灯と車線表示がホワイトからグリーンになります。

❶ 車線表示（グリーン）
❷ 車線維持支援システム（LKAS）表示灯（グリーン）

トラフィックジャムアシストが作動しているときに、白線（黄線）の左右に寄って走行してしまう場合は、トラフィックジャムアシストを停止し、Honda 販売店で点検を受けてください。

白線（黄線）を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。
➡ **トラフィックジャムアシストの条件と制限** P.225

作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ハンドルの操作量が少ない場合は下記の警告を表示します。



繰り返し上記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り作動が解除されます。

■ 解除するには

車線維持支援システム(LKAS)スイッチを押すとトラフィックジャムアシストが解除されます。

■ トラフィックジャムアシストが自動的に一時解除されるとき

以下の場合、トラフィックジャムアシストが一時的に解除されます。

- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- 作動中に運転者がハンドルから手を放したり、ステアリングの操作量が少ないとき
- 急なカーブを走行したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

これらの条件が長く続かなければ、機能は自動的に再開されます。
車速が 65km/h 以上になると、トラフィックジャムアシストから LKAS に切り替わり、LKAS が作動します。車速が 50km/h 以下になると、トラフィックジャムアシストは復帰します。

マルチインフォメーションディスプレイ*/オーディオ/インフォメーション画面*のカスタマイズ機能「LKAS(車線維持支援システム)制御解除警報音」で自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

■ トラフィックジャムアシストが自動的に解除されるとき

以下の場合、メーターから車線表示が消え警報音が鳴りトラフィックジャムアシストが自動的に解除されます。

- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ トラフィックジャムアシストの条件と制限

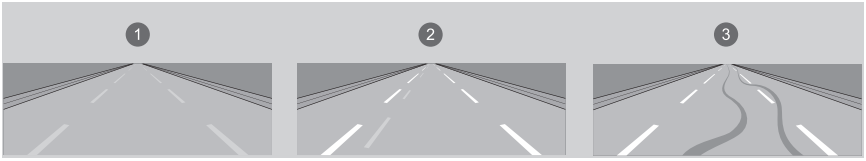
以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、トラフィックジャムアシストが正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 白線(黄線)の付近に影が映っているとき(木々、建物、ガードレール、車両など)
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短いときや交差点などで、車線や路面が見えないとき
- 強い光が路面に反射しているとき

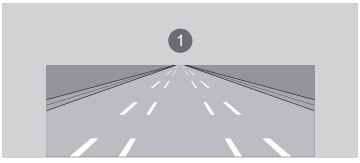
■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき



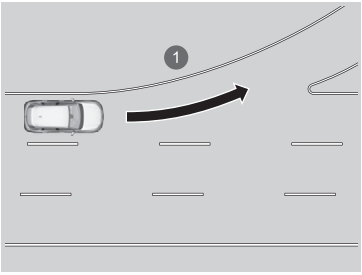
❶ 線が薄くなっている
❷ 古い車線の消し残し
❸ タイヤ痕

- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき



❶ 車線幅が極端に広い／狭い

- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき



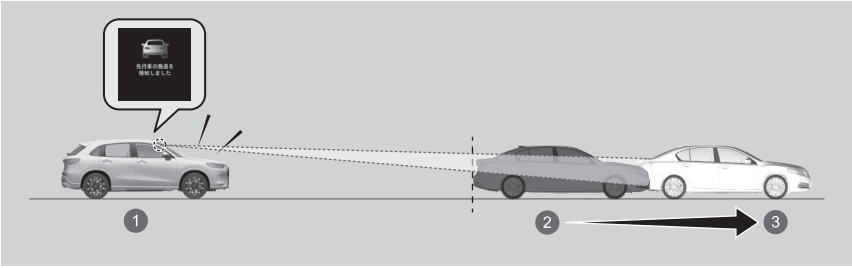
❶ 線のひかれていない分岐

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき

先行車発進お知らせ機能

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



❶ 停止
❷ 先行車停止
❸ 先行車発進

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

➔ フロントワイドビューカメラ P.236

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

■ システムの作動条件

先行車に続いて停車（停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止）すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■シフトポジションがDの場合
ブレーキペダルを踏んでいる、オートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動しているまたは渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動中で停車している。

■シフトポジションがNの場合
ブレーキペダルを踏んでいる、パーキングブレーキが作動しているまたはオートマチックブレーキホールドのブレーキ保持機能が作動している。

先行車発進お知らせ機能を OFF にすることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

警告灯(オレンジ)が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

➡ **警告灯** P.52

システムの作動タイミングを標準・早めの 2 段階から選択することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。
早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

■ システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

❶ 警告音

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かっているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 自車の停車している時間が短いとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

■先行車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき
- 先行車が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで先行車が片側点灯または無灯火のとき

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき

- 先行車が自車の正面にいないとき

■その他、作動できない事例
- 先行車の形状をカメラが正しく検知できないとき
- 先行車の最低地上高が極端に高いとき
- 先行車が荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の面積が小さい車両

標識認識機能

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をメーターに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。
- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。
また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

パワーシステムを起動後、約 15 秒の間は標識認識機能は作動しません。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。
➡ **フロントワイドビューカメラ** P.236

■ 作動のしかた

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、メーターに道路標識情報を表示します。

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

走行中にフロントガラス上部にあるカメラや地図情報で特定の道路標識を認識し、メーターに道路標識情報を表示します。

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合、道路標識は表示されません。



標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止:速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止:自車の速度が約 60km/h 以下のとき

❶ 最高速度

以下のときは、道路標識情報が別のものに切り換わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

- 最高速度は、標識を通過してから一定の距離を走行したとき(ただし地図情報が取得できている場合は表示を継続します。)、または終了を示す補助標識を認識したとき

- はみ出し通行禁止は、標識を通過してから一定距離を走行したとき、または終了を示す補助標識を認識したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

標識認識機能表示は、表示する / 表示しないの設定を変更することができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

走行中に認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

■ 標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやリヤシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識 (終了を示す補助標識など)

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終わりなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

■走行区域などにより正しい速度標識情報を提供できない事例

以下の場合は、自車の走路に対する規制情報とは異なる表示をすることがあります。

- 新しい道路が建設された場合
- 制限速度が変更された場合
- ナビゲーションのデータベースに保存されている制限速度情報が古いもしくは不正確な場合
- 情報を活用できない地域または標識が設置されていない細街路など（法定速度区間）
- 車載センサーが検知した自車の経路と実際の車両の経路が異なる場合
- 自車の走路に対して、隣接した速度の異なる道路が存在する場合
- カメラが一時的な速度標識を認識することができない場合
- トンネル内やビル群周辺など、GPS の受信精度が低下する場所を走行したとき
- 低速で停止 / 発進が続いたとき
- ナビゲーションの案内と異なるルートを走行したとき
- 急勾配 / カーブが続くとき
- 速度規制情報があるとき
- 道路交通情報（VICS）の通信遅れが発生したとき

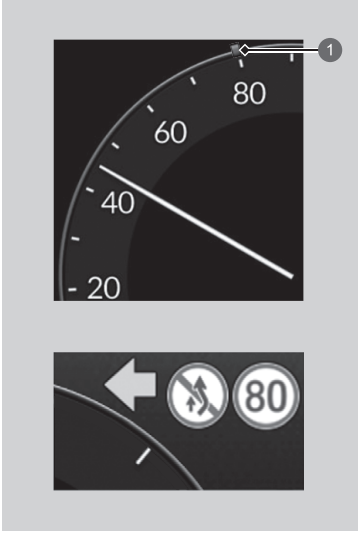
標識認識機能が故障した場合はメーターに⊖が表示されます。
⊖のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



■ メーターの表示

同時に 2 つまで道路標識情報を表示します。右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

■表示例

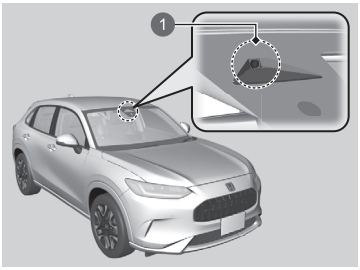


❶ 最高速度

左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約 5 秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

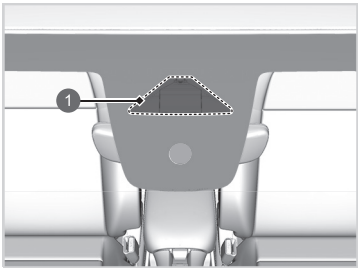
フロントワイドビューカメラ



❶ フロントワイドビューカメラ

カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。



❶ ステッカー貼り付け不可範囲

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合は Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。
➡ **車内の清掃** P.291

インストルメントパネル上部に物をおかないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。
- カメラおよび周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

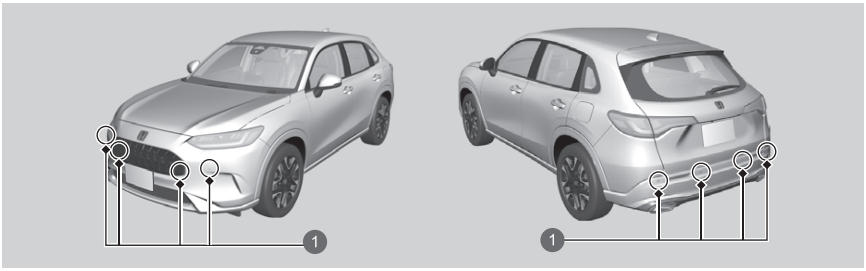
マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示される場合:
- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターモードを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとセンサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラ視界不良のため認識できません」が表示される場合:
- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスが汚れていないか確認をしてください。フロントガラスが汚れている場合は、汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda販売店で点検を受けてください。

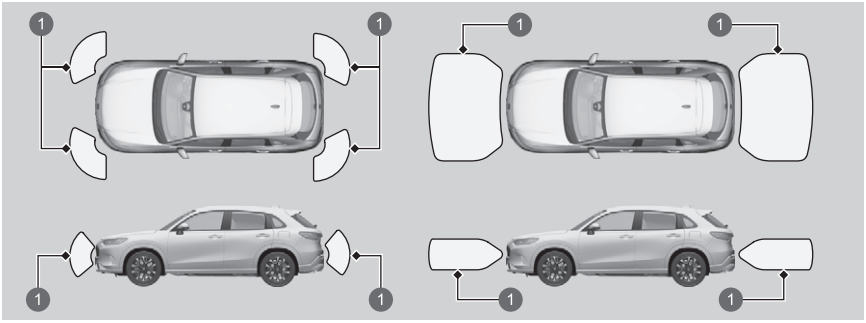
ソナーセンサー

■ センサーの取り付け位置と検知範囲

ソナーセンサーは、フロントバンパー、フロントグリルとリヤバンパーに設置されています。



❶ ソナーセンサー



❶ センサーの検知範囲

ソナーセンサーの取り扱いについて
- センサーやその周囲にステッカーなどを貼り付けない。
- センサーの周囲に強い衝撃をあたえない。
- 分解は行わない。
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。
- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。
- フロントバンパーおよびリヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 車両前方または後方が衝突、接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき

ブレーキシステム

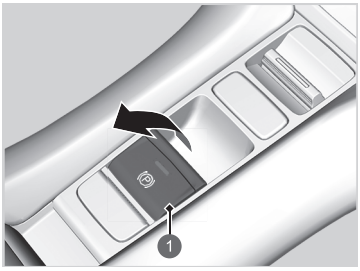
■ 電子制御パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。自動での解除および手動での操作ができます。

■手動で操作するとき

パーキングブレーキスイッチの操作で、パーキングブレーキをかけたり解除したりできます。

急な下り坂の発進時などに、手動でパーキングブレーキを解除すると、スムーズな発進を行うことができます。

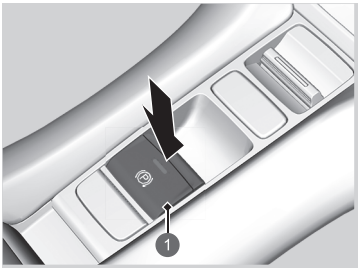


❶ パーキングブレーキスイッチ

■手動でパーキングブレーキをかける

パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げてください。

▶ パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯（レッド）が点灯します。



❶ パーキングブレーキスイッチ

■手動でパーキングブレーキを解除する

1. パワーモードがONモードのときに、右足でブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. パーキングブレーキスイッチを押す。

▶ パーキングブレーキが解除され、スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯（レッド）が消灯します。

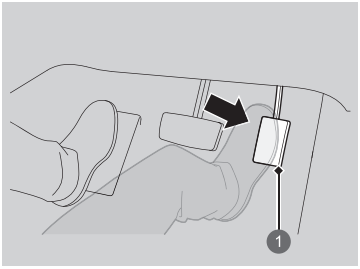
■自動パーキングブレーキ作動機能

自動パーキングブレーキ作動機能が ON になっているとき:
パワーモードを OFF モードにするとパーキングブレーキが自動でかかります。
パーキングブレーキがかかっていることを、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

➡ **自動作動機能を ON/OFF するには** P.240

■自動解除するとき

アクセルペダルの操作とパーキングブレーキの解除が連動します。
渋滞や上り坂での発進に便利です。



❶ アクセルペダル

アクセルペダルをゆっくりと踏んでください。
▶パーキングブレーキが解除され、ブレーキ警告灯(レッド)が消灯します。

パーキングブレーキの自動解除は、次の条件が揃ったときに行えます。

- 運転席シートベルトを着用しているとき
- パワーシステムが起動しているとき
- シフトポジションが P、N 以外のとき

■自動作動機能を ON/OFF するには

パーキングブレーキの自動作動機能は、パワーモードが ON モードのときに以下の操作で ON と OFF を切り替えることができます。

1. シフトポジションを P にする。
2. ブレーキペダルを踏まずに、パーキングブレーキスイッチを引き上げます。
   ▶ブレーキ警告灯(レッド)が点灯していることを確認してください。
3. パーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
   「ピーッ ピーッ ピーッ ・・・・」と鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
4. 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
   ▶自動作動機能が ON になると、「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
   ▶自動作動機能が OFF になると、「ピー」と鳴ります。
   ▶パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

また、下記操作を行うことで、パーキングブレーキの自動作動を一時的にOFFすることもできます。

1. ブレーキペダルを踏んで停車する。
2. パワーモードをOFFモードにした後、2秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。
   ▶ 自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。
   ▶ 渋滞追従機能付 ACC　およびオートマチックブレーキホールドシステムの機能がOFF になっている状態で行ってください。
   ▶ パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキ装置の作動のため、エンジンルームからモーター音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

アドバイス

パーキングブレーキをかけたり解除したときに作動音が聞こえます。
これはブレーキシステムが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキをかけたり解除するとブレーキペダルが動くことがあります。

これはブレーキシステムの作動によるもので異常ではありません。

12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキをかけたり、解除することはできません。

➡ 12V バッテリーがあがったとき P.316

走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

以下の状態のときは、パーキングブレーキが 自動で作動します。

- 10分以上渋滞追従機能付ACCまたはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で停車しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態で運転席のシートベルトを外したとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはオートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でパワーシステムを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが作動している状態でシステムに問題が発生したとき

パーキングブレーキを自動で解除できないときは、手動で解除してください。
次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できません。
- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- VSA 警告灯
- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
自動作動機能を OFF にして、石などで輪留めをしてください。
また、けん引の場合は、必要に応じて自動作動機能を OFF にして、パーキングブレーキがかからないようにしてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。
緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。
➡ **電子制御ブレーキアシスト** P.248

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。
➡ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P.247
水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

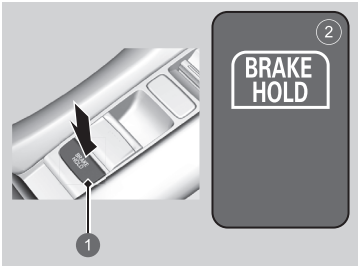
ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。
Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。
そのため、長い下り坂などでは回生ブレーキを使用します。
アクセルペダルから足を離し、減速セレクターを使用すると、回生ブレーキの強さが調整できます。
➡ **減速セレクター** P.156

■ オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくても、自動的にブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを操作すると、自動でブレーキが解除され発進することができます。信号待ちなどの一時的に停止したいときの使用に適しています。

■機能を ON させるには



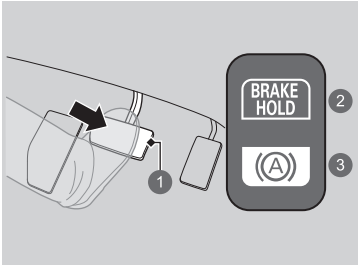
❶ オートマチックブレーキホールドスイッチ
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯

シートベルトを着用し、パワーシステムを起動してからオートマチックブレーキホールドスイッチを押す。

▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が点灯し、機能が ON になります。

パワーシステムを一度停止してから運転席のシートベルトを着用し再度起動しても、前回と同じ設定で復帰します。

■ブレーキを保持させるには

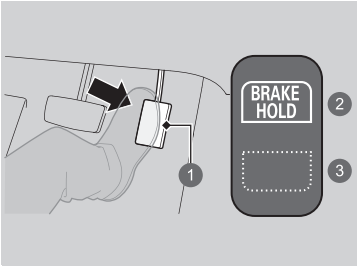


❶ ブレーキペダル
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯点灯

シフトポジションが P R 以外のときにブレーキペダルを踏んで停車する。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯し、自動でブレーキが 10 分間保持されます。
▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯後、ブレーキペダルから足を離してください。

■車両を発進させるには



❶ アクセルペダル
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯点灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯消灯

シフトポジションが P N 以外のときにアクセルペダルを踏むと機能が解除し、発進します。

▶ オートマチックブレーキホールド表示灯が消灯し、自動でブレーキが解除されます。

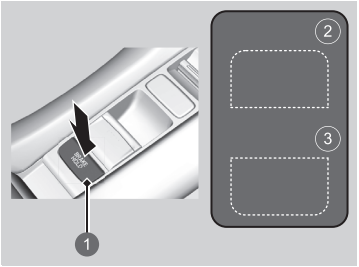
■ブレーキ保持機能が自動的に解除されるとき

- パーキングブレーキスイッチを引いたとき
- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動した後、オートマチックブレーキホールドシステムによるブレーキ保持が解除されます。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーシステムを停止したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

■機能を OFF させるには



❶ オートマチックブレーキホールドスイッチ
❷ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯消灯
❸ オートマチックブレーキホールド表示灯消灯

オートマチックブレーキホールドシステム表示灯のみ点灯しているとき:

- オートマチックブレーキホールドスイッチを押す
  ▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯が消灯します。

オートマチックブレーキホールドシステム表示灯とオートマチックブレーキホールド表示灯が同時に点灯しているとき:

- ブレーキペダルを踏みながら、オートマチックブレーキホールドスイッチを押す
  ▶ オートマチックブレーキホールドシステム表示灯およびオートマチックブレーキホールド表示灯が消灯します。

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。
急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

⚠警告

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。
不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

システムが作動していても通常と同じ手順でパワーシステムの停止が行えます。
➡ **駐停車操作** P.249

ブレーキ保持中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を強めるために作動音が発生する場合があります。

自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

機能が ON のときに運転席のシートベルトを外す、またはパワーシステムを停止すると機能が OFF になります。この場合は、運転席のシートベルトを着用し、パワーシステムを起動すると、オートマチックブレーキホールドスイッチ操作なしで機能が ON になります。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
なお、低速(車速約 10 km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯
パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。
通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。
ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。
ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差

パワーシステムの起動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■ 電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

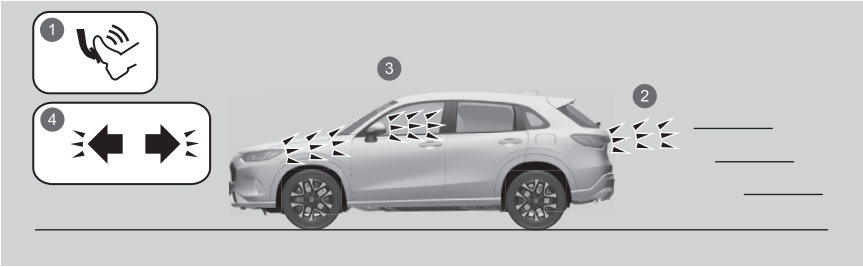
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➡ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.163

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。

■作動のしくみ



❶ 急ブレーキをかける
❷ 制動灯点灯
❸ 非常点滅表示灯が高速で点滅
❹ メーター内の方向指示器表示灯が左右同時に高速で点滅

エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。
- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチが ON のときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

駐停車操作

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止させる。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
3. シフトポジションを P にする。
   ▶ メーターにシフトポジション P が表示されるまでブレーキペダルを離さないでください。
4. パワーシステムを停止する。
   ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
無意識にシフトポジションを操作したり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

駐車時はパワーシステムをオフにする。
万一、シフトポジションがP N以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、シフトポジションがP N以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

シフトポジションをNにすると同時にPOWERを押さないでください。
Nポジションの状態になることがあります。シフトポジションはPにしてください。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂でP N以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。
車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

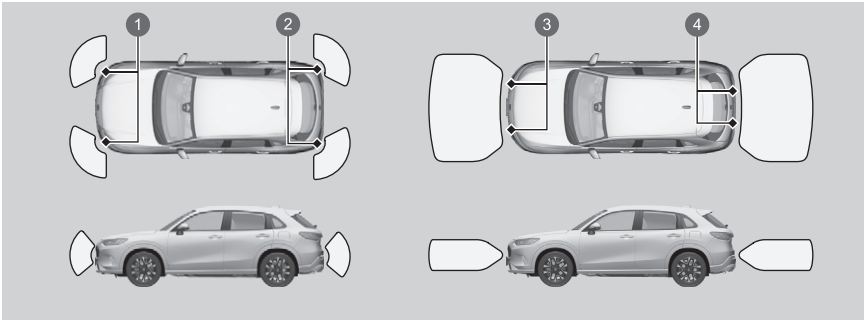
寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーシステム

車両前方のフロントセンターセンサーおよびフロントコーナーセンサーと車両後方のリヤセンターセンサーおよびリヤコーナーセンサーが障害物を検知し、障害物と車両の距離を警報音と表示で知らせます。

➔ **ソナーセンサー** P.238

■ パーキングセンサーの取付位置と検知範囲



❶ フロントコーナーセンサー
❷ リヤコーナーセンサー
❸ フロントセンターセンサー
❹ リヤセンターセンサー

■ パーキングセンサーの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。
警報音および表示が OFF になります。

➔ **表示の切り換えかた** P.70
➔ **安全支援情報** P.77

フロントコーナーセンサーおよびリヤセンサーは、シフトポジションが R で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

フロントセンサーは、シフトポジションが P R 以外で、車速が 8km/h 以下のとき障害物を検知します。

パワーシステムを起動したときは、パワーモードを OFF する前の状態（ON または OFF）を保持します。

マルチインフォメーションディスプレイ* またはオーディオ / インフォメーション画面* を使用して、リアパーキングセンサー警報設定の ON/OFF を切り換えることができます。

Honda CONNECT ディスプレイ非装備車

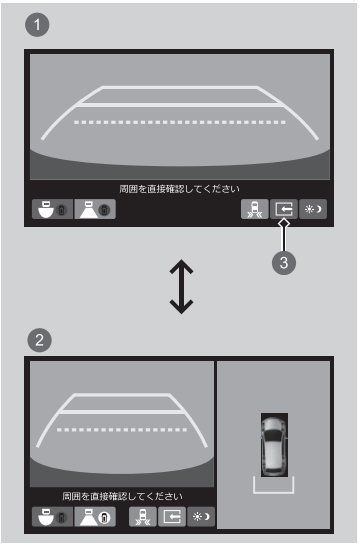
➡ **時計*/ 車両設定** P.81

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

Honda CONNECT ディスプレイ装備車

■ 画面操作



アイコンをタッチして、ディスプレイを通常表示または分割表示に切り替えることができます。

❶ 通常表示
❷ 分割表示
❸ アイコン

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。
- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- センサーの近くにアクセサリーがあるとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。
- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。
- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けない。
リアセンサーや、その周囲にアクセサリー（自転車ラックなど）を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リアパーキングセンサーを OFF にしてください。

➡ **パーキングセンサーの ON と OFF** P.251

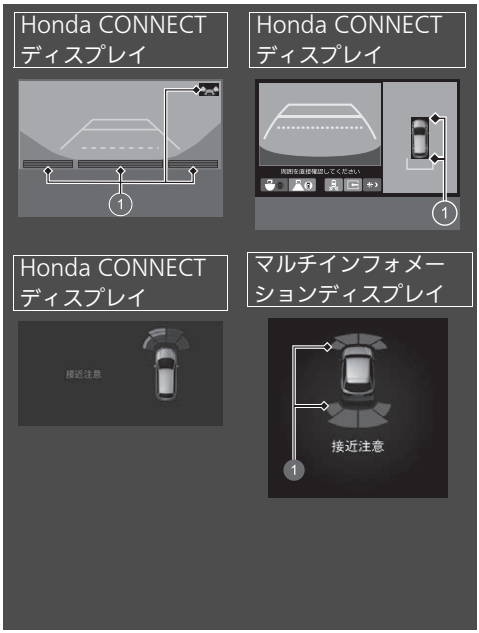
■ 障害物を検知したときの作動状態

パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサー警告灯が点滅します。

▶ システムを OFF にしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。

警報音の間隔	障害物との距離		インジケーター	マルチインフォメーションディスプレイ Honda CONNECT ディスプレイ*
	コーナーセンサー	センターセンサー		
長い	—	約 110-75cm	点灯※1/点滅※2（イエロー※3）	
短い	約 60-45cm	約 75-60cm	点灯※1/点滅※2（オレンジ）	
非常に短い	約 45-35cm	フロント：約 60-50cm リヤ：約 60-40cm		
連続	約 35cm 以下	フロント：約 50cm 以下 リヤ：約 40cm 以下	点灯※1/点滅※2（レッド）	



※1: マルチインフォメーションディスプレイ

※2: Honda CONNECT ディスプレイ

※3: このときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

❶ 障害物を検知した場所をインジケーターで知らせる

警報音を一時的に OFF にするには、警報音がなっているときにライトセレクターホイールを押してください。シフトポジションを切り替えるか 14 km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

後退出庫サポート*

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤバンパー左右にあるレーダーにより車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

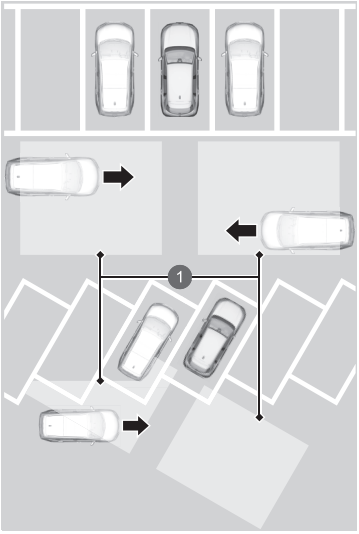
⚠警告

このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 作動条件と作動タイミング



❶ 検知範囲

パワーモードが ON モードでシフトポジションが R のときにシステムを ON にしていると、自車の車速が約 5 km/h 以下の場合に車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと画面の表示でお知らせします。

自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でお知らせを停止します。

自車から離れていく車両に対しては検知をしません。また接近する歩行者、自転車、二輪車などに対して検知する場合があります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

以下のような状況では、接近する車両を検知できなかったり、検知が遅くなったり、接近する車両がいないのに検知したりする場合があります。

- リヤバンパーの周囲に他の車両や壁などがあり、レーダーの検知範囲が影響を受けたとき
- 自車の車速が約 5km/h を越えているとき
- 接近する他の車両の車速が約 10 ～ 25km/h 以外のとき
- レーダーなどを装備した他の車両が近くにいるとき
- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- リヤバンパー側面に雪や泥などが付着しているとき
- 悪天候で、接近する他の車両をシステムが認識できないとき
- 坂道またはカーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 壁、ポール、他の車両などに近付くように後退したとき

リヤバンパーに衝撃が加わったり、リヤバンパー周辺の修理を行ったときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

リヤバンパー側面にシールなどを貼らないでください。レーダーの電波がさえぎられるため、他の車両を正しく検知できません。

システムを正しく作動させるために、リヤバンパー側面は常にきれいにしておいてください。

■ 画面表示について

接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印が表示されます。

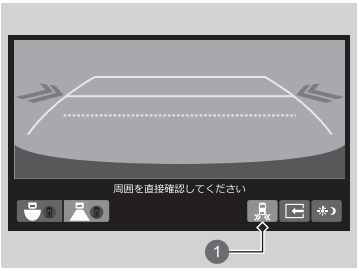


❶ 接近方向矢印
❷ リアノーマルビュー＋グラウンドビュー
❸ リアワイドビュー
❹ リアノーマルビュー

パーキングセンサーシステムが最短距離を検出しているときは、パーキングセンサーシステムのブザーが優先され、後退出庫サポートのブザーは鳴りません。

画面右下のアイコンが から (オレンジ) に変わったときは、リヤバンパー側面に雪や泥などが付着していることにより一時的にシステムが動作しません。リヤバンパー側面の付着物を取り除いてください。

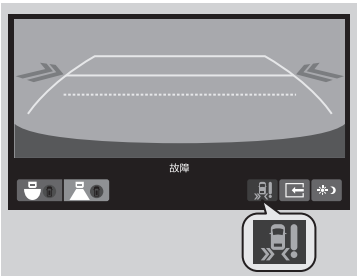
■ 後退出庫サポートの ON と OFF



後退出庫サポートアイコンを押して、システムの ON/OFF を切り換えます。ON にすると、アイコンの表示灯(グリーン)が点灯します。
また、カスタマイズ機能を使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

➡ 別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書

❶ 後退出庫サポートアイコン



画面右下のアイコンが上記の表示に変わったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず、Honda 販売店で点検を受けてください。

シフトポジションを R にしても画面が切り換わらないときは、カメラシステムに異常があります。このとき、後退出庫サポートも正常に作動できなくなります。Honda 販売店で点検を受けてください。

リアワイドカメラシステム*

リアワイドカメラシステムの取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda CONNECT ナビ」もしくは「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

マルチビューカメラシステム*

マルチビューカメラシステムは、運転席から死角となる部分を、オーディオ / インフォメーション画面に映る画像で確認するシステムです。このシステムを補助的に使用することで、次のような場合に運転者の負担を軽減します。

- 見通しの悪い交差点で左右を確認する
  ➡ **見通しの悪い交差点で左右を確認するには** P.266

- 狭い道でのすれ違いや路肩への幅寄せ、車庫入れなどで前方の障害物を確認する
  ➡ **前方と前方側面の障害物を確認するには** P.264

- 後方の障害物を確認する
  ➡ **後方の障害物を確認するには** P.267

- 車両の周囲を確認する
  ➡ **車両の周囲を確認するには** P.265

⚠警告

周囲の安全は、マルチビューカメラシステムの画像だけに頼らず、目視やミラーなどで直接確かめてください。

このシステムは運転者の操作をサポートするためのものであり、事故や衝突を防止するためのシステムではありません。

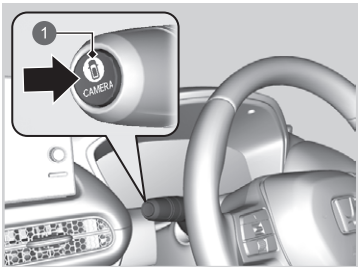
運転操作時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、表示できない可能性があるため、画面の表示のみを頼って操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

事故防止のため、周囲の安全を確かめてご使用ください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

マルチビューカメラの画像を表示させるには



❶ CAMERAスイッチ

前方表示:
シフトポジションがRレンジ以外のときにCAMERAスイッチを押します。
CAMERAスイッチを押すと画像が切り換わります。

後方表示:
停車中にシフトポジションをRレンジにします。
CAMERAスイッチを押すと画像が切り換わります。

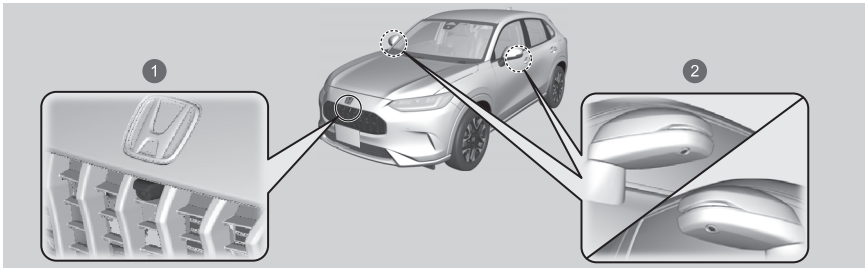
表示設定はカスタマイズできます。
➡ **別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書**

パーキングセンサーが障害物を検知すると、インジケーターが表示されます。
➡ **パーキングセンサーシステム** P.251

車両が後方から接近していることが検知されると、後退出庫サポートが警告します。
➡ **後退出庫サポート*** P.255

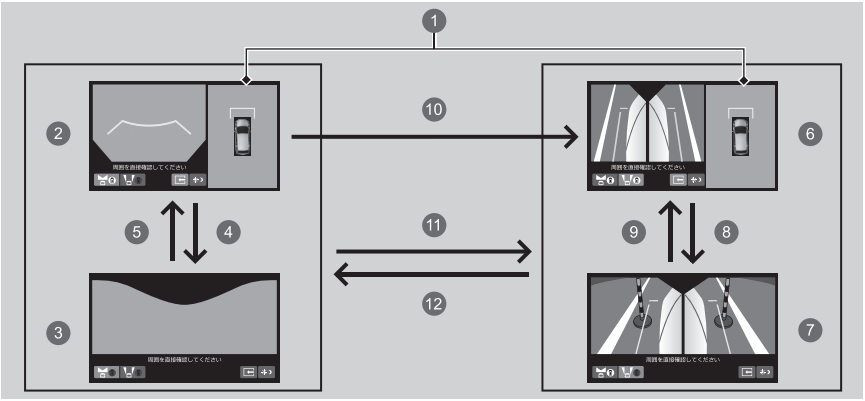
シフトポジションがRレンジのときは、オーディオとナビゲーションシステムは操作できません。

■ カメラの設置場所と画像について



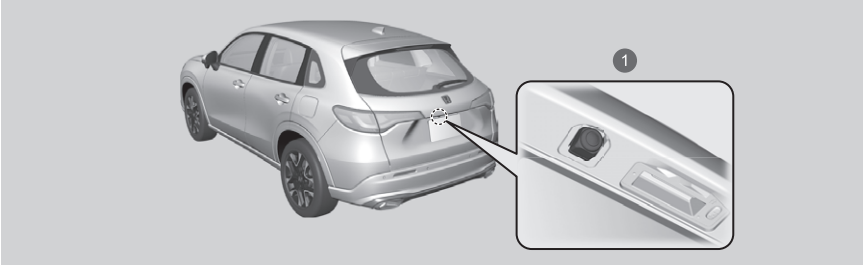
❶ フロントカメラ
❷ サイドカメラ

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

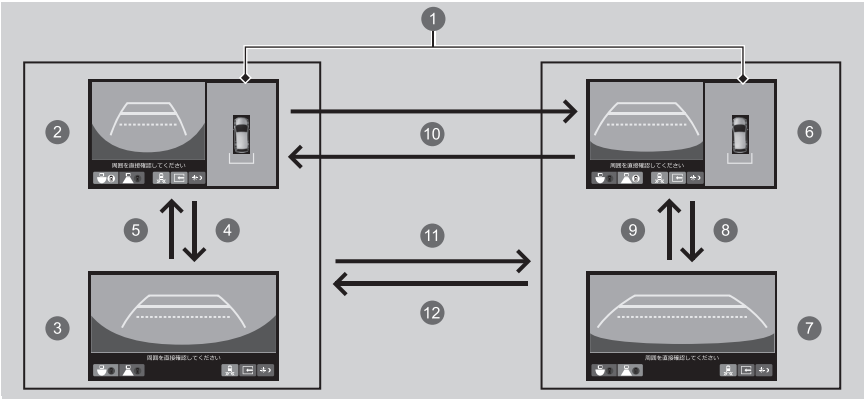


❶ グラウンドビュー:4台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。
❷ フロントビュー+ グラウンドビュー
❸ フロントブラインドビュー
❹ or
❺ or or CAMERAスイッチ
❻ 左右サイドビュー+ グラウンドビュー
❼ 左右サイドビュー
❽ or
❾ or or CAMERAスイッチ
❿ CAMERAスイッチ
⓫ or
⓬ or

カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。



❶ リアカメラ



❶ グラウンドビュー:4台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。
❷ リアワイドビュー+ グラウンドビュー
❸ リアワイドビュー
❹ or
❺ or or CAMERAスイッチ
❻ リアビュー+ グラウンドビュー
❼ リアビュー
❽ or
❾ or or CAMERAスイッチ
❿ CAMERAスイッチ
⓫ or
⓬ or

カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。

■ 目安ガイド線と予測ガイド線表示

マルチビューカメラシステムが起動している状態のときに以下のガイド線を表示できます。
目安ガイド線:車両からの距離を表示することができます。この距離は、実際の距離とは異なる場合があります。
予測ガイド線:ハンドル操作に応じて、車両の動く方向を表示することができます。

目安ガイド線および予測ガイド線とカメラ画像が示す距離は、車高の変化や路面の状態の影響などにより、実際の距離と異なることがあります。
目安ガイド線および予測ガイド線はあくまでも参考としてお使いください。

目安ガイド線および予測ガイド線はカスタマイズにより表示 / 非表示を切り換えることができます。

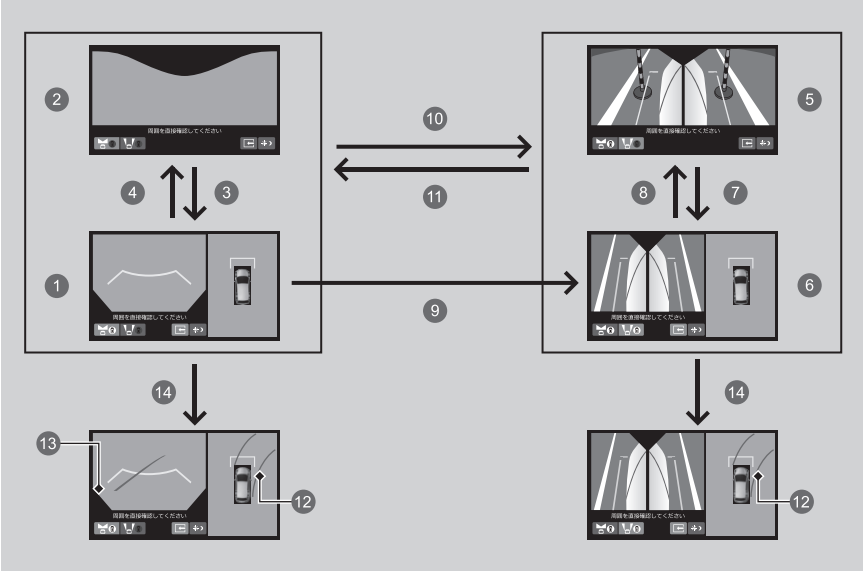
➡ 別冊の Honda CONNECT ディスプレイ取扱説明書

目安ガイド線および予測ガイド線を非表示にした場合、再度表示にするまで非表示の状態が維持されます。

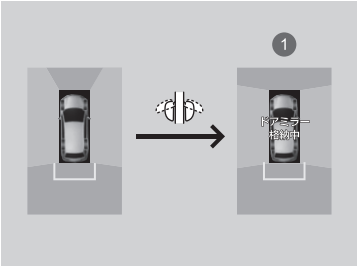
■ マルチビューカメラの使いかた

■前方と前方側面の障害物を確認するには

CAMERAスイッチを押すと前方画面表示が表示できます。シフトポジションがR以外のときにCAMERAスイッチを押すと、画像が以下のように切り換わります。

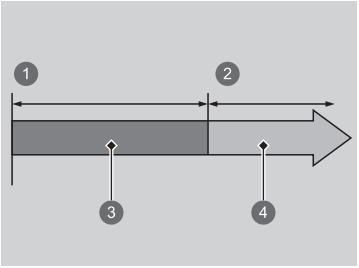


❶ フロントビュー+ グラウンドビュー
❷ フロントブラインドビュー
❸ or or CAMERAスイッチ
❹ or
❺ 左右サイドビュー
❻ 左右サイドビュー+ グラウンドビュー
❼ or or CAMERAスイッチ
❽ or
❾ CAMERAスイッチ
❿ or or CAMERAスイッチ
⓫ or
⓬ 予測ガイド線は、車両の外側から約 25cm の位置に表示されます。
⓭ 死角になる部分は黒く表示されます。
⓮ ハンドルを 90 度以上切る



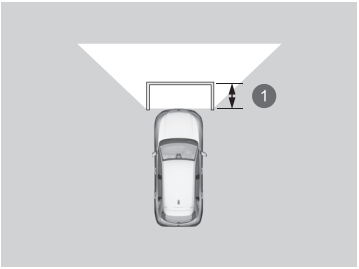
ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されます。ただし、ドアミラー格納中は表示エリアおよび死角が異なりますので注意してください。

❶ 格納中の表示



車速が25km/hを超えるとフロントビューまたはサイドビュー画面は自動的にオーディオ / インフォメーション画面に切り換わります。ただし、表示から約5秒間は表示を続けます。

❶ 0 km/h
❷ 25 km/h
❸ カメラ画面
❹ オーディオ / インフォメーション画面



ガイド線の距離は、おおよその距離です。

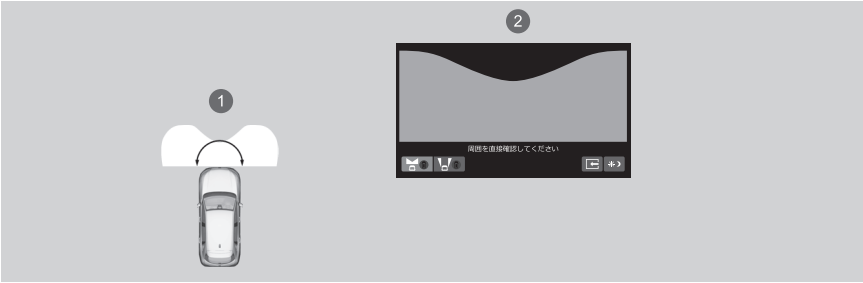
❶ 約 1m

■車両の周囲を確認するには

グラウンドビュー画面は停車時などで車両の周囲を確認する際に使用すると便利です。

■見通しの悪い交差点で左右を確認するには

フロントブラインドビュー画面は見通しの悪い交差点などで左右を確認する際に使用すると便利です。

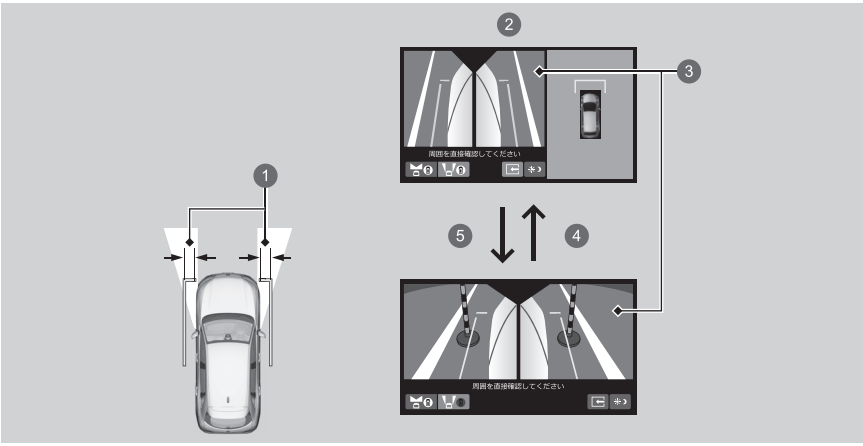


❶ フロントブラインドビュー画面に表示される範囲は約 180 度です。
❷ フロントブラインドビュー

フロントブラインドビュー画面は広い範囲を写すため、画像は大きくゆがんで表示されます。また障害物との距離が実際より近くまたは遠くに見えることがあります。

■前方側面の障害物を確認するには

左右サイドビュー画面は路肩や料金所に幅寄せしたり、狭い道でのすれ違いの際に使用すると便利です。

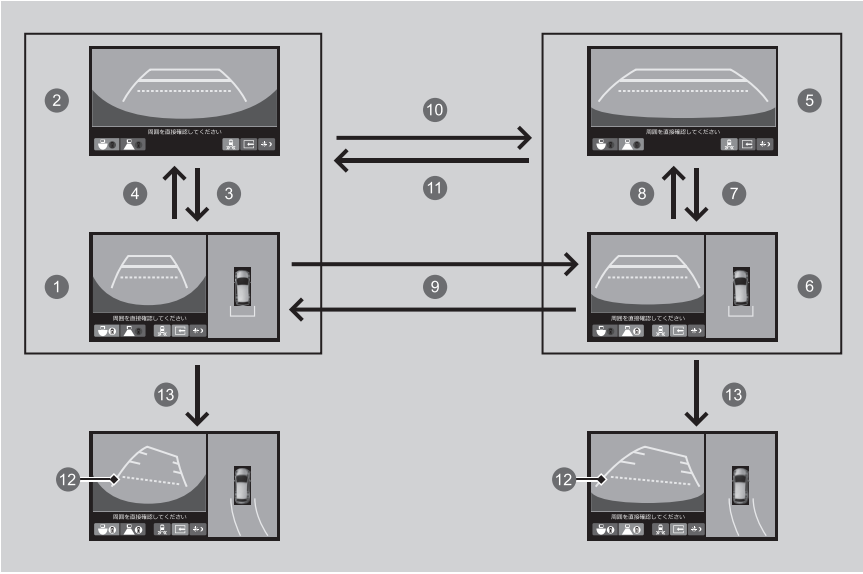


❶ 30cm
❷ サイドビュー画像
❸ サイドビュー:サイドカメラの画像です。
❹ or or CAMERA スイッチ
❺ or

目安ガイド線の距離車両外側から約 30cm
サイドビューは、ドアミラーを格納しているときは表示されません。

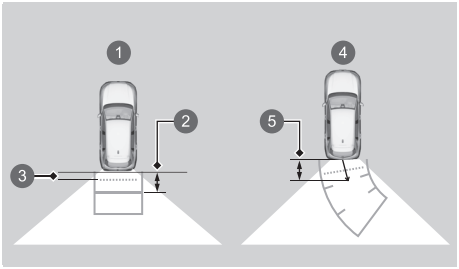
■後方の障害物を確認するには

シフトポジションを[R]にすると、自動的に後方画面表示に切り換わります。



❶ リアワイドビュー+ グラウンドビュー
❷ リアワイドビュー
❸ or or [CAMERA]スイッチ
❹ or
❺ リアビュー
❻ リアビュー+ グラウンドビュー
❼ or or [CAMERA]スイッチ
❽ or
❾ [CAMERA]スイッチ
❿ or
⓫ or
⓬ 予測ガイド線は、車両の外側から約 25cm の位置に表示されます。
⓭ ハンドルを 90 度以上切る

シフトポジションを R に切り換えたときに、後方画面表示が遅れて切り換わることがあります。



おおよその距離

❶ 目安ガイド線の距離
❷ 約 1m
❸ 約 65cm
❹ 予測ガイド線の距離
❺ 約 1m

マルチビューカメラシステムの制限

次の状態では、システムは適切に働きません。

状態		対処のしかた
予測ガイド線が不正確		Honda 販売店で点検を受けてください。
カメラの画像が不鮮明	• 雨、霧、雪などの悪天候のとき、または周囲が暗い場合 • カメラが高温になった場合 • トンネルの出入り口などで明るさが変化した場合 • 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行する場合 • カメラのレンズに傷がついた場合	システムが適切に作動するまでマルチビューカメラシステムを使用せず、目視やミラーで直接周囲を確認してください。
	• カメラのレンズが汚れ、水滴、ちりなどでおおわれている場合 • 水滴や虫などがついた場合	レンズが汚れたときは、水や中性洗剤、ガラスクリーナーなどを含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
	• 画面が指紋などで汚れている場合	オーディオ / インフォメーション画面の汚れを柔らかい布で拭き取ってください。
カメラの位置がずれた	カメラもしくは、その周囲に強い衝撃が加わったことが考えられます。	マルチビューカメラシステムの使用をやめて、ただちにHonda販売店にご相談ください。
マルチビューカメラシステムを使用中に画面にエラーメッセージが表示された		
25 km/h 以下で走行中に、画面に映像が表示されない		

給油

指定燃料について

■ 指定燃料

無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■ タンク容量

57 リットル

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

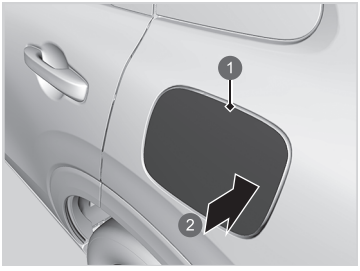
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

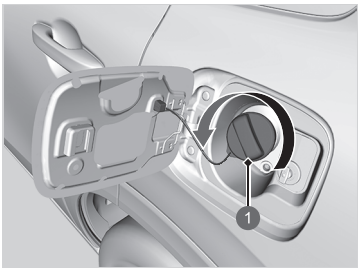
給油のしかた

1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席ドアを解錠する。
   ▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。
   ➡ **車内での施錠 / 解錠** P.93



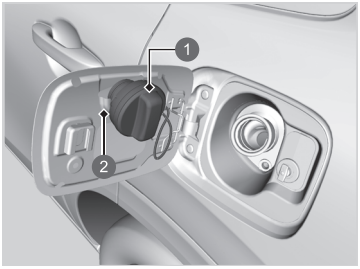
4. フューエルリッドの右端を「カチッ」と音がするまで押し、手を離す。
   ▶ リッドが少し浮き上がります。

❶ フューエルリッド
❷ 押す



5. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

❶ キャップ



6. キャップをホルダーにかける。
7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
   ▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
8. 給油後、「カチッ」という音が　1　回以上するまでキャップを締め付ける。
   ▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

❶ キャップ
❷ ホルダー

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

6 メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。
作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

■ 点検整備の種類

■日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検
12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

■ メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■ 車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

メンテナンスに関する注意事項

■ メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

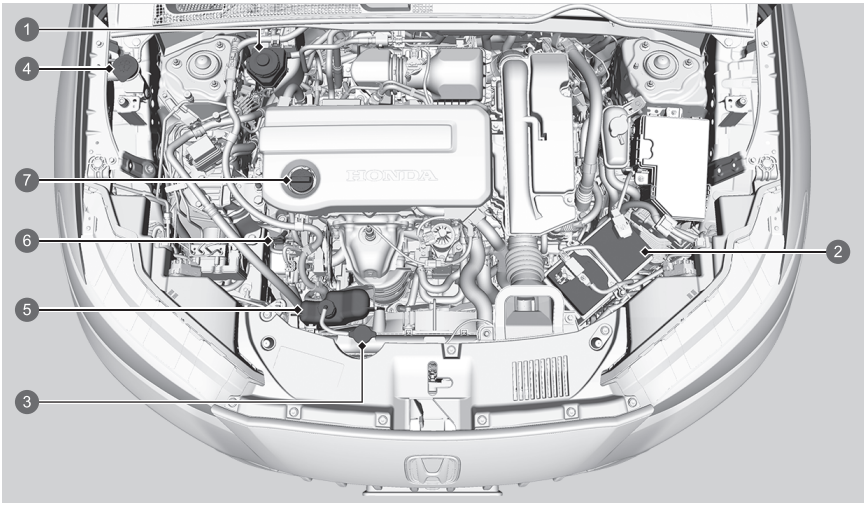
アドバイス

エンジンカバーを強く押さないでください。

エンジンカバーとその周辺部品が損傷することがあります。

エンジンルーム内のメンテナンス

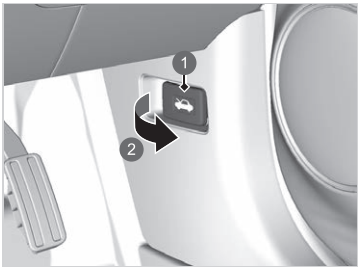
エンジンルーム内のメンテナンス項目



❶ ブレーキフルードリザーブタンク※
❷ 12V バッテリー※
❸ ラジエーターキャップ※
❹ ウィンドウォッシャー液注入口
❺ 冷却水リザーブタンク※
❻ エンジンオイルレベルゲージ※
❼ エンジンオイル注入口※

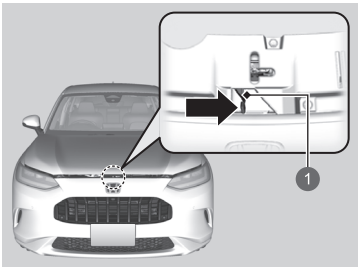
※: 点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



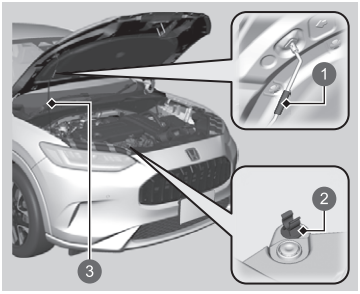
1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
   ▶ ボンネットが少し浮き上がります。

❶ ボンネット解除ノブ
❷ 引く



3. ボンネット中央のレバーを右に押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

❶ レバー



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約 30cm の高さから手を離します。

❶ グリップ
❷ クランプ
❸ ステー

⚠警告

ステーの金属部分は、エンジンから発生する熱により非常に熱くなります。

やけどを負うおそれがあるので、必ずグリップを持って使用する。

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

アドバイス

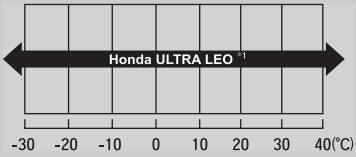
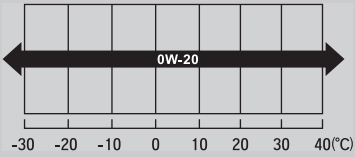
エンジンカバーを強く押さないでください。
エンジンカバーとその周辺部品が損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

推奨エンジンオイル

純正および市販のエンジンオイルは、種類と、(外気温に応じた)粘度について以下の表にもとづきお使いください。

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

純正エンジンオイル	市販エンジンオイル
Honda 純正油 • Honda ULTRA LEO※1	API SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル
 外気温	 外気温

※1: 最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。

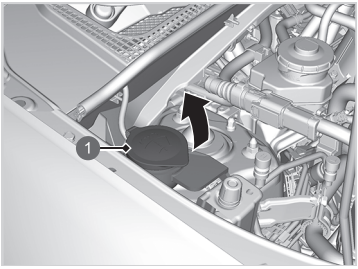
冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

API CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークは下記のとおりです。



ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

❶ キャップ

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
ウォッシャー液は必要に応じて水（軟水）で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

電球の交換

ヘッドライト電球

ロービームヘッドライト、ハイビームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

デイタイムランニングライト / 車幅灯電球

デイタイムランニングライト / 車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

アクティブコーナリングライト電球*

アクティブコーナリングライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

制動灯電球

制動灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

尾灯電球

尾灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

後退灯電球

後退灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

番号灯電球

番号灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

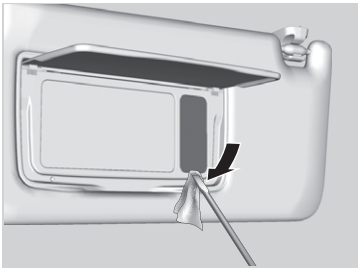
その他の電球

■ バニティミラー照明灯電球

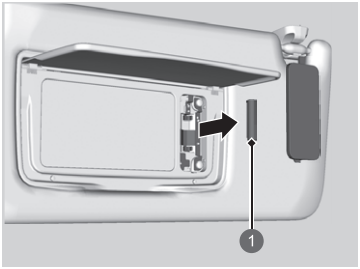
下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯:12V−2W

1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
   ▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。



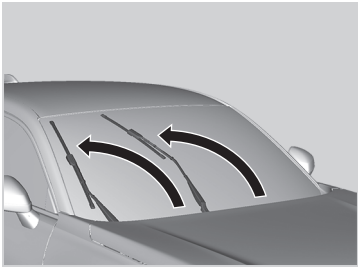
❶ 電球

ワイパーブレードラバーの点検と整備

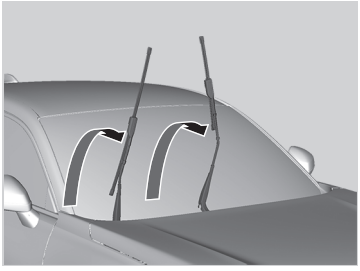
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

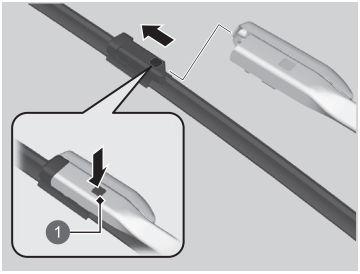
フロントワイパーブレードの交換



1. パワーモードを OFF モードにする。
2. パワーモードを OFF モードにしてから 10 秒以内に、ワイパースイッチのレバーを**MIST**の位置へ2秒以上押し上げる。
   ▶ 両方のワイパーアームが、ワイパーメンテナンスポジションにセットされます。



3. 両方のワイパーアームを起こす。



❶ タブ

4. タブを押しながら、ワイパーアームからブレードをスライドさせて外す。
5. 新しいブレードをワイパーアームへスライドさせて取り付ける。
   ▶「カチッ」と音がするまで差し込み、確実に固定します。
6. 両方のワイパーアームを戻す。
7. パワーモードを ON モードにする。
8. ワイパースイッチのレバーを MIST の位置に押し上げて、両方のワイパーアームを通常の位置に戻す。

アドバイス

ワイパーアームを起こす際は、必ず手順にしたがってワイパーメンテナンスポジションへ動かしてください。

手動でワイパーアームを動かすと、故障の原因となります。

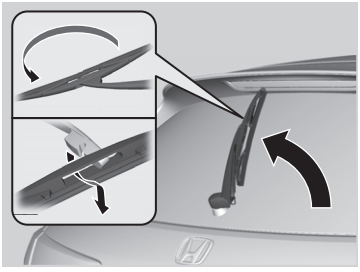
アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

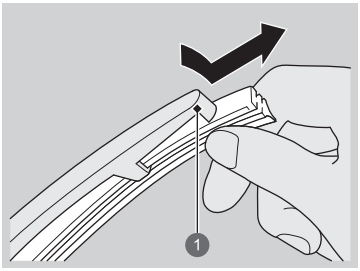
アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

リヤワイパーブレードラバーの交換

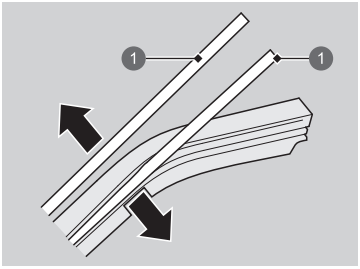


1. ワイパーアームを起こす。
2. ブレードを回転させ、アームのホルダー部からブレードを引き抜いて取り外す。



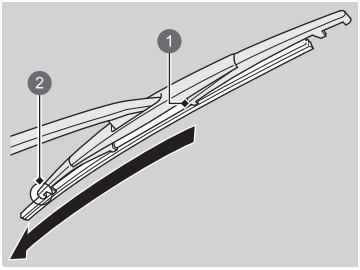
3. ラバーの先端部をブレードのストッパーから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

❶ ストッパー



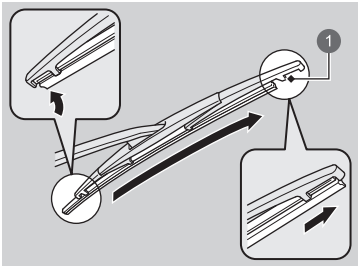
4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。

❶ リテーナー



5. ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込み、ラバーをブレードのストッパーから約 2cm 引き出す。

❶ 2 番目のツメ
❷ ストッパー



6. ブレードの先端のツメにラバーを通す。
7. ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して固定する。

❶ 先端のツメ

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

タイヤの点検と整備

タイヤの点検

■ タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

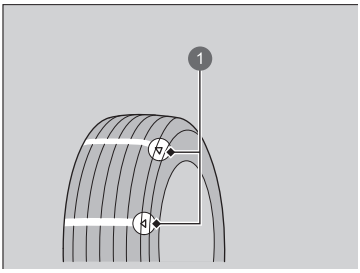
➡ **仕様** P.339

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。

- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



❶ ウェアインジケーターの位置を示すマークの代表例

ウェアインジケーター（摩耗限界表示）
ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。
接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての 4 つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

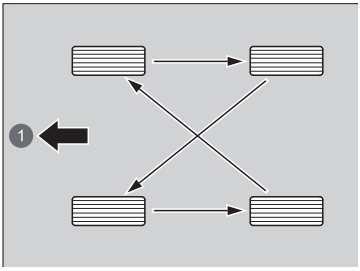
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

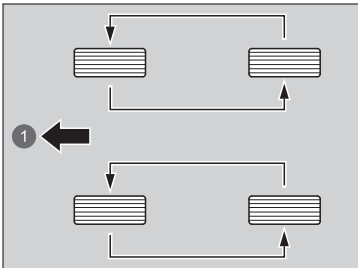
■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

❶ 前

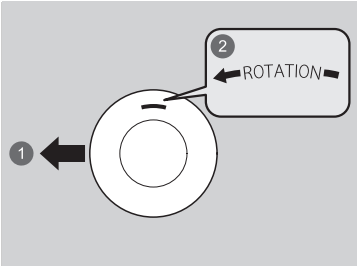
■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

❶ 前

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。
図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



❶ 前
❷ 回転指示マークの代表例

締め付けトルク
108 N･m (11 kgf･m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合:
- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合:
- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する
- 225/55R18 98H タイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーンを装着しなければならない場合は、四輪すべてをオプションの 215/60R17 96H タイヤに交換し、前輪にタイヤチェーンを装着してください。

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h 以下の速度で走行してください。
なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキー

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

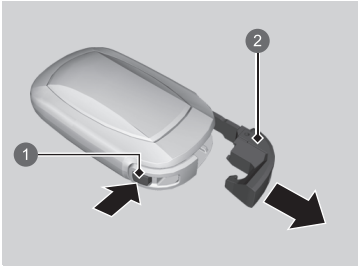
■ 取り扱いについて

Honda スマートキーの取り扱いは、下記の点に注意してください。
- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。



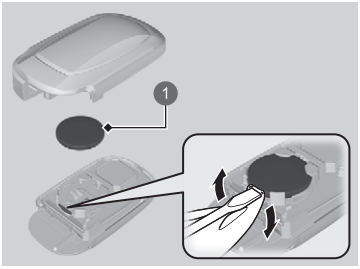
ボタン電池 CR2032

1. ボタンを押しながら、内蔵キーを取り出す。

❶ ボタン
❷ 内蔵キー



2. カバーを外す。
   ▶ 内蔵キーのグリップを差し込んで回します。
   ▶ カバーに傷が付かないように、グリップに布などを巻いてカバーを取り外します。



3. 電池を取り外す。
   ▶ ケースに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いて電池を取り外します。
4. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。

❶ 電池

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店での交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。
確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

エアコンのお手入れ

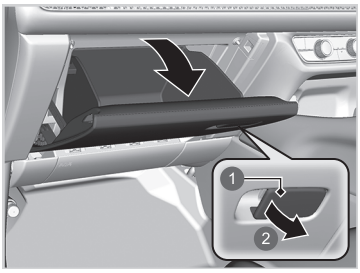
エアクリーンフィルター

■ エアクリーンフィルターの交換時期

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

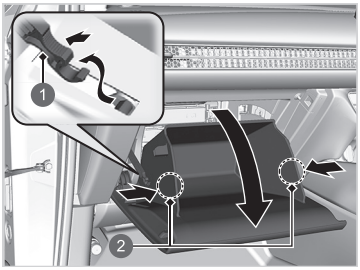
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

■ エアクリーンフィルターの交換



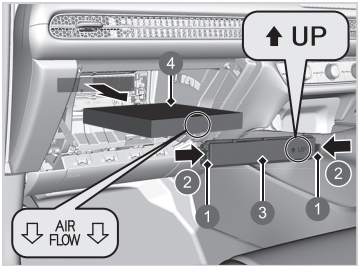
1. グローブボックスを開ける。

❶ ノブ
❷ 引く



2. ダンパーの先端を外す。
3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

❶ ダンパー
❷ ストッパー



4. 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
5. エアクリーンフィルターを引き出す。
6. 新品と交換する。
   ▶「AIR　FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

❶ ツメ
❷ 押す
❸ カバー
❹ エアクリーンフィルター

清掃

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■スーパーUV カット /IR カットドアガラスのお手入れ

前席ウィンドー（ドアガラス）の車内側にUV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

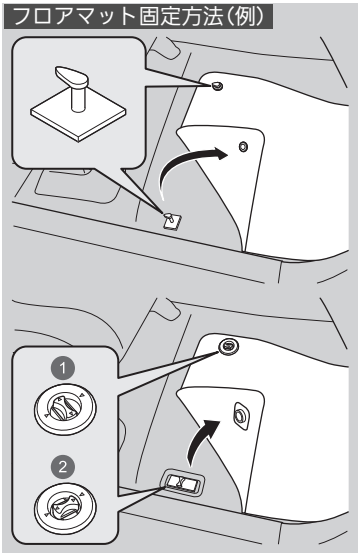
フロントガラスは、ガラスの内側にアンテナ線が装着されています。
リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。
傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

UV カット膜や IR カット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

■ フロアマット



運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。

フロアアンカーで固定されているフロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

❶ 解錠
❷ 固定

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。
後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

■ 本革* のお手入れ

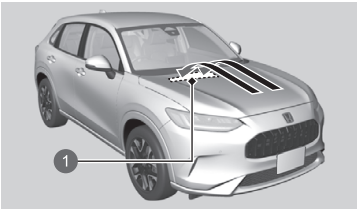
塵やほこりを掃除機や乾いた布で取り除いてください。
ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布を固く絞り、洗剤分をきれいに拭き取ります。乾いた布で水分を拭き取り、風通しをよくして日陰で乾燥させます。濃色のデニムなど、衣類の染料が本革に移ってしまうことがあります。
汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

故意にエンジンルームや空気取り入れ口に水をかけないでください。
電装品などに水がかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。



❶ 空気取り入れ口

洗車するときは、運転席ドア(フューエルリッド)を施錠してください。
フューエルリッド付近に水をかけるとフューエルリッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。

ワイパーアームを起こす場合は、ワイパーアームをワイパーメンテナンスポジションにセットしてください。

➡ **フロントワイパーブレードの交換** P.281

■ 洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■ 自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- オートワイパー装備車は、ワイパースイッチを OFF にする

■ 高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
  ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- カメラやカメラ周辺には、直接水をかけない
  ▶ レンズ内に水が入り、故障の原因となります。

■ ワックスをかけるとき

ワックスは、月に 1 回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

■ バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラス* について

前席ウィンドー(ドアガラス)にはっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

はっ水ガラス装備車

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取りなどを行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。
洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

この車専用のホイールをお使いください。

専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。

変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

■ ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。
これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。
また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 親水ミラー* のお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
   ▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5 ～ 9 時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

アクセサリーと改造

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
  また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品には下記のマークが付いています。

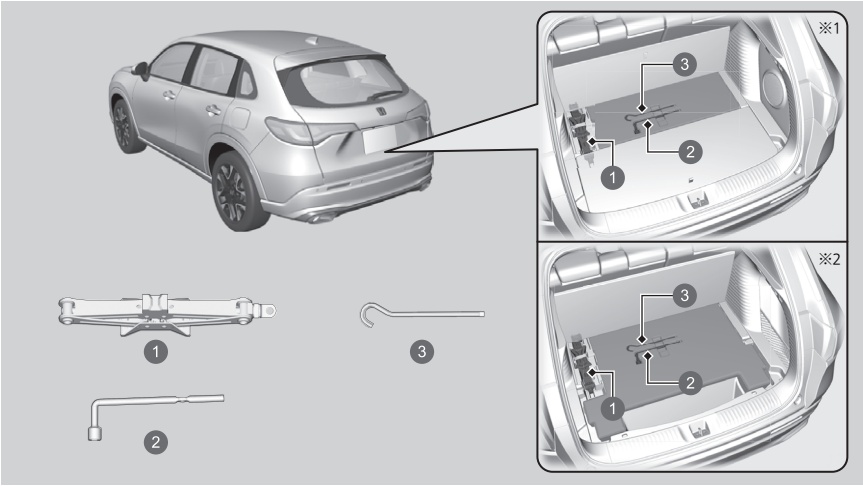
HONDA
GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒

工具の種類



❶ ジャッキ（別売り）
❷ ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）（別売り）
❸ ジャッキハンドルバー（別売り）

※1：パーセルカバー装備車
※2：パーセルカバー非装備車

工具類はカーゴスペース内に収納されています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➡ **発炎筒** P.8

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたとき

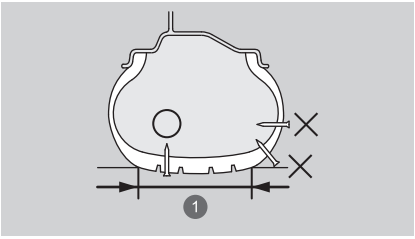
パンクしたタイヤの応急修理

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションを P にする。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



❶ 接地面

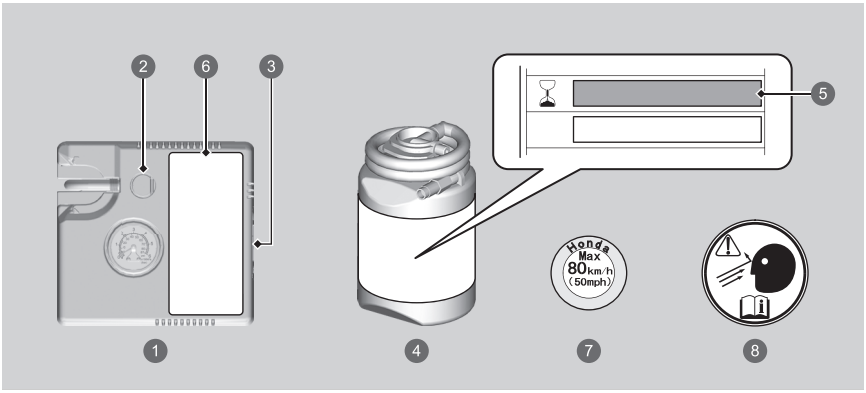
釘やネジなど	直径 4mm 以下 ○
	直径 4mm より大きい ×

- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

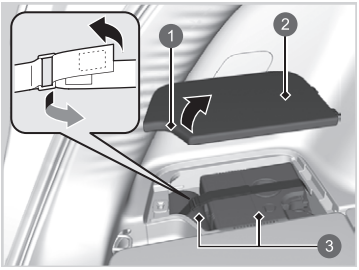
タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。

抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■ タイヤ応急修理の準備



❶ コンプレッサー
❷ 減圧ボタン
❸ スイッチ
❹ タイヤパンク応急修理剤
❺ 有効期限年月日〇〇／〇〇／〇〇
日　月　年
❻ ラベル
❼ 速度制限シール
❽ タイヤパンク応急修理剤注入済みシール

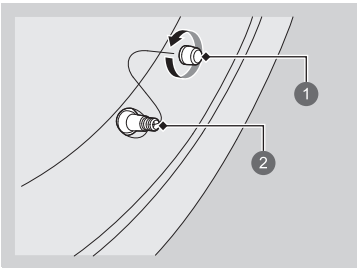


1. カーゴスペース左側の取っ手を持ち上げ、リッドを外す。
2. マジックファスナーを外し、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

❶ 取っ手
❷ リッド
❸ タイヤパンク応急修理キット

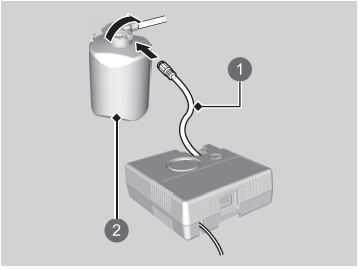
応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属のラベルをお読みください。

■ 応急修理剤とエアの注入



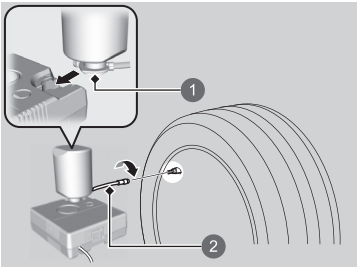
1. バルブからバルブキャップを取り外す。

❶ バルブキャップ
❷ バルブ



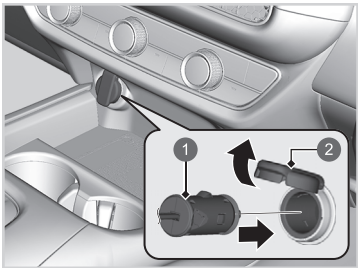
2. 応急修理剤のボトルをよく振る。
3. ボトルにコンプレッサーホースをきつく締め付ける。

❶ コンプレッサーホース
❷ ボトル



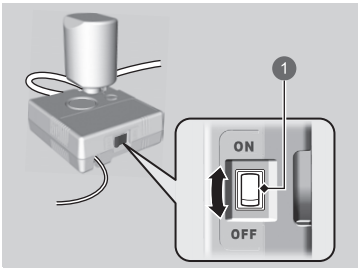
4. コンプレッサーにボトルキャップを取り付ける。
5. バルブにボトルホースをきつく締め付ける。

❶ ボトルキャップ
❷ ボトルホース



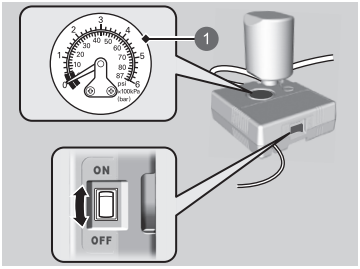
❶ 電源プラグ
❷ アクセサリーソケット

6. コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P.134
7. パワーシステムを起動する。
   ➔ **一酸化炭素について** P.49



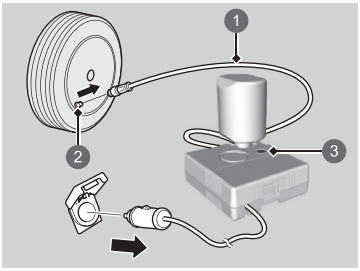
❶ スイッチ

8. コンプレッサーのスイッチを ON にする。
   ▶ コンプレッサーはタイヤに応急修理剤とエアを注入し始めます。
   ▶ 応急修理剤の注入が完了すると、エアのみ注入されます。



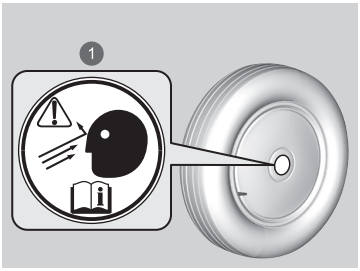
❶ 空気圧計

9. 指定の空気圧に達したら、コンプレッサーの電源を OFF にする。
   ▶ コンプレッサーの空気圧計を確認してください。
10. コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットから外す。



❶ ボトルホース
❷ バルブ
❸ 減圧ボタン

11. タイヤバルブからボトルホースを外しバルブキャップを取り付ける。
    ▶ ボトルホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。
12. コンプレッサーからボトルを外す。
13. 減圧ボタンを押して、空気圧計が 0 kPa になるまでエアを抜く。



❶ タイヤパンク応急修理剤注入済みシール

14. 修理が完了したタイヤに、タイヤパンク応急修理剤注入済みシールを貼る。
    ▶ ホイールの平らな部分に貼ってください。
15. タイヤパンク応急修理キットをカーゴスペースに格納する。

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。

外気温が氷点下以下のときは応急修理剤は容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス
15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。

コンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

コンプレッサーホースを取り付けるときは、コンプレッサーの電源を OFF にしてください。

コンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえます。

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

指定空気圧は、運転席側横の車体にある空気圧ラベルを確認してください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

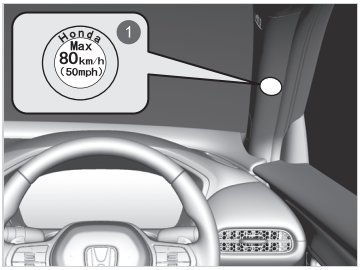
アドバイス

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- コンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、コンプレッサーが冷えてからお使いください。

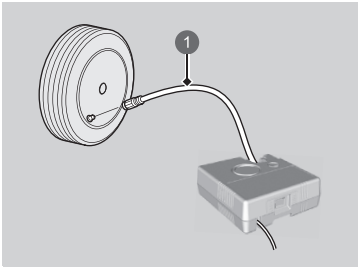
タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

■ 点検走行



❶ 速度制限シール

1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
   ▶法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5km走行したあと安全な場所に車を停める。



❶ コンプレッサーホース

4. タイヤのバルブにコンプレッサーホースをきつく締め付ける。
5. コンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を測定する。
   - 空気圧が 130kPa 未満の場合:
     応急修理剤では修理はできません。
     運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
   - 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
     指定空気圧:
     前輪:230kPa
     後輪:220kPa

- 空気圧が 130kPa 以上で下記以下のとき:
  前輪:230kPa
  後輪:220kPa
  コンプレッサーを使って指定空気圧まで高める。
  Honda販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

▶ 高速道路では80km/h以下で、法定速度を守って指定のHonda販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

6. タイヤバルブからコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
7. 減圧ボタンを押して、圧力計が 0kPa になるまでエアを抜く。
8. キットを車両に戻す。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

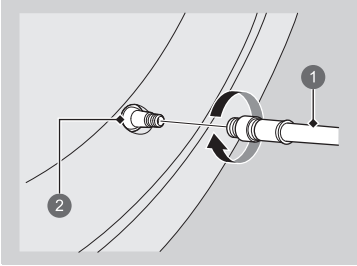
ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

走行前に、コンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

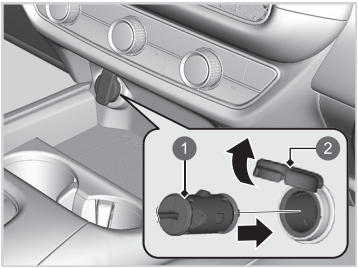
■ タイヤ空気圧の補充

装備されているコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



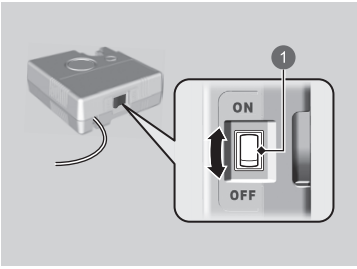
❶ コンプレッサーホース
❷ バルブ

1. コンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. バルブにコンプレッサーホースを確実に取り付ける。



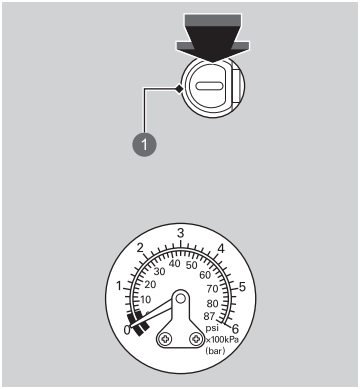
❶ 電源プラグ
❷ アクセサリーソケット

5. コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P.134
6. パワーシステムを起動する。
   ➔ **一酸化炭素について** P.49



❶ スイッチ

7. コンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。



❶ 減圧ボタン

8. コンプレッサーのスイッチを OFF にする。
   ▶ コンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
   ▶ もし空気圧が高ければ、減圧ボタンを押して減圧します。
9. パワーシステムを停止し、コンプレッサーの電源コードの電源プラグを、アクセサリーソケットから外す。
10. タイヤバルブからコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
11. キットを車両に戻す。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、パワーシステムを起動したままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

コンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえます。

アドバイス

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

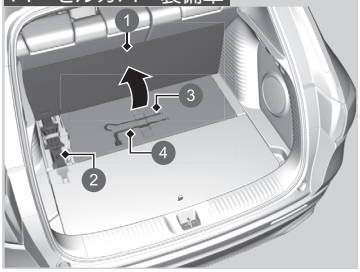
- コンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、コンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、コンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、コンプレッサーの電源をOFFにしてください。

ジャッキの取り扱い

ジャッキのかけかた

パーセルカバー装備車



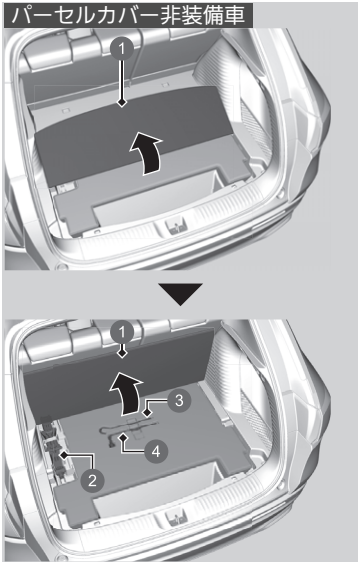
❶ カーゴリッド
❷ ジャッキ(別売り)
❸ ジャッキハンドルバー
(別売り)
❹ ジャッキ ハンドル(別売り)

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. パーキングブレーキをかける。
3. シフトポジションを P にする。
4. パワーモードを OFF モードにする。

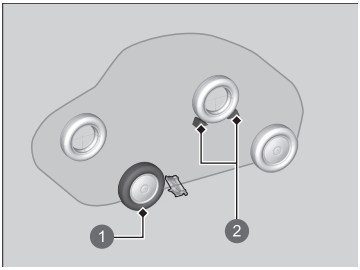
パーセルカバー装備車

5. カーゴリッドを開ける。

パーセルカバー非装備車



❶ カーゴリッド
❷ ジャッキ(別売り)
❸ ジャッキハンドルバー
(別売り)
❹ ジャッキ ハンドル(別売り)



❶ 交換タイヤ
❷ 輪留め

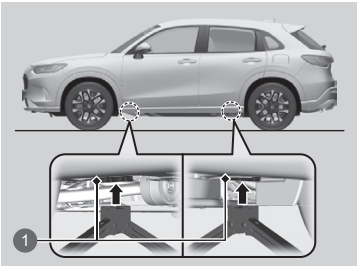
パーセルカバー非装備車

5. カーゴリッドを開ける。
▶ 図のように折りたたんでください。

共通

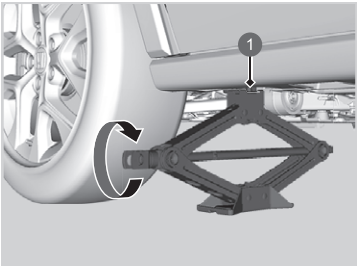
6. マジックファスナーを外し、ジャッキ(別売り)を取り出す。
7. ジャッキハンドルバー(別売り)、ジャッキハンドル(別売り)を取り出す。

8. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。



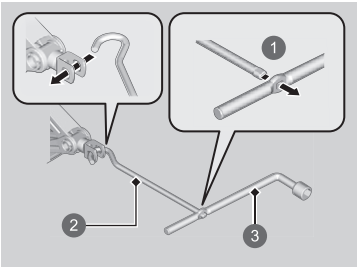
9. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

❶ ジャッキポイント



10. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

❶ ジャッキポイント



11. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

❶ 奥まで差し込む
❷ ジャッキハンドルバー（別売り）
❸ ジャッキハンドル（別売り）

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

この車には、ジャッキが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車専用のジャッキをお使いください。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

パワーシステムが起動しない

パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯しない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「外気温が低いために起動できません　パワーモードを OFF にしてお待ちください」と表示される	ガレージ内で保管するなど、高電圧バッテリーが極低温状態にならないようにしてください。 必要に応じて Honda 販売店に相談してください。
	「キーの Honda エンブレムでスイッチに触れてください」と表示される ▶ Honda　スマートキーの作動範囲を確認します。	➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P.314
	トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション異常　停車時はパーキングブレーキを確実にかけてください」とメッセージが表示されているとき	➡ **トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した** P.324
シフトポジションの位置を確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	シフトポジションを P にしてください。

項目	状況	対処のしかた
パワーシステム起動の手順を実行する	もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみてください。	➔ **パワーシステムの起動** P.145
イモビライザーシステム表示灯を確認する	イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	➔ **イモビライザーシステム** P.100 ➔ **イモビライザーシステム表示灯** P.59
ヒューズを確認する	ヒューズが切れている	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ヒューズの点検と交換** P.329

以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

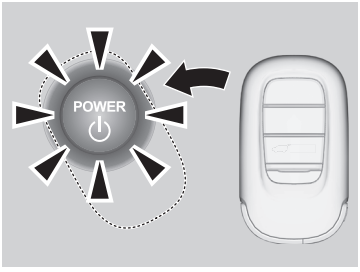
➔ **ジャンプスタートの方法** P.316

状況によっては、緊急時のパワーシステム起動方法を行うことで、一時的にパワーシステムを起動することができます。

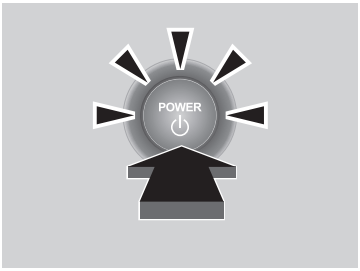
➔ **緊急時のパワーシステム起動方法** P.315

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーの Honda エンブレムでスイッチに触れてください」とメッセージが表示されるか、POWER が点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。
以下の手順でパワーシステムを起動してください。



1. POWER を押す。
   ▶ ブザーが鳴り、POWER が約30秒間点滅します。
2. POWER が点滅している間に、Hondaスマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
   ▶ ブザーが鳴り、POWER が約10秒間点灯します。



3. POWER が点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、POWER を押す。
   ▶ READY 表示灯が点灯します。
   ▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のパワーシステム起動方法

通常のパワーシステムの起動方法で、パワーシステムが起動しない場合は、次の操作でパワーシステムが起動する場合があります。
緊急時など必要な場合以外は、この操作をしないでください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. シフトポジションが P であることを確認し、パワーモードをアクセサリーモードにする。
3. ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、POWER を約 15 秒以上押し続ける。

上記の操作でパワーシステムが起動できてもシステムの異常が考えられます。
ただちに Honda 販売店で点検をうけてください。

緊急時のパワーシステム停止方法

POWER スイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください:

- POWER を約 2 秒間押す。
- POWER を連続して 3 回押す。

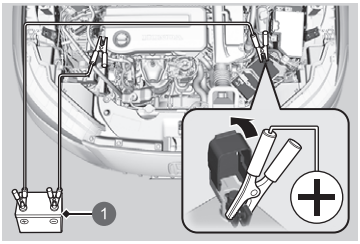
このときハンドルはロックしません。

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
車が停止すると、自動的にシフトポジションが P になり、パワーモードが OFF モードになります。
緊急時など必要な場合以外は、走行中に POWER を押さないでください。
走行中に POWER を押すとブザーが鳴ります。

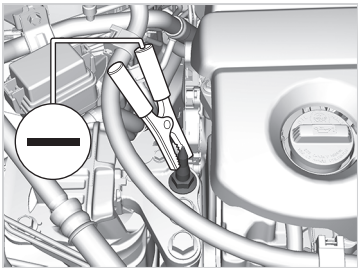
ジャンプスタートの方法

■ 処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



❶ 救援車のバッテリー



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
   ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結した12Vバッテリーでジャンプスタートすると、12Vバッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12Vバッテリーの性能が低下します。
パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

12Vバッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■ システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の12Vバッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12Vバッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
   ▶ READY表示灯が点灯すれば走行可能です。
   ▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA　の警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムをOFFにして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
   ▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12Vバッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12Vバッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12Vバッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda販売店で12Vバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

12V バッテリーを外して再接続した後、
POWER を押してパワーモードを ON にすると、渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯(オレンジ)と安全支援情報警告灯(オレンジ)、VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯、ブレーキシステム警告灯(オレンジ)が点灯する場合があります。
このとき車速 20km/h 以上でしばらく走行すると、これらの警告灯は消灯します。
消灯しないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

オーバーヒート

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。
- マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示される
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」が表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

パワーシステムが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示された場合、加速しにくくなります。また、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示される

パワーシステムが高温になると、マルチインフォメーションディスプレイに「パワーシステム高温 急発進・急加速・高速走行を避けてください」とメッセージが表示されます。

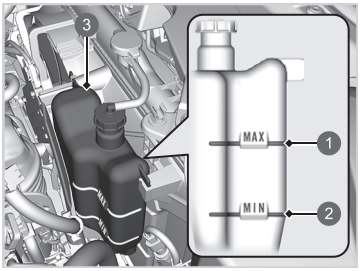
1. ただちに車を安全な場所に停める。
   ▶ パーキングブレーキをかけて、シフトポジションを P にします。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
2. パワーシステムを起動したまま、警告メッセージが消えるのを待つ。
   ▶ 警告メッセージが消えない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示されたとき

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
   ▶ パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
   ▶ **蒸気が出ていない場合:** パワーシステムを起動したままボンネットを開ける。
   ▶ **蒸気が出ている場合:** パワーシステムを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



❶ 上限
❷ 下限
❸ リザーブタンク

1. 冷却ファンの作動を確認し、マルチイン フォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」のメッセージが表示されなく なったらパワーシステムを停止する。
   ▶冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止します。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
   ▶冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動しマルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」の表示が消えている場合は、運転を再開します。表示が消えないときは、Honda販売店に修理を依頼します。

アドバイス

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

警告灯の点灯 / 点滅

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された



■表示の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると表示されます。

■表示されたらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. パワーシステムを停止させ、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
   ▶必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動する。
   ▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた:**運転を再開してください。
   ▶**「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない:**パワーシステムを停止させ、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

12V バッテリー充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

12V バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

安全な場所に停車して、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。

パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。

「ブレーキ性能低下」の警告メッセージが表示された



■表示の理由

ブレーキ性能が低下すると表示されます。

■表示されたらすぐにすること

速度を落として注意して運転してください。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由
- エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。
- エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは
高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは
枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯 / 点滅した



■点灯の理由
- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること
- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

■点滅の理由
電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅します。

■点滅したときは
パーキングブレーキを使用せずに、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、回生ブレーキを用いて減速を手助けするために減速セレクターの[−]を引いてください。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。
ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキシステム警告灯（オレンジ）の点灯と同時に点滅した場合は、パーキングブレーキが作動しないことがあります。パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

➡ **ブレーキシステム警告灯（オレンジ）の点灯と同時にブレーキ警告灯（レッド）が点灯または点滅した** P.323

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS システム、ドライバー注意力モニターが異常のときに点灯します。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する。
  その後も走行中に点灯する場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
- マルチインフォメーションディスプレイに「走行しないでください」が表示した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。

ブレーキシステム警告灯（オレンジ）の点灯と同時にブレーキ警告灯（レッド）が点灯または点滅した



（オレンジ）

■ブレーキシステム警告灯（オレンジ）の点灯と同時にブレーキ警告灯（レッド）が点灯または点滅したときは

手動または自動でパーキングブレーキを解除してください。

➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.239



（レッド）

- ブレーキ警告灯（レッド）が同時に点灯または点滅し続けているときは、ただちに安全な場所に停車し Honda 販売店へご連絡ください。
  ▶ 車両が動き出さないように、シフトポジションを [P] にしてください。

- ブレーキ警告灯（レッド）だけが消灯したときは、パーキングブレーキを使用せずに、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが解除できなくなることがあります。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点灯しているときは、パーキングブレーキが作動しています。

ブレーキ警告灯(レッド)が同時に点滅しているときは、システムの点検中でパーキングブレーキが作動していない可能性があります。

トランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示した



■点滅の理由
トランスミッションが故障すると表示します。

■点滅したらすること
- ただちにHonda販売店で点検を受けてください。

システムを起動できないことがあります。

停車するときは、確実にパーキングブレーキをかけてください。

走行できないときは、専門業者に連絡してください。

非常時のけん引 P.330

ヒューズ

ヒューズの設置場所

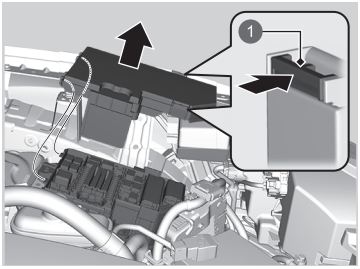
電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■ エンジンルーム内のヒューズボックス

■ヒューズボックス

エンジンルーム内の助手席側にあります。

1. タブを押してフタを開ける。



❶ タブ

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		バッテリー	175A
		—	(40A)
		—	40A
		ヒューズボックス オプション	60A
2	—	—	40A
		ヒューズボックス オプション 2	40A
	—	—	30A
		ヒューズボックスメイン	60A
3	—	—	30A
	—	—	30A
	—	—	70A
		リヤデフロスター	30A
		パワーテールゲート モーター	(40A)
		—	(40A)
		ヒーターモーター	40A

	表示	装備	容量
4		電動サーボブレーキ	40A
		ABS/VSA モーター	40A
		冷却ファン	40A
		P-ACT モーター	30A
		イグニッションメイン	30A
		オプション 6	30A
	—	—	30A
5	—	—	30A
		ワイパー	30A
		EPS	70A
		イグニッションメイン 2	30A
		ABS/VSA FSR	40A
		ヒューズボックス メイン 2	40A
		ウォーターポンプ	40A
6	—	—	—
7	—	—	—
8		オーディオアンプ*	(30A)
9		—	(20A)
10		オーディオサブ*	(7.5A)
11		デアイサー*	(15A)
12	—	—	—
13		ヒーテッドステアリング*	(10A)
14		バッテリー IR	10A

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示		装備	容量
15		オートヘッドライト アジャスター✤	(15A)
16	—	—	—
17		ウォッシャー	15A
18		ホーン	10A
19		バックアップ	15A
20		オーディオ	15A
21		リレーモジュール 1	20A
22		DBW	15A
23		リレーモジュール 2	20A
24		バックアップ FI-ECU	10A
25		IGP	15A
26		DCU	10A
27		LCM L	20A
28		INJ	20A
29		制動灯	10A
30		LCM R	20A
31		イグニッションコイル	15A
32		EVTC	20A
33		非常点滅表示灯	15A
34		IGA	10A
35	—	—	—
36	—	—	—
38		PCU EWP	10A
39		P-ACT DRV	10A
40		IGB	10A
41		IGPS[LAF]	10A
42		IG1 MON2	10A
43	—	—	—
44	—	—	—

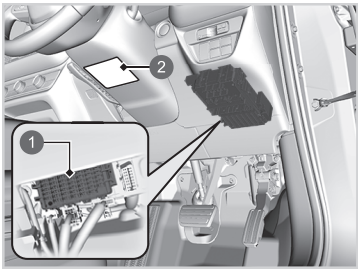
ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 室内運転席側のヒューズボックス

インストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。



❶ ヒューズボックス
❷ ヒューズラベル

■各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		運転席パワーウィンドー	20A
2		助手席パワーウィンドー	20A
3		後席右側パワーウィンドー	20A
4		後席左側パワーウィンドー	20A
5		オプション	10A
6		SRS	10A
7		—	(10A)
8		—	(10A)
9		フロントアクセサリーソケット（フロントコンソール）	20A
10		ドアロック	20A
11		メーター	10A
12		スターターカットリレー	10A
13		オプション 2（リヤワイパー）	10A
14		オプション 6（VB ソレノイド）	10A
15		—	(10A)
16		—	(20A)
17		シフトバイワイヤー	(10A)
18	—	—	—
19	—	—	—
20		—	10A

	表示	装備	容量
21		リヤアクセサリーソケット（カーゴエリア）	20A
22		HONDA スマートキーシステム	10A
23		—	(10A)
24	—	—	—
25		IMG	10A
26		SRS	10A
27		ACG	10A
28		ABS/VSA	10A
29		フューエルポンプ	20A
30		左側ドアアンロック	10A
31		右側ドアアンロック	10A
32	—	—	—
33		USB チャージャー	10A
34	—	—	—
35	—	—	—
36		パワーテールゲートクローザー	(20A)
37		—	20A
38		IGA2	(20A)
39		右側ドアロック	10A
40		運転席パワーシート（REC / RR HI）✤	(20A)

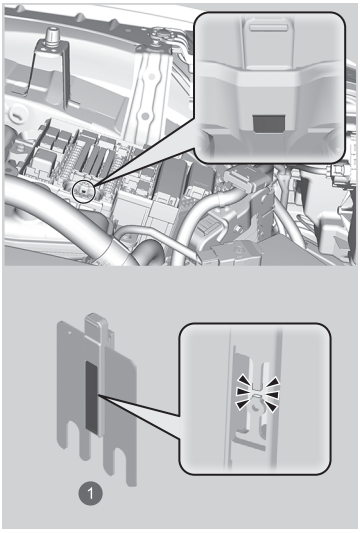
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示		装備	容量
41		運転席パワーシート (SLIDE / FR HI)✤	(20A)
42		IG1 MON	(10A)
43		エアコン	10A
44		デイタイムランニングライト	10A
45		ACC	10A
46		ACC キーロック	10A
47		左側ドアロック	10A
48		フロントシートヒーター✤	20A
49		助手席パワーシート (REC)✤	(20A)
50	—	—	—
51		リヤシートヒーター✤	(20A)
52		AWD✤	(20A)
53		助手席パワーシート (SLIDE)✤	(20A)
54		オプション 1 / フューエルリッド	10A
55	—	—	—
56	—	—	—

コラムカバー下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

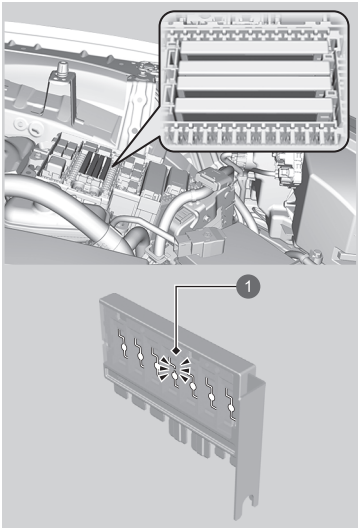
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ヒューズの点検と交換



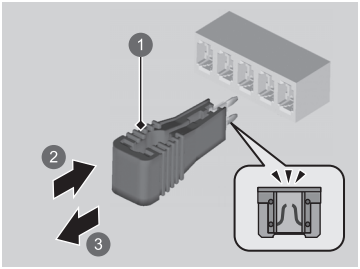
❶ メインヒューズ

1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. エンジンルーム内のヒューズボックスのフタを取り外す。
3. 図の位置からメインヒューズを点検する。
   ▶ ヒューズが切れている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。



❶ 切れているヒューズ

4. メインヒューズ以外の大きいヒューズを点検する。
   ▶ ヒューズが切れている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。



5. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。
   ▶切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

❶ ヒューズプラー
❷ 取り付ける
❸ 外す

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

➡ **ヒューズの設置場所** P.324

エンジンルーム内のヒューズボックスには、フタの裏にヒューズプラーがついています。
ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

けん引

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、AWD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

2WD 車

パーキングブレーキが解除されていることをブレーキ警告灯(レッド)で確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

➡ **電子制御パーキングブレーキ** P.239

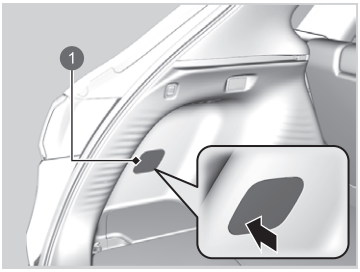
ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

フューエルリッドが解錠できないとき

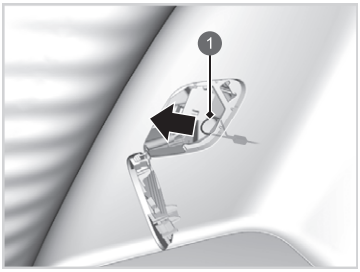
■ 解錠できないときの対処方法

万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



1. テールゲートを開け、カーゴスペース左側のカバーを外す。

❶ カバー



2. 解錠ケーブルを矢印の方向に引く。
   ▶ 解錠ケーブルを引くとフューエルリッドが解錠されます。
3. フューエルリッドを開ける。
   ➡ **給油のしかた** P.270

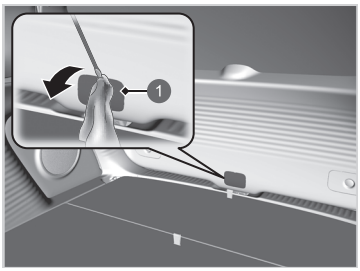
❶ 解錠ケーブル

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

テールゲートが開かないとき

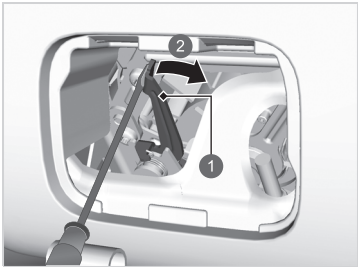
■ 開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
   ▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

❶ テールゲートのリッド



2. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押して開ける。

❶ レバー
❷ 解錠

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

緊急通報

緊急通報とは、事故発生時や急病などの緊急時に、オペレーターがお客様のかわりに警察や消防へ通報するサービスです。

ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

緊急通報はパワーモードが ON モードのときに利用可能です。

オペレーターとの接続は、車両側から終了させることはできません。オペレーターのみが車両との接続を終了することができます。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、オペレーターに接続できない可能性があります。
- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、オペレーターに接続できない可能性があります。
- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

■ 自動通報機能

車両のエアバッグが展開した場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。接続時には車両に関する情報（場所、車両の状態など）がオペレーターに送信されます。

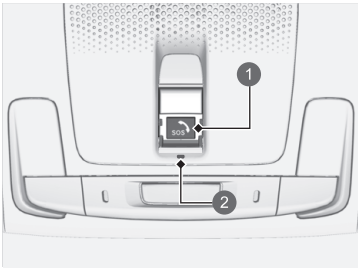
インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

エアバッグが展開しなくても、車両に一定以上の衝撃が加わった場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。

■ 手動通報機能

事故発生時や急病などの緊急時に、緊急通報ボタンを押すことで手動でオペレーターに接続することが可能です。

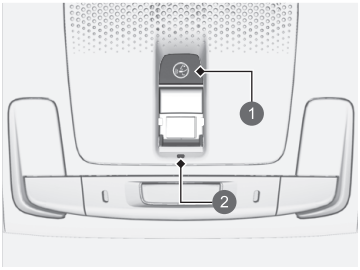


1. 緊急通報ボタンのカバーを開ける。
2. 緊急通報ボタンを押す。
   ▶ オペレーターに接続されます。
   ▶ オペレーターに接続中はインジケーターが緑色に点滅します。

❶ 緊急通報ボタン（カバー付き）
❷ インジケーター

トラブルサポート

トラブルサポートとは、警告灯が点灯した場合や車両トラブルなど、乗車中の困ったときに HondaTotal Care 緊急サポートセンターへ接続して、車の使い方やロードサービスの手配をサポートするサービスです。



パワーモードが ON モードのときにトラブルサポートボタンを押すと、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続します。
   ▶ 接続中はインジケーターが緑色に点滅します。
   ▶ 再度トラブルサポートボタンを押すと接続が終了します。

❶ トラブルサポートボタン
❷ インジケーター

ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。
https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき

インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

Q ブレーキペダルを踏んだら ガタガタと振動した

A

- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

➡ ABS（アンチロックブレーキシステム）（P. 247）

Q 後席ドアが車内から開けられない

A

- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのレバーを解錠の位置にしてください。

Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

- パワーモードをアクセサリー モードにしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？

Q ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴る

A

- ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れていませんか？

➡ 施錠するには（降車時オートドアロック機能）（P. 91）

Q 走行するとブザーが鳴る

A
- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？

Q パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない

A
- ブレーキペダルを踏んでスイッチを操作していますか？

Q アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない

A
- 運転席シートベルトを着用していますか？
- シフトポジションがP、N以外になっていますか？

Q 車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションがPになって車が停止した

A
- 運転席シートベルトを着用していますか？
  運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。
  ➡ **自動パーキング選択制御**（P. 154）

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
  Honda 販売店で点検を受けてください。

Q **レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？**

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

9 資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様

■仕様

名称	ZR-V
排気量	1,993 cm^3
車体形状	4ドアステーションワゴン
乗車定員	5名

■点火プラグ

NGK	DILZKAR7G11Y

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	7.7-14.9 mm
	床板とのすき間	114 mm以上※1 [約196 N(20 kgf)の力]
		112 mm以上※2 [約196 N(20 kgf)の力]
	カーペットとのすき間(参考値)	131 mm以上 [約196 N(20 kgf)の力]

※1： スポーツペダル非装備車
※2： スポーツペダル装備車

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	57 L

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■12V バッテリー

容量 / タイプ	36AH(5)、45AH(20) /46B24R-MF

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5 L

■電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED
ヘッドライト(ハイビーム)	LED
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯 / デイタイムランニングライト / 車幅灯	LED
アクティブコーナリングライト✤	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
マップランプ	LED
アンビエントランプ	LED
カーゴスペース照明灯	LED
バニティミラー照明灯	12V-2W
アンダートレイランプ	LED

■ディファレンシャルオイル

AWD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF-II
規定量	1.247 L(交換時)

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ HEVF-Type 1	2.2 L(交換時)※1
		2.4 L(交換時)※2

※1： 2WD 車
※2： AWD 車

■エンジンオイル

推奨	・Honda ULTRA LEO※1 ・API SN 級以上 0W-20	
規定量	オイル交換時	3.7 L
	オイル、オイルフィルター同時交換時	4.0 L

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	5.72 L (交換時: リザーブタンク 0.62 L 含む)

■タイヤ

サイズ		225/55R18 98H
空気圧 kPa (kgf/cm²)	前輪	230 (2.3)
	後輪	220 (2.2)
リムサイズ		18X7J

ソフトウェアに関する重要なお知らせ

■情報

TCU Open Source License

Free/Open Source Software 情報
この製品は、Free/Open Source Software (FOSS) を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。
https://www.denso.com/global/en/opensource/tcu/honda/

メーター Open Source License

本製品に組み込まれたソフトウェアは、オープンソースソフトウェアを含みます。
オープンソースソフトウェアの詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://www.nippon-seiki.co.jp/business_ic_meter/

索引

数字

12V バッテリーがあがったとき 316
12V バッテリー充電警告灯 53, 321

A

A/C(エアコン) 140, 289
ABS(アンチロックブレーキシステム) 247
ABS 警告灯 54, 247
ACC(アダプティブ・クルーズ・コントロール)
ACC 警告灯 56
ACC 表示灯 61

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ) 175

E

ECON モード表示灯 60
ECON モード 159
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 55, 323

H

Honda SENSING 173
Honda Total Care プレミアム 5
Honda スマートキー 87, 88
緊急時のパワーシステム起動方法 .. 315
緊急時のパワーシステム停止方法 .. 315
電池交換のしかた 288

I

ISOFIX/i-Size 44

L

LKAS(車線維持支援システム) 213
LKAS 警告灯 56
LKAS 表示灯 62

N

NORMAL モード 159
NORMAL モード表示灯 60

P

PGM-FI 警告灯 53, 322
POWER スイッチ 104

S

SNOW モード表示灯 60
SPORT モード 159
SPORT モード表示灯 60
SRS エアバッグ 25
エアバッグシステム警告灯 34, 55

U

USB ジャック(充電専用) 135

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト) 163
VSA OFF 警告灯 55, 165
VSA 警告灯 55, 164

W

W(ワット)数 339

あ

アームレスト 127
明るさ設定 79
アクセサリー 296
アクセサリーソケット 134
アクティブコーナリングライト 106
アジャイルハンドリングアシスト 165
アダプティブドライビングビーム 111

アダプティブドライビングビーム
表示灯 59
安全支援情報 77
安全支援情報警告灯(オレンジ) 57
安全支援情報表示灯
(グリーン / グレー) 63
路外逸脱制御機能警告灯
(オレンジ) 56
路外逸脱抑制機能操舵アシスト
一時停止警告灯 56
安全なドライブのために 16
安全に関する表示 2
安全のための確認事項 16
アンチロックブレーキシステム(ABS)
ABS 警告灯 54, 247
アンビエントメーター 65

い

一酸化炭素の危険性 49
イモビライザーシステム 100
イモビライザーシステム表示灯 59
インフォメーション表示灯 61

う

ウィンドウォッシャー
ウィンドウォッシャー液の補給 278
ウィンドウォッシャースイッチ 115
ウィンドーの開閉 102
ウェアインジケーター 285
運転
シフト操作 151
パワーシステムの起動 145
ブレーキ操作 239

え

エアクリーナエレメント 339
エアコン 140, 289
エアクリーンフィルター 289
オートエアコンの使いかた 140
エアバッグ 25
SRS エアバッグ 25
エアバッグシステム警告灯 33, 55
エアバッグのお手入れ 34
サイドエアバッグ 30
サイドカーテンエアバッグ 32
ニーエアバッグ 28
エマージェンシーストップシグナル 248
エンジンオイル 277
推奨エンジンオイル 277, 339
油圧警告メッセージ 320
エンジン作動表示 71
エンジンルーム内のメンテナンス 275
ウィンドウォッシャー液の補給 278
エンジンルーム内のメンテナンス
項目 275
推奨エンジンオイル 277, 339
ボンネットを開ける 276
冷却水の点検と補給 320
エンジン冷却水 340

お

応急修理剤(タイヤパンク) 299
オートエアコン 140
オートハイビーム 108
オートハイビーム表示灯 59
オートマチックブレーキホールド 243
オートマチックブレーキホールド
システム表示灯 61
オートマチックブレーキホールド
表示灯 61
オートワイパー 116
オーバーヒート 318
オドメーター 65

か

カーゴフック 132
カーゴフロアボックス 131

外気温表示 66
鍵(かぎ) 87
カスタマイズ機能 82
ガソリン 270

き

キー
Honda スマートキー 87, 88
Honda スマートキーの電池が切れたとき 314
解錠してもドアが開かない 336
キーの種類と機能 87
キーレスエントリー 92
後席ドアが開かない 336
電池交換のしかた 288
内蔵キー 88
キーレスエントリー 92
キックダウン 151
給油 270
給油のしかた 270
指定燃料 270, 339
燃料計 64
燃料残量警告灯 54
緊急通報 333

く

空気圧 340
空気圧測定器による点検 284
グラブレール 9
クリープ現象 151
クルーズコントロール表示灯（ホワイト / グリーン） 62
車の改造 296
グローブボックス 128

け

経過時間表示 74
計器 50
警告灯 52
12V バッテリー充電警告灯 53, 321
ABS 警告灯 54, 247
EPS システム警告灯 55, 323
PGM-FI 警告灯 53, 322
VSA OFF 警告灯 55
VSA 警告灯 55
安全支援情報警告灯(オレンジ) 57
エアバッグシステム警告灯 34, 55
シートベルト非着用警告灯 18, 54
車線維持支援システム(LKAS)警告灯（オレンジ） 56
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)警告灯（オレンジ） 56
衝突軽減ブレー キ(CMBS)警告灯 56
トランスミッション警告灯 54, 324
燃料残量警告灯 54
パーキングセンサー警告灯 55
パワーシステム警告灯 53
ブレーキ警告灯(レッド) 52, 322
ブレーキシステム警告灯（オレンジ） 53, 323
路外逸脱制御機能警告灯（オレンジ） 56
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 56
警告メッセージ 81
トランスミッション異常 324
油圧警告メッセージ 320
けん引 330
減速セレクター 156

こ

交換
後退灯電球 280
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球 279
制動灯電球 279

索引

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯
電球 279
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯
電球 279
デイタイムランニングライト / 車幅灯
電球 279
ハイマウントストップランプ電球 .. 280
バニティミラー照明灯電球 280
番号灯電球 280
尾灯電球 279
ヒューズ 324
ヘッドライト電球 279
ワイパーブレードラバー 281
工具 298
航続可能距離 73
後退出庫サポート 255
後退灯 280
高電圧バッテリー残量計 65
高電圧バッテリーの特性 170
後面方向指示器 / 後面非常点滅
表示灯 279
コートフック 130
ご使用時の注意 171
コンビニフック 130

さ

サイドアンダーミラー 120
サイドエアバッグ 30
サイドカーテンエアバッグ 32
サングラスボックス 132

し

シートの調節 120
アームレスト 127
フロントシート 120
ヘッドレスト 125
リヤシート 124
シートヒーター 138, 139
シートベルト 17
アンカーポイント 25
シートベルト使用状況表示 77
シートベルトの着用 20
シートベルトの点検 24
シートベルト非着用警告灯 18, 54
シートベルトプリテンショナー 18
シートベルトリマインダー 18
妊娠中のかたのシートベルト
着用のしかた 24
シートベルト使用状況表示 77
室内灯 128
指定燃料 270, 339
シフト操作 151
シフトポジション表示灯 60
車外の清掃 293
車線維持支援システム(LKAS) 213
車線維持支援システム(LKAS)警告灯
(オレンジ) 56
車線維持支援システム(LKAS)表示灯
(ホワイト / グリーン) 62
車速 / 経過時間 73
ジャッキ 310
車内の清掃 291
車幅灯 105, 279
車両接近通報装置 158
車両データの記録について 3
ジャンプスタート 316
渋滞運転支援機能(トラフィックジャム
アシスト) 220
渋滞追従機能付 ACC(アダプティブ
クルーズコントロール) 197
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ
コントロール(ACC) 197
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ
コントロール(ACC)警告灯
(オレンジ) 56
渋滞追従機能付アダプティブクルーズ
コントロール(ACC)表示灯
(ホワイト / グリーン) 61

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)/ トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)表示 67
充電専用 USB ジャック 135
収納装備品 128
瞬間燃費表示 73
仕様 339
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 175
ショルダーアンカー 21
親水ミラー 295

す

スイッチ
POWER スイッチ 104
SPORT モード 159
ステアリングヒーター 137
ドアミラー 119
パーキングブレーキスイッチ 239
フロントガラス熱線スイッチ 118
ライトスイッチ 105
リヤデフロスタースイッチ 117
ワイパー/ ウォッシャー 114
ステアリング 118
ステアリングスイッチ 174
ステアリングヒーター 137
スノータイヤ 287
スピードメーター 64

せ

清掃 291
制動灯 279
セキュリティシステム 100
イモビライザーシステム 100
セキュリティアラームシステム 101
設定 81
先行車発進お知らせ機能 227
センターコンソールボックス 129

そ

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯 279
ソナーセンサー 238
ソフトウェア 340

た

タイヤ 284
ウェアインジケーター 285
指定空気圧 340
タイヤの点検 284
タイヤのローテーション 286
タイヤパンク応急修理キット 299
冬期のタイヤ 287
パンク 299
タイヤチェーン 287

ち

チェーン 287
チャイルドシート 35
ジュニアシート 48
乳児のチャイルドシート 36
幼児のチャイルドシート 37
チャイルドプルーフ 94
駐停車操作 249

て

ディファレンシャルオイル 339
データの取り扱いについて 3
テールゲートの開閉 94
テールゲートが開かないとき 332
パワーテールゲートの開閉 95
デフロスター
リヤデフロスター 117
点火プラグ 339
電子制御パーキングブレーキ 239
電子制御ブレーキアシスト 248
電池交換 288

と

ドアの施錠と解錠 87
解錠してもドアが開かない 336
キーの種類と機能 87
キーレスエントリー 92
後席ドアが開かない 336
車外でのドアの施錠 / 解錠 90
車内での施錠 / 解錠 93
チャイルドプルーフ 94
ドアハンドル 90, 93
ドアミラー 119
冬期のタイヤ 287
スノータイヤ 287
タイヤチェーン 287
時計 67, 86
ドライバー注意力モニター 75
ドライブモードスイッチ 159
トラフィックジャムアシスト（渋滞運転支援機能） 220
トラブルサポート 334
トラブルシューティング
パンクした 299
12V バッテリーがあがったとき 316
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない 337
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 336
オーバーヒートした 318
解錠してもドアが開かない 336
警告灯が点灯 / 点滅した 320
けん引してもらいたい 330
後席ドアが開かない 336
走行するとブザーが鳴る 337
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 337
パワーシステムが起動しない 313
パンクした 299
ヒューズが切れた 324
ブレーキを踏むと音がする 337
ブレーキを踏むと振動する 336
トランスミッション 151
トランスミッション警告灯 54, 324
トランスミッションフルード 339
トリップメーター 72
ドリンクホルダー 129

な

ナビゲーション 74

に

ニーエアバッグ 28

ね

燃料 270, 339
燃料計 64
燃料残量警告灯 54

は

パーキングセンサーシステム 251
パーセルカバー 133
排気ガスの危険性 49
ハイビーム 106
電球の交換 279
ハイビーム表示灯 59
ハイマウントストップランプ 280
ハザードスイッチ 6
発炎筒 8, 298
バッテリー
12V バッテリーがあがったとき 316
12V バッテリー充電警告灯 53, 321
容量 / タイプ 339
バニティミラー 9
パワーウィンドーの開閉 102
パワーシステム警告灯 53

パワーシステムの起動 145
12V バッテリーがあがったとき ... 316
パワーシステムが起動しない 313
パワーテールゲート 95
パワーフロー 71
パンク 299
番号灯 280
ハンドル 118
ハンドル位置調整レバー 118

ひ

ビークルスタビリティアシスト（VSA） 163
ヒーテッドドアミラー 117
非常点滅表示灯スイッチ 6
尾灯 279
ヒューズ 324
ヒューズの設置場所 324
ヒューズの点検と交換 329
標識認識機能 230
標識認識機能表示 66
表示設定 68, 80
表示灯 58
ECON モード表示灯 60
EV 表示灯 60
NORMAL モード表示灯 60
READY 表示灯 60
SNOW モード表示灯 60
SPORT モード表示灯 60
アダプティブドライビングビーム表示灯 59
安全支援情報表示灯(グリーン / グレー) 63
イモビライザーシステム表示灯 59
インフォメーション表示灯 61
オートハイビーム表示灯 59
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 61
オートマチックブレーキホールド表示灯 61
クルーズコントロール表示灯（ホワイト / グリーン） 62
減速セレクター表示灯 60
シフトポジション表示灯 60
車間距離設定表示灯 62
車線維持支援システム(LKAS)表示灯（ホワイト / グリーン） 62
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)表示灯（ホワイト / グリーン） 61
衝突軽減ブレー キ(CMBS)表示灯（グレー） 62
セキュリティアラームシステム作動表示灯 59
ハイビーム表示灯 59
ヒルディセントコントロール表示灯 61
方向指示器 / 非常点滅表示灯 58
ライト点灯表示灯 59
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 62
ヒルディセントコントロール 162
ヒルディセントコントロール表示灯 61

ふ

ブースターケーブル 316
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 336
走行するとブザーが鳴る 337
踏み間違い衝突軽減システム 183
フューエルリッド
フューエルリッドが解錠できないとき 331
フューエルリッドの開けかた 270
ブラインドスポットインフォメーション 166

ブレーキシステム 239
ABS(アンチロックブレーキシステム) 247
アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが自動で解除できない ... 337
エマージェンシーストップシグナル 248
オートマチックブレーキホールド .. 243
電子制御パーキングブレーキ 239
電子制御ブレーキアシスト 248
パーキングブレーキスイッチを押してもパーキングブレーキが解除できない 337
フットブレーキ 242
ブレーキ警告灯(レッド) ... 52, 322, 323
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 53, 323
ブレーキを踏むと音がする 337
ブレーキを踏むと振動する 336
ブレーキフルード 339
ブレーキ警告灯(レッド) 52, 322
ブレーキシステム警告灯(オレンジ) 53, 323
フロントガラス熱線スイッチ 118
フロントシート 120
シートヒーター 138
フロントシートヘッドレスト 126
フロントワイドビューカメラ 236

へ

平均車速表示 74
平均燃費表示 73
ヘッドライト 105, 106, 295
アクティブコーナリングライト 106
アダプティブドライビングビーム .. 111
オートハイビーム 108
電球の交換 279
ハイビーム表示灯 59
ライト点灯表示灯 59
ヘッドライトレベリングダイヤル 107
ヘッドレスト
フロントシート 126
リヤシート 126

ほ

ホイールサイズ 340
方向指示器(ウィンカー)
方向指示器 / 非常点滅表示灯 58
ホーンスイッチ 7
歩行者事故低減ステアリング 193

ま

マルチインフォメーションディスプレイ 67, 70
表示の切り換えかた 70
マルチビューカメラシステム 259

み

ミラー 119
自動式防眩ミラー 119
ドアミラー 119
バニティミラー 9
ルームミラー 119

め

メーター 64
アンビエントメーター 65
オドメーター 65
外気温表示 66
高電圧バッテリー残量計 65
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)/ 車線維持支援システム(LKAS)/ トラフィックジャムアシスト(渋滞運転支援機能)表示 67
スピードメーター 64

チャージメーター表示(CHARGE)/減速度表示(DECEL) 65
燃料計 64
標識認識機能表示 66
マルチインフォメーションディスプレイ 67, 70
メンテナンス 273
Honda スマートキー 288
エアコンのお手入れ 289
清掃 291
タイヤの点検と整備 284
ボンネット内のメンテナンス 275
メンテナンスに関する注意事項 274
メンテナンスを安全に行うために 273
ライト類の点検と整備 279
ワイパーブレードラバーの点検と整備 281

ゆ

油圧警告メッセージ 320

ら

ライトスイッチ 105
アダプティブドライビングビーム 111
オートハイビーム 108
ハイビーム表示灯 59
ライト点灯表示灯 59
ライト類の点検と整備 279
後退灯電球 280
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球 279
制動灯電球 279
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球 279
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球 279
デイタイムランニングライト / 車幅灯電球 279
ハイマウントストップランプ電球 280
バニティミラー照明灯電球 280
番号灯電球 280
尾灯電球 279
ヘッドライト電球 279
ラジエーター 318

り

リアシートリマインダー 125
リアルタイム AWD(インテリジェント・コントロール・システム) 166
リアワイドカメラシステム 258
リザーブタンク 320
リムサイズ 340
リヤシートヒーター 139
リヤシート 124
リヤデフロスタースイッチ 117
リヤワイパー 117

る

ルームミラー 119

れ

冷却水 320, 340
オーバーヒート 318
補給 320

ろ

ロービーム 105
電球の交換 279
路外逸脱制御機能警告灯(オレンジ) 56
路外逸脱抑制機能 188
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 56
路外逸脱抑制機能表示灯(グレー) 62

わ

ワイパー/ ウォッシャー 114

ワイパーブレードラバー 281
ワイヤレス充電器 136

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。
Honda ホームページ　https://www.honda.co.jp
（Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。
https://shopsearch.honda.co.jp/auto/area/
※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名